

国道 438 号道路改築事業（飯山工区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告
第 3 冊

東坂元秋常遺跡Ⅱ

2012.10

香川県教育委員会

序文

本書は、国道 438 号道路改築工事に伴い発掘調査を実施した香川県丸亀市飯山町の東坂元秋常遺跡の報告を収録した第 3 冊です。

今回報告する地区では、平安時代～鎌倉時代の集落跡が見つかりました。そのうち鎌倉時代後半の建物には、周囲に溝を持ち、銅の鑄造を行っていたと考えられる建物があり、県内の中世の鑄造のあり方を示す数少ない事例であることがわかりました。

本報告書が、香川県の歴史研究の資料として広く活用されますとともに、埋蔵文化財に対する理解と関心が一層深められる一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から出土品の整理・報告に至るまでの間、関係機関並びに地元関係者各位には多大なご援助とご協力をいただきました。ここに深く感謝申し上げますとともに、今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成 24 年 10 月

香川県埋蔵文化財センター
所長 藤好 史郎

例言

- 1 本報告書は、国道 438 号道路改築事業（飯山工区）に伴う埋蔵文化財発掘調査書の第 3 冊で、香川県丸亀市飯山町東坂元字秋常 70 番地ほかに所在する東坂元秋常遺跡（ひがしさかもとあきつねいせき）の第 2 次調査の大部分と第 3 次調査の報告を収録した。なお、第 1 次調査と第 2 次調査の一部については、すでに整理作業を実施し、報告書『東坂元秋常遺跡 I』を刊行している。
- 2 発掘調査は、香川県埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 発掘調査期間は、次のとおりである。
平成 19 年度（第 2 次調査）
期間 平成 19 年 4 月 1 日～平成 19 年 8 月 31 日
担当 文化財専門員 木下晴一、文化財専門員 山元素子、調査技術員 木野戸直
平成 20 年度（第 3 次調査）
期間 平成 20 年 4 月 1 日～平成 20 年 8 月 31 日
担当 文化財専門員 山下平重、文化財専門員 森下友子、調査技術員 東原輝明
- 4 調査にあたって、次の関係機関の協力を得た。記して謝意を表したい。（順不同、敬称略）
香川県中讃土木事務所、地元自治会、地元水利組合
- 5 報告書の作成は、香川県埋蔵文化財センターが実施した。執筆は、山下平重が担当した。
- 6 報告書で用いる座標系は国土座標第 IV 系（世界測地系）で、方位の北は国土座標第 IV 系による。また、標高は東京湾平均海水面を基準とした。
- 7 遺構は次の略号により表示した。
S H 堅穴建物 S B 掘立柱建物 SP 柱穴跡 S K 土坑 SD 溝状遺構 S X その
他の遺構 S R 自然河川跡
- 8 第 3 章遺構名の後の（ ）内の表記は、付図での遺構の位置する区画（20 m 四方）を示している。
- 9 石器実測図中、網掛けで表現している部分は摩滅痕を、輪郭線周りの実線は潰れを、同じく破線は顕著な研磨あるいは摩滅を、同じく点線はあまり顕著でない研磨あるいは摩滅をそれぞれ表す。剥離面の風化の程度が違う場合、新しい剥離面は黒丸で、古い剥離面は白丸で表す。なお、現代の折損面は黒で塗りつぶしている。石器石材は特に表記がない限りサヌカイトである。
- 10 遺構断面図の水平線上の数値は、水平線の標高値（単位 m）である。

11 土器観察表中の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖 2010 年版』を参照した。胎土中の砂粒の「粗」は径 4mm 以上、「中」は 0.5mm 以上、「細」は 0.5mm 未満を基準とした。また、残存率は遺物の図化部分に占める割合であり、完形品に対する割合ではない。

12 中世土器の年代観については、香川県教育委員会『空港跡地遺跡Ⅳ』2000 を参考にした。

地図は国土地理院地形図を使用しました。

本文目次

第1章 調査に至る経緯と経過

第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の経過	1
第3節 調査体制・整理体制	2

第2章 遺跡の立地と環境

第1節 地理的環境	4
第2節 歴史的環境	4

第3章 調査の成果

第1節 調査区の概要と層序	6
第2節 遺構と遺物	
1 弥生時代中期後半	6
2 弥生時代後期後半	15
3 飛鳥時代	22
4 平安時代	24
5 中世	28
6 近世以降	44
7 包含層等出土遺物	51

第4章 まとめ	56
---------	----

挿図目次

第1図	遺跡位置図	1	第36図	6区SB08平・断面図、出土遺物	36
第2図	周辺遺跡	5	第37図	7区SB09平・断面図、出土遺物	37
第3図	調査位置図	7	第38図	1区SK03平・断面図	38
第4図	グリッド割図	8	第39図	6区SK01平・断面図、出土遺物	38
第5図	Ⅱ区東壁、Ⅲ区西壁土層図	9	第40図	6区SK04平・断面図、出土遺物	39
第6図	Ⅱ区落ち込み断面図	10	第41図	7区SK01平・断面図	39
第7図	Ⅳ区南壁、Ⅴ区北・南壁土層図	11	第42図	6区SP87出土遺物	40
第8図	Ⅳ区北・南・西壁土層図	12	第43図	7区SP27出土遺物	40
第9図	1区北・東壁土層図	13	第44図	中世のピット出土遺物	40
第10図	2区東壁・3区東壁・4区西壁・6区東壁土層図	14	第45図	Ⅱ区SD12断面図、出土遺物	41
第11図	Ⅵ区SP59平・断面図、出土遺物	15	第46図	1・3区SD01、1区SD02平・断面図、出土遺物	42
第12図	1・3・6区方形区画溝平面図、出土遺物	16	第47図	6区SD03・04・05断面図	43
第13図	1・3・6区方形区画溝断面図	17	第48図	6区SD03・04・05、7区SD01・02出土遺物	43
第14図	2区SK02平・断面図、出土遺物	18	第49図	7区SD03断面図、出土遺物	43
第15図	5区SD01平・断面図、出土遺物	18	第50図	Ⅲ区SK01平・断面図、出土遺物	44
第16図	弥生時代の包含層出土遺物1	19	第51図	Ⅱ区SX01遺物出土状況平・断面図、出土遺物	45
第17図	弥生時代の包含層出土遺物2	20	第52図	Ⅲ区SX01平・断面図、出土遺物	45
第18図	弥生時代の包含層出土遺物3	21	第53図	近世のピット出土遺物	46
第19図	2区SK01平・断面図、出土遺物	22	第54図	Ⅲ区SD01～07平・断面図	47
第20図	集石遺構平・断面図、出土遺物	23	第55図	Ⅱ・Ⅲ区SD01断面図	48
第21図	7世紀の包含層出土遺物	24	第56図	Ⅱ・Ⅲ区SD01出土遺物	49
第22図	1・3区SB02平・断面図	25	第57図	Ⅲ区SD04出土遺物1	50
第23図	1・3区SB02出土遺物	26	第58図	Ⅲ区SD04出土遺物2	51
第24図	1・6区SB06平・断面図、出土遺物	26	第59図	Ⅲ区SD08出土遺物	51
第25図	1区SK01平・断面図、出土遺物	27	第60図	Ⅴ区SD01平・断面図、出土遺物	52
第26図	1区SP30出土遺物	27	第61図	包含層等出土遺物1	53
第27図	Ⅵ区SB01平・断面図	28	第62図	包含層等出土遺物2	54
第28図	Ⅵ区SB02平・断面図、出土遺物	29	第63図	包含層等出土遺物3	55
第29図	3区SB01平・断面図	30	第64図	遺構変遷図 弥生時代中期後半	57
第30図	1・6区SB03平・断面図、出土遺物	31	第65図	遺構変遷図 弥生時代後期後半	57
第31図	6区SB04平・断面図、出土遺物	31	第66図	遺構変遷図 飛鳥時代	58
第32図	6・7区SB05、SX02、SD04・06平・断面図	33	第67図	遺構変遷図 平安時代	58
第33図	6・7区SB05出土遺物	34	第68図	遺構変遷図 中世	59
第34図	6区SX01出土遺物	35			
第35図	6区SB07平・断面図	36			

表目次

第1表	平成19年度発掘調査体制一覧表	2	第5～26表	東坂元秋常遺跡出土土器観察表
第2表	平成20年度発掘調査体制一覧表	2	第27表	東坂元秋常遺跡出土金属器観察表
第3表	平成23年度整理作業体制一覧表	3	第28～30表	東坂元秋常遺跡出土石器観察表
第4表	2・4区出土サスカイト製石器	21		

図版目次

- 図版 1
遺跡遠景
遺跡遠景
- 図版 2
II区全景 東から
III区全景 東から
- 図版 3
IV区全景 西から
V区全景 東から
- 図版 4
VI区全景 東から
1区全景 東から
- 図版 5
1区全景 上層遺構 西から
2区調査風景 北東から
- 図版 6
2区全景 北から
3区全景 東から
- 図版 7
4区全景 北から
5区全景 北から
- 図版 8
6区西半 全景 北から
6区東半 全景 北西から
- 図版 9
7区全景 東から
II区東壁断面
- 図版 10
III区落ち込み断面
III区A T火山灰層
- 図版 11
IV区南壁断面 西半
IV区南壁断面 東半(西半部)
- 図版 12
V区南壁断面
1区北壁断面 東から
- 図版 13
1区東壁断面 西から
2区東壁断面
- 図版 14
3区東壁断面
4区東壁断面
- 図版 15
6区東壁断面
VI区SP59 土器出土状況 北から
- 図版 16
1区方形区画溝 北から
1区方形区画溝 東から
- 図版 17
1区SD07 磔、土器出土状況 東から
1区SD07 b b'断面 東から
- 図版 18
1区SD12断面 西から
1区SD07 a a'断面 南から
- 図版 19
6区SD08 検出状況 西から
3区SD02・03 南から
- 図版 20
2区SK02断面 東から
2区SK02土器出土状況 東から
- 図版 21
5区SD01断面 東から
2区SK01土器出土状況 東から
- 図版 22
2区SK01土器出土状況 東から
2区SK01断面 東から
- 図版 23
2区SK01完掘 北東から
2区集石遺構 北から
- 図版 24
2区集石遺構 西から
1区SB02 東から
- 図版 25
3区SB02 東から
1区SK01断面 北から
- 図版 26
1区SP30土器出土状況 北から
3区SB01 東から
- 図版 27
6区SB05・SX02 検出状況 東から
6区SD06断面 北から
- 図版 28
7区SD04断面 西から
1区SK03断面 北から
- 図版 29
6区SK01 遺物出土状況 西から
6区SK01 遺物出土状況 北東から
- 図版 30
6区SK01断面 西から
6区SK04断面 東から
- 図版 31
7区SK01断面 東から
7区SK01完掘 南から
- 図版 32
6区SP87断面 西から
6区SP87土器出土状況 北から
- 図版 33
II区SD12土器出土状況 北から
1区SD01・02断面 北から
- 図版 34
3区SD01断面 南から
6区SD03断面 北から
- 図版 35
7区SD01断面 北から
6区SD05断面 北から
- 図版 36
6区SD04断面 北から
7区SD02磔出土状況 南から
- 図版 37
7区SD03断面 北から
III区SD04、SK01断面 南から
- 図版 38
II区SX01 東から
II区SX01断面 東から

図版 39

Ⅲ区 SX01 断面
Ⅱ区 SD01 完掘 西から

図版 40

Ⅱ区 SD01 A断面 西から
Ⅱ区 SD01 B断面 東から

図版 41

Ⅱ区 SD01 C断面 東から
Ⅱ区 SD01 i i '断面 東から

図版 42

Ⅲ区 SD01 j j '断面 西から
Ⅲ区 SD04 断面 西から

図版 43

Ⅲ区 SD04 断面 南から
Ⅲ区 SD04 完掘 南から

図版 44

Ⅲ区 SD04 完掘 西から

図版 45

出土土器 (1)

図版 46

出土土器 (2)

図版 47

出土土器 (3)

図版 48

出土土器 (4)

図版 49

出土土器 (5)

図版 50

出土土器 (6)

図版 51

出土土器 (7)

図版 52

出土土器 (8)

図版 53

出土土器 (9)

図版 54

出土土器 (10)

図版 55

出土土器 (11)

図版 56

出土土器 (12)

図版 57

打製石庖丁・スクレイパー・剥片
石鏃

図版 58

楔状石核
石核

図版 59

石鏃
楔状石核

図版 60

打製石庖丁・スクレイパー
石鏃・石錐

図版 61

石核
銅銭・不明金銅製品
銅滓
楔状石核

第1章 調査に至る経緯と経過

第1節 調査に至る経緯

東坂元秋常遺跡は、平成15年度からの香川県教育委員会の試掘調査で発見された。今回報告するⅡ～Ⅵ区及び1～7区については、平成17年度にⅡ・Ⅲ区(1,370㎡)、平成18年度にⅣ～Ⅵ区(860㎡)、平成19年度に1～7区(2,210㎡)が、試掘調査の結果、東坂元秋常遺跡として文化財保護法に基づく保護措置が必要と判断された。

第2節 調査の経過

第2次調査は、一部すでに報告されている調査区(Ⅰ区 315㎡)のほか、Ⅱ～Ⅵ区(2,230㎡)を対象に実施した。出土遺物は、Ⅰ区が4箱(28リットル入り)、Ⅱ～Ⅵ区が43箱である。

第3次調査は、平成20年度当初から予定していた国土交通省からの委託事業が延期になったため、急遽当遺跡の発掘事業を行うことになったものである。そのため、実際の現地作業着手は、平成20年5月に入ってからとなり、当初より短期間で調査を終了せざるを得なかったため、作業員を通常の体制より増員して実施した。調査対象面積2,210㎡、出土遺物14箱である。

整理作業は、平成23年11月1日から平成24年3月31日まで実施した。



第1図 遺跡位置図

第3節 調査体制・整理体制

発掘調査及び整理作業の体制は、次のとおりである。

第1表 平成19年度発掘調査体制一覧表

香川県教育委員会事務局生涯学習・文化財課		香川県埋蔵文化財センター	
総括		総括	
課長	鈴木 健司	所長	渡部 明夫
課長補佐(総括)	武井 壽紀	次長	廣瀬 常雄
総務・生涯学習推進グループ		総務課	
副主幹	古田 泉	総務課長	野口 孝一
主任	林 照代	主任	宮田 久美子
文化財グループ		主任	嶋田 和司
課長補佐	藤好 史郎	主任	古市 和子
文化財専門員	森 格也	調査課	
文化財専門員	信里 芳紀	調査課長	廣瀬 常雄
		文化財専門員	木下 晴一
		文化財専門員	山元 素子
		嘱託(土木)	高嶋 勝英
		嘱託(調査技術員)	木野戸 直

第2表 平成20年度発掘調査体制一覧表

香川県教育委員会事務局生涯学習・文化財課		香川県埋蔵文化財センター	
総括		総括	
課長	春山 浩康	所長	大山 眞充
課長補佐(総括)	武井 壽紀	次長	廣瀬 常雄
総務・生涯学習推進グループ		総務課	
副主幹	香西 としみ	総務課長	廣瀬 常雄
主任	林 照代	主任	宮田久美子
文化財グループ		主任	嶋田 和司
主幹(兼)課長補佐	藤好 史郎	主任	古市 和子
主任文化財専門員	森 格也	調査課	
文化財専門員	乗松 真也	調査課長	廣瀬 常雄
		文化財専門員	山下 平重
		文化財専門員	森下 友子
		嘱託(土木)	砂川 哲夫
		嘱託(調査技術員)	東原 輝明

第3表 平成23年度整理作業体制一覧表

香川県教育委員会事務局生涯学習・文化財課		香川県埋蔵文化財センター	
総括		総括	
課長	炭井 宏秋	所長	藤好 史郎
課長補佐(総括)	亀山 隆	次長	真鍋 正彦
総務・生涯学習推進グループ		総務課	
副主幹	香西 としみ	総務課長	真鍋 正彦
主任主事	丸山 千晶	副主幹	林 文夫
文化財グループ		主任	古市 和子
課長補佐	西岡 達哉	主任	中川 美江
主任文化財専門員	森下 英治	主任	高本 秀哉
文化財専門員	松本 和彦	主任	広瀬 健一
		資料普及課	
		資料普及課長	森 格也
		文化財専門員	山下 平重

発掘作業に携わった方々は、次のとおりである。

調査補助員 木全加珠美

整理作業員 森川 理恵

発掘作業員 池田 朱美 池田 清敏 泉 恭介 大浦 哲也 金本 勝行 田尾 貞季

竹井 廣子 常包 義男 寺西 弘子 中川 恒夫 丹羽 早苗 福江 妙子

本井 俊彦 堀田 勉 松永 照子 宮崎 清 三好 一信 山下 實 山田 勝富

行成 健 吉田 滋

整理作業に携わった方々は、次のとおりである。

今井 真紀 岡崎江伊子 香川 和子 川井 佐織 北濱 敦子 香西 栄理

合田 安里 竹内 悦子 徳永 貴美

第2章 遺跡の立地と環境

第1節 地理的環境

今回調査を行った東坂元秋常遺跡は、飯野山南麓で、平地との傾斜変化点付近に位置する。Ⅱ・Ⅲ区は、山裾斜面をカットした平坦地となっている。Ⅱ区南端は、地形図から見ると旧河川の北肩となっている。標高は、15.2 m前後である。また、Ⅳ～Ⅵ区、1・3・6・7区及び2・4・5区の北半は、飯野山裾から南東へ舌状に張り出した若干傾斜する平地に立地する。標高は14.9～16 mで、6・7区付近が一番高く、東西方向にそれぞれ傾斜している。2・4・5区の南側は1.2 m程度の段差があり、旧河川と考えられる。そのため、2・4・5区の南半は基盤層が南へ傾斜し、遺物包含層の堆積が見られる。また、この旧河川は西へ延長し、当遺跡から300 mほど西で、南へ屈曲していることが地形図や空中写真で読み取れる。

第2節 歴史的環境

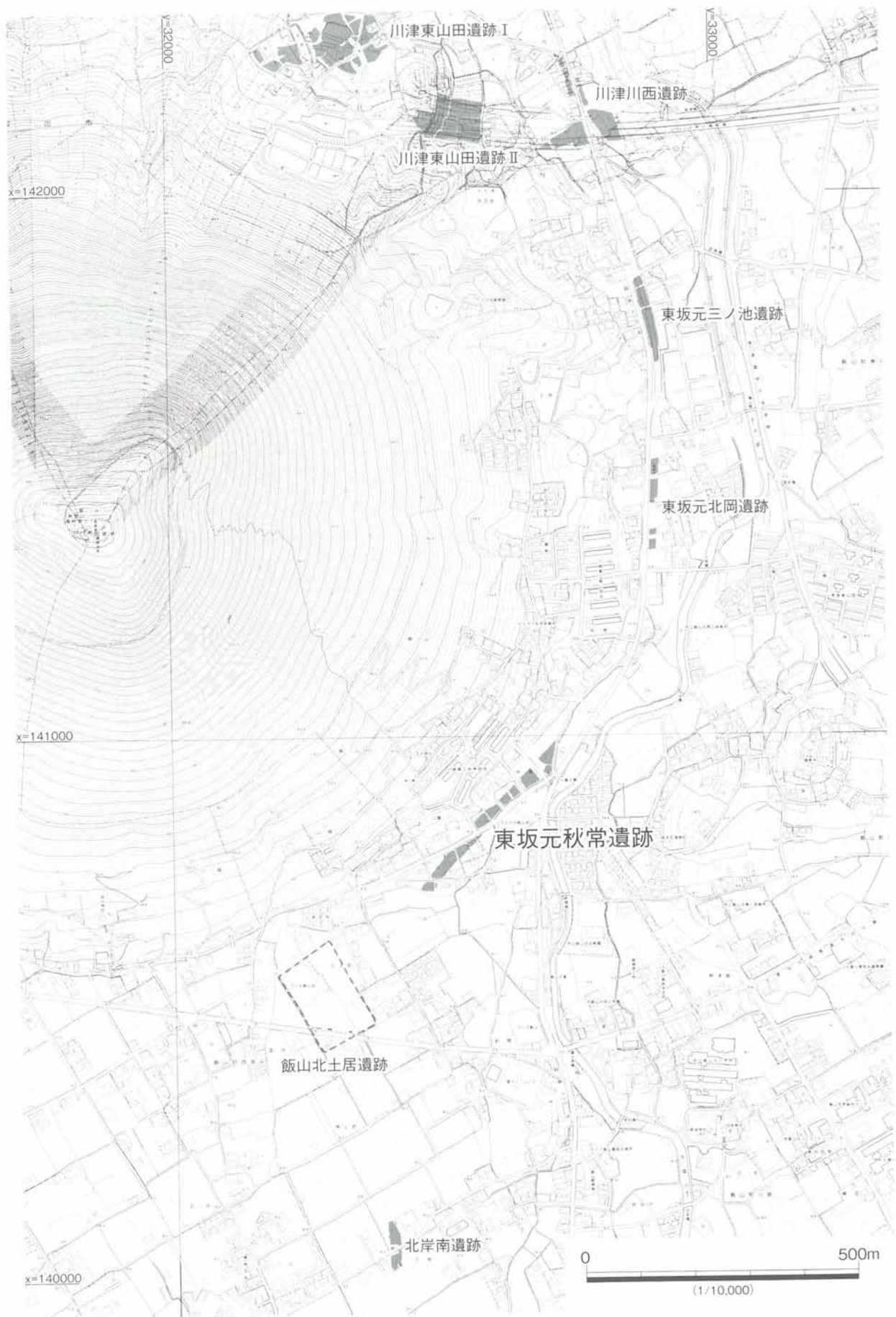
周辺の歴史的環境は、2008年刊行の報告書（註1）に一度まとめられている。ここではその後の新知見を報告する。

当遺跡南西300 mに位置する飯山北土居遺跡は中世の居館とされているが、平成21年度に発掘調査が実施され、居館を囲む堀跡の可能性が高い溝跡が検出され、居館の可能性が考古学的に確認できた（註2）。また、飯山北土居遺跡の南500 mに位置する北岸南遺跡は、平成23年度に発掘調査が実施され、縄文時代と考えられる石器が、弥生時代以降の基盤層から出土している。また、弥生時代後期～終末期の溝跡群、12世紀後半から13世紀初頭の掘立柱建物群が検出されている。この建物群には、ひさしの部分を除くと桁行13 m、梁行4 mの大型建物が含まれている。ただ、あまり時期差がないと考えられる溝跡より古いことから、建物群の存続時期は短かったと考えられる。

註

（1）香川県教育委員会『国道438号道路改築事業（飯山工区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第1冊 東坂元秋常遺跡Ⅰ』2008

（2）香川県埋蔵文化財センター『香川県埋蔵文化財センター年報 平成21年度』2010



第2図 周辺遺跡

第3章 調査の成果

第1節 調査区の概要と層序

調査地は、現状が水田及び宅地跡であり、ほぼ中央に道路がある。道路及び土地区画に合わせて、調査区Ⅱ～Ⅵ区及び1～7区を設定した(第3図)。

現在の道路より北側はⅡ、Ⅲ区である。Ⅱ区の南半は、近世以降のSD01を埋め立てて、平坦面をつくり水田化したと見られる。Ⅱ区の北半では、現在の造成土直下が水平な基盤層となっており、水田化に伴い削平されたものと考えられる。Ⅲ区は、耕作土直下基盤層となっており、水田化に伴い丘陵裾部を削平したのと考えられる。またⅢ区基盤層(第6図11・12・13・13'層)のうち、13層はAT火山灰の濃密な包含層で、その上の12層にもAT火山灰が含まれている。

現在の道路より南側は、Ⅳ～Ⅵ区、1・3・6・7区である。Ⅳ区は、造成土下に水田耕作土が残存している。その下は基盤層となっている。Ⅴ区は現耕作土下に旧耕作土があり、その下は基盤層となっている。Ⅵ区はⅤ区と同じ堆積状況である。Ⅵ区の南側は6・7区である。耕作土下に10cm程度の1区と共通する堆積層があり、その下が基盤層となっている。6・7区の南側は1・3区で、耕作土下に数cmの厚さの灰白色シルト層の堆積があり、その下が基盤層となっている。この灰色シルト層は室町時代以降の時期と考えられる1区SD01・02より古いこと及びその色調から中世の堆積層と考えられる。

2・4・5区は、道を挟んで1・3区の南側で、調査対象地の南端の地区である。この調査区の南側は旧河川となっており、これにむかって基盤層の傾斜が見られる。調査区北半は耕作土直下基盤層となっており、水田化に伴う削平が考えられる。南側は基盤層上面が傾斜しそこに弥生時代から古代の遺物包含層の堆積が見られる。この包含層の上面で中世の遺構が検出されている。

第2節 遺構と遺物

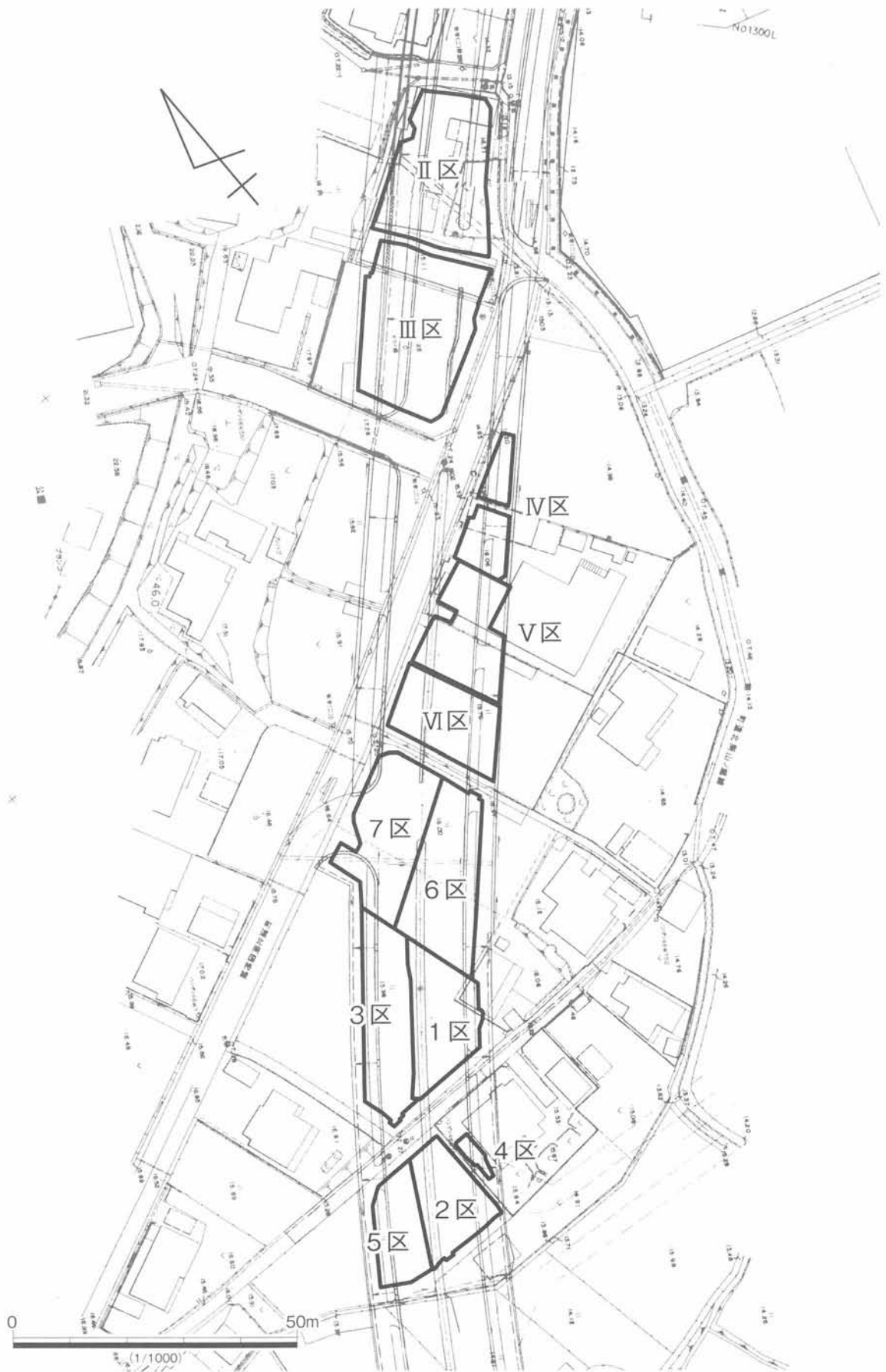
1 弥生時代中期後半

ピット1と方形区画溝が検出されている。また、調査区南端の2区では、包含層から土器がわずかに出土している。

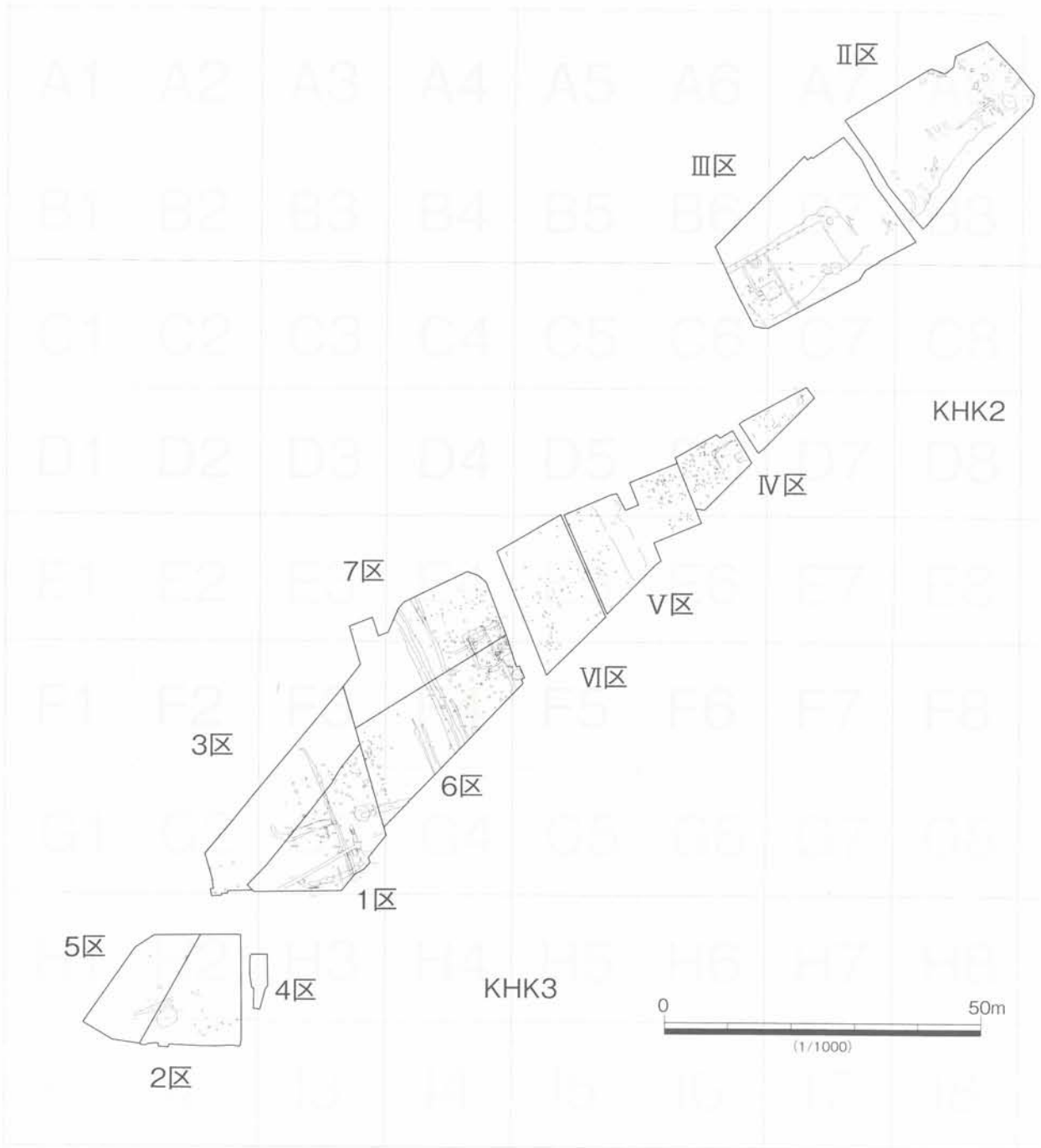
ピット

Ⅵ区 SP59 (E5) (第11図)

弥生時代中期の甕1の底部が置かれた状態で出土している。内面にはヘラケズリが見られず、当期の遺構は、ほかに1区の方形区画の溝のみであり、この溝の出土土器と類似することから当期と考えられる。



第3図 調査位置図



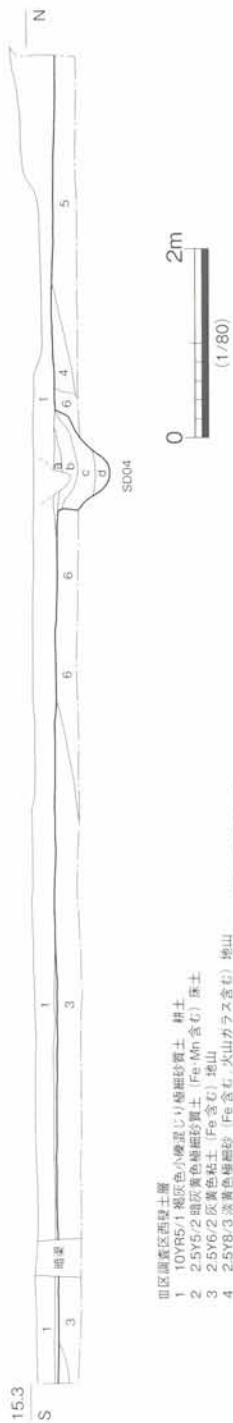
第4図 グリッド割図

Ⅲ区調査区東壁

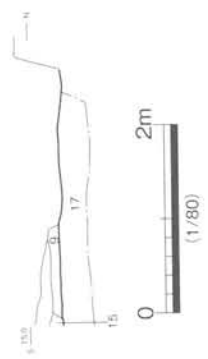
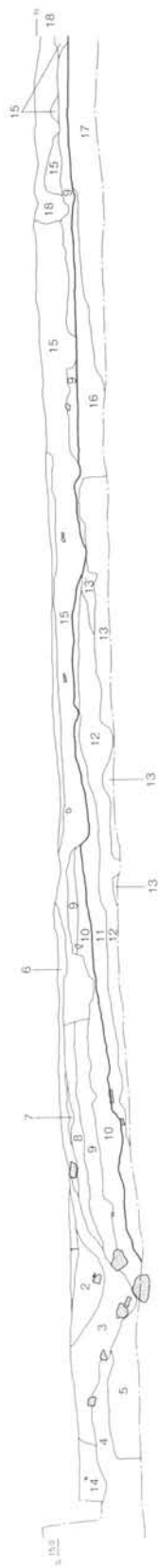


- Ⅲ区調査区東壁土層
- 1 泥状、厚目(3cm)ほどの塊をまばらに含む互層土、耕作土、地山ブロックなどが混在)
 - 2 2.5Y6/2 黄褐色粘板状土(小塊むすか含む、Fe含む、2-3層に細分可)
 - 3 2.5Y4/2 暗灰黄色小塊状じり粘板状土(Fe多く含む、4層ほどに細分可)
 - 4 2.5Y6/1 黄灰色塊状じりシルト質土(3cm以下のくまり塊多い)、地山
 - 5 2.5Y7/2 灰黄色シルト、2.5Y4/1 黄灰色粘土がブロック状に堆積する、整地層と認識
 - 6 粘土の性状が多岐にわたる、厚砂のみの厚目
 - 7 2.5Y4/3 オリソ、塊状粘板状土(2層程度に細分可、Fe-Mn含む、地山ブロック含む)
 - 8 2.5Y4/2 暗灰黄色粘板状じりシルト質土(Fe-Mn含む)
 - 9 1. 相対的な高層堆積層
 - 10 2.5Y5/1 黄灰色粘じり粘板状土(4層と同じ)、地山
 - 11 5層と6層の層移動

Ⅲ区調査区西壁

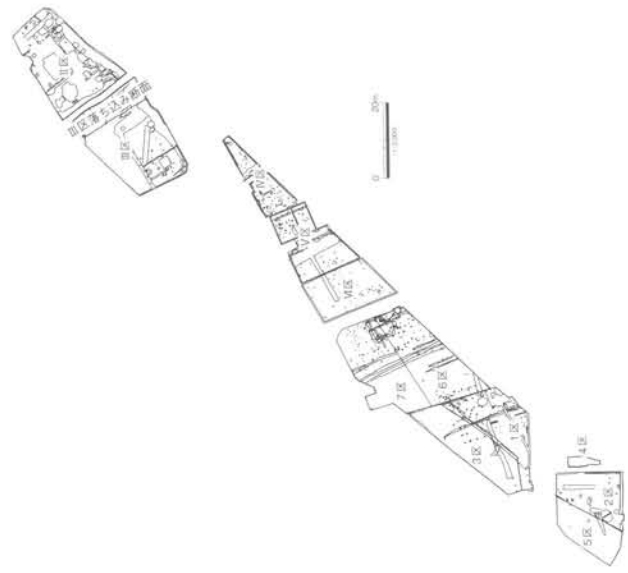


- Ⅲ区調査区西壁土層
- 1 10YR5/1 褐色小塊状じり粘板状土、粘土
 - 2 2.5Y5/2 暗灰黄色粘板状土(Fe、Mn含む) 床土
 - 3 2.5Y6/5 灰黄色粘土(Fe含む)、地山
 - 4 2.5Y6/5 灰黄色粘板土(Fe含む)、地山(山ガラス含む)
 - 5 2.5Y6/5 黄灰色粘土(10YR5/1 灰黄色の沈着物あり、全体として紫色に見える)、地山
 - 6 2.5Y6/5 灰黄色粘板土(Fe含む)
 - a 2.5Y6/5 灰黄色小塊状じり粘板状土(Fe多く含む、Mn含む)
 - b 2.5Y6/5 暗灰黄色粘板状じり粘板土(Fe、Mn含む)
 - c 2.5Y5/1 黄灰色粘板状じり粘板土(Fe含む)
 - d 2.5Y5/1 黄灰色粘板土



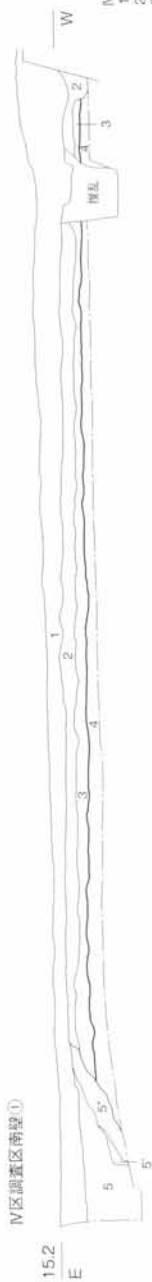
- 血区落ち込み断面
- 1 2.5V3.1 黄褐色粘土、2.5V6.2 灰黄色細砂のブロック、覆乱
 - 2 2.5V4.3 オリーブ褐色粘質土、(4cm以下の層まはら)に含む、畑山ブロック
 - 3 2.5V6.2 灰黄色細砂、5V5.7 灰褐色土、2.5V5.1 黄褐色粘土、(いずれも塊山土、未分解に貫通)、覆乱
 - 4 10YR4/3 に近い黄褐色粘質土、(9.5V6.2 灰黄色細砂の畑山ブロック含む、Fe-Mn 含む、2cm程の層まはらに含む)、5 層と畑山土の覆乱か
 - 5 2.5V4.3 オリーブ褐色シルト質土、(Fe-Mn 含む)、II区の中世落ち込み埋土相当層か
 - 6 2.5V5.2 明灰黄色細砂質土、(2cm内外の7層のブロック含む、くさり小塊含む、Fe 含む)、覆乱
 - 7 2.5V4.2 明灰黄色シルト質土、(小塊わずかに含む)、覆乱
 - 8 10YR2/2 黒褐色シルト質土、(畑山土の再堆積か)、
 - 9 3層、10層が未分解に入る、(2cm程の層まはら)に含む、Fe 含む
 - 10 2.5V5.2 暗灰黄色細砂混じりシルト質土、(Fe 多く含む)

- 11 7.5V5.1 灰褐色粘土、(Fe 多く含む、塊わずかに含む、再堆積)
- 12 NS/O 灰褐色土、(下部に木質含む、砂粒卓越する部分あり、再堆積か) AT 含む
- 13 7.5V7.1 灰白色極細砂 (AT 混含層)
- 13' 10YR7/1 灰白色シルト
- 14 覆乱
- 15 10YR8/1 灰白色シルト (10cm 大の円礫含む)
- 16 10YR8/2 灰白色シルト
- 17 5PB4.1 暗紫灰色シルト
- 18 覆乱



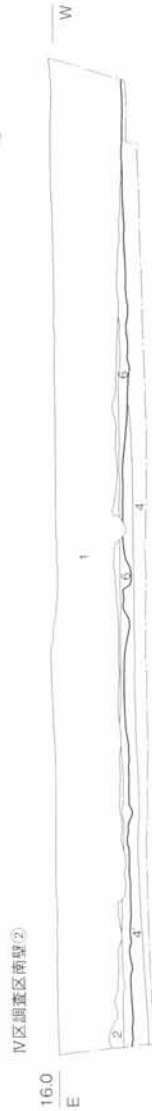
第6図 II区落ち込み断面図

IV区調査区南壁①



- IV区調査区南壁土層
- 1 花崗土
 - 2 2.5Y4.2 黄褐色粘板状質土 (小礫含む) 水田耕土
 - 3 2.5Y5.2 黄褐色粘板状質土 (Fe, Mn 多く含む, 小礫わずか含む)
 - 4 2.5Y5.2 黄褐色シルト質土 (Fe, Mn 含む)
 - 4' 2.5Y4.2 黄褐色シルト質土 (Fe 含む) 地山上部の黄褐色
 - 5 2.5Y5.2 黄褐色粘板状質土 (Fe 多く含む)
 - 5' 2.5Y5.2 黄褐色粘板状質土 (Fe 多く含む)
 - 5"-2.5Y5.2 黄褐色粘板状質土 (Fe 含む) 5層~5' 層は埋戻し土
 - 6 5Y5.1 灰褐色粘板状質土 (Fe 含む, Mn わずか含む)

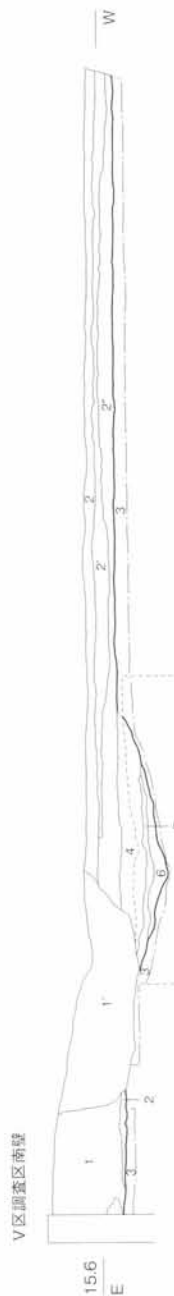
IV区調査区南壁②



V区調査区北壁



V区調査区南壁

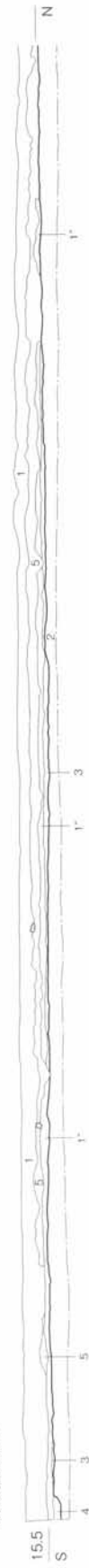


- V区調査区北・南壁
- 1 花崗土 (3cmほどの地山粘土ブロック含む) 建物基礎
 - 1' 覆土 (水田耕土, 1cmほどの腐-地山粘土ブロックよりなる) 地帯界のコンクリート壁の掘り方
 - 2 2.5Y5.2 黄褐色粘板状質土 (小礫, 粗砂粒含む) 水田耕土
 - 2' 2.5Y5.2 黄褐色粘板状質土 (Fe 含む, 小礫わずか含む, 下辺にヒニールが敷かれている) 水田耕土
 - 2" 2.5Y5.2 黄褐色粘板状質土 (Fe 含む) 水田耕土
 - 3 2.5Y5.3 黄褐色シルト質土 (Fe 含む, 上方に Mn 含む) 地山
 - 3' 10YR4.1 灰褐色シルト質土 (Fe, Mn 含む)
 - 4 2.5Y5.3 灰褐色シルト質土 (Fe, Mn 含む) SD 上層
 - 5 2.5Y5.1 黄褐色粘板状質土 (Fe 含む) SD 中層
 - 6 2.5Y5.4 黄褐色粘板状質土 SD 下層

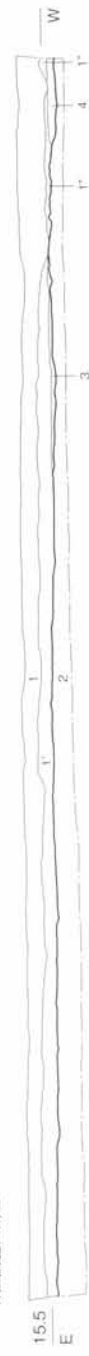
VI区調査区北壁



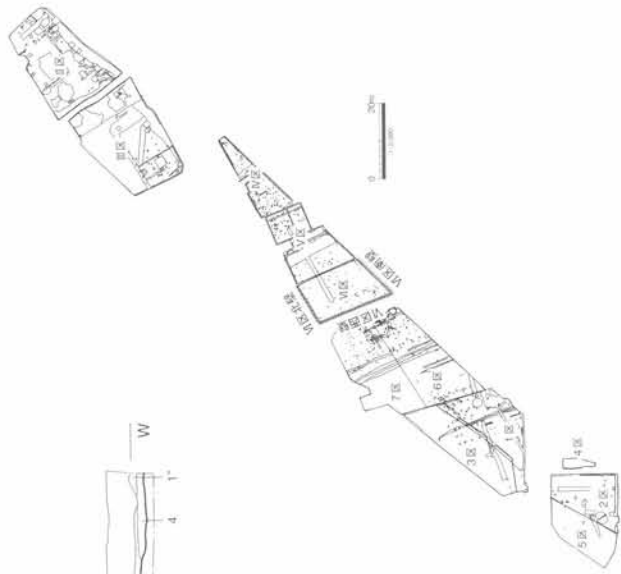
VI区調査区西壁



VI区調査区南壁

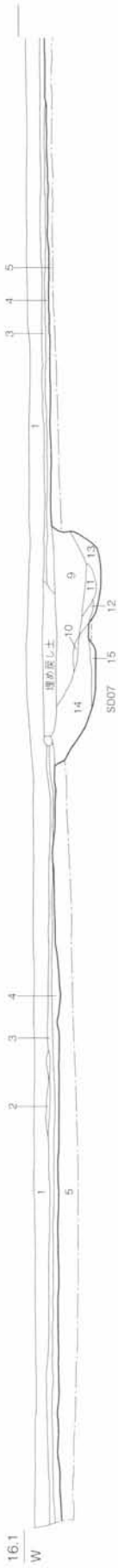


- VI区調査区壁土層
- 1 2.5V4.2 暗灰黄色極細砂質土 (小礫含む Fe 含む) 水田耕土
 - 1' 2.5V4.2 暗灰黄色シルト質土 (小礫わずら含む Fe 含む 1層との境界にヒニール片あり) 水田耕土
 - 2 2.5V6.3 暗灰黄色極細砂質土 (Fe 含む 1層と類似するが 5層との間連で分層される) 水田耕土
 - 3 2.5Y6.3 暗灰黄色シルト (上部に Mn 含む Fe 含む) 地山
 - 4 2.5Y5.2 暗灰黄色極細砂質土 (Fe 含む) 床土
 - 5 2.5Y5.2 暗灰黄色小礫混じり極細砂質土 (Fe-Mn 含む) 遺構埋土
 - 5 3cm 以下の角礫を含む花崗土



第8図 IV区北・南・西壁土層図

1区調査区北壁



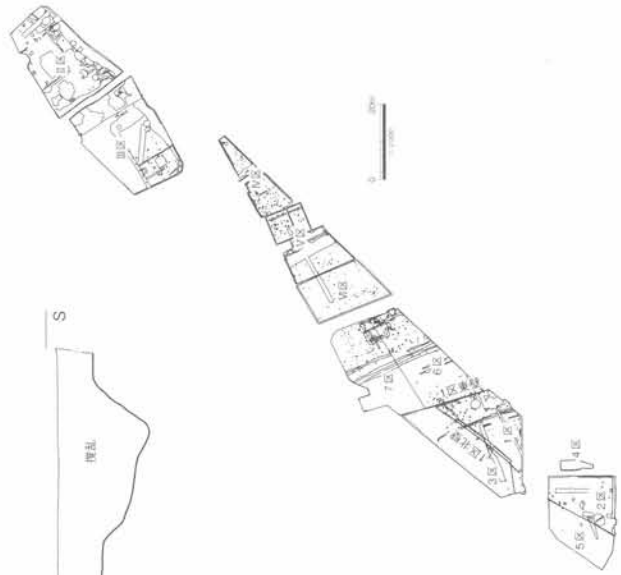
- 1 耕作土
- 2 5B6/1 黄灰色シルト (耕作土下位)
- 3 7.5YR5/6 明褐色シルト (床土)
- 4 10YR7/1 灰白色シルト (Mn含む)
- 5 5Y7/4 黄褐色シルト (地山)
- 6 10B6/1 明黄灰色シルト (SD)
- 7 7.5YR6/1 黄褐色シルト (ピント)
- 8 10YR7/2 におい黄褐色シルト 地山の再堆積 (SD12)
- 9 10YR5/4 におい黄褐色粘質シルト
- 10 10YR8/6 黄褐色粘質シルト
- 11 7.5YR6/2 灰褐色粘質シルト (灰白色粘土がラミナー状に混じる)
- 12 7.5YR6/2 灰褐色粘質シルト
- 13 7.5YR6/2 灰褐色細砂 (粘土混じる)
- 14 10YR7/2 におい黄褐色粘質シルト
- 15 7.5YR6/2 灰褐色細砂 (粘土混じる)



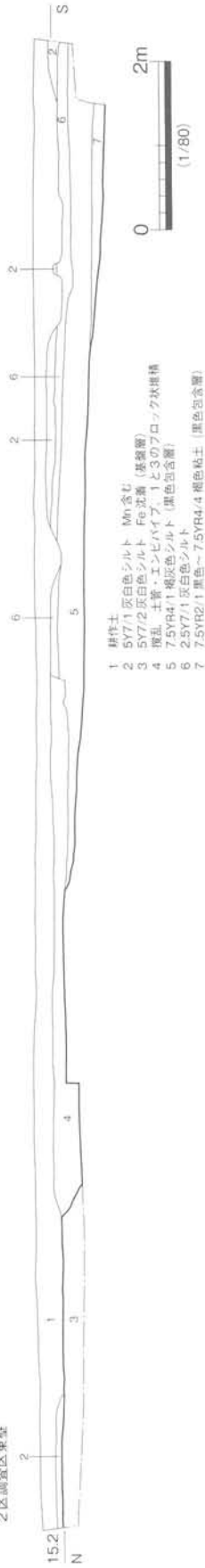
1区調査区東壁



- 1 耕作土
- 2 5B6/1 黄灰色シルト (耕作土下位)
- 3 7.5YR5/6 明褐色シルト (床土)
- 4 10YR7/1 灰白色シルト (Mn含む)
- 5 5Y7/4 黄褐色シルト (地山)
- 8 10YR7/2 におい黄褐色シルト 地山の再堆積 (SD12)



2区調査区東壁



- 1 耕作土
- 2 5Y7/1 灰白色シルト Mn含む
- 3 5Y7/2 灰白色シルト Fe沈着 (基岩層)
- 4 撚乱 土壌・エンビハイブ、1と3のブロック状構造
- 5 7.5YR4/1 褐色シルト (黒色含炭層)
- 6 2.5Y7/1 灰白色シルト
- 7 7.5YR2/1 黒色〜7.5YR4/4 褐色粘土 (黒色含炭層)

3区調査区東壁



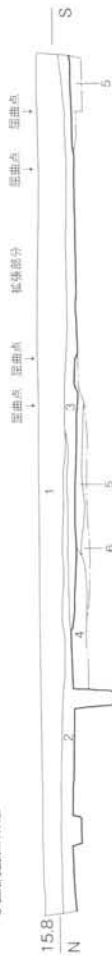
- 3 7.5YR5/6 明褐色シルト (床土)
- 4 10YR7/1 灰白色シルト Mn含む
- 5 5Y7/4 淡黄色シルト (掘山)

4区調査区西壁

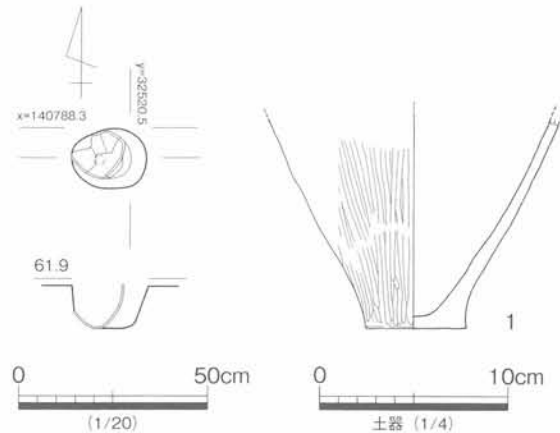


- 1 腐土
- 2 2.5Y7/1 灰白色シルト
- 3 2と4 耕作層
- 4 7.5YR4/2 灰褐色シルト 黒色含炭層
- 5 7.5YR3/1 黒褐色シルト 黒色含炭層
- 6 7.5YR6/8 褐色〜7.5YR6/1 褐色シルト 基岩層

6区調査区東壁



- 1 耕作土、埋め戻し土
- 2 5Y6/1 灰色砂質シルト
- 3 7.5YR7/1 明褐色砂質シルト
- 4 10YR6/4 に近い黄褐色砂質シルト
- 5 5YR5/4 に近い赤褐色砂質シルト
- 6 7.5YR6/3 に近い褐色砂質シルトブロック混じり 7.5YR8/2 灰白色砂質シルト



第11図 VI区 SP59 平・断面図、出土遺物

1・3・6区方形区画溝 (G3・G4) (第12・13図)

1区SD07・10・11・12、6区SD08、3区SD02・03及び1区SK05より構成される。このうちSD08は平安時代の土坑より古い。SD10とSD11の新旧関係は不明である。区画の規模は9m四方前後である。幅約1m、深さは最大約55cmである。また、1区SD07、3区SD03は、3区SD02より新しい。中心に主体部らしきものは無い。溝からは少量の弥生土器2～7のほか、人頭大の礫が出土している。特にSD07からは溝肩に沿うように出土している。出土土器には、明確にヘラケズリが認められないこと、2・3から中期後半古段階の時期と考えられる。

2 弥生時代後期後半

調査区南端の2・5区で遺構がわずかに見られる。

土坑

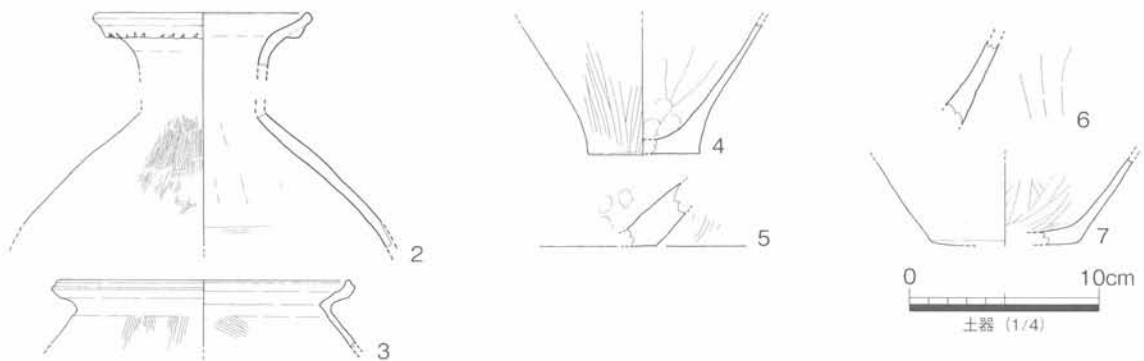
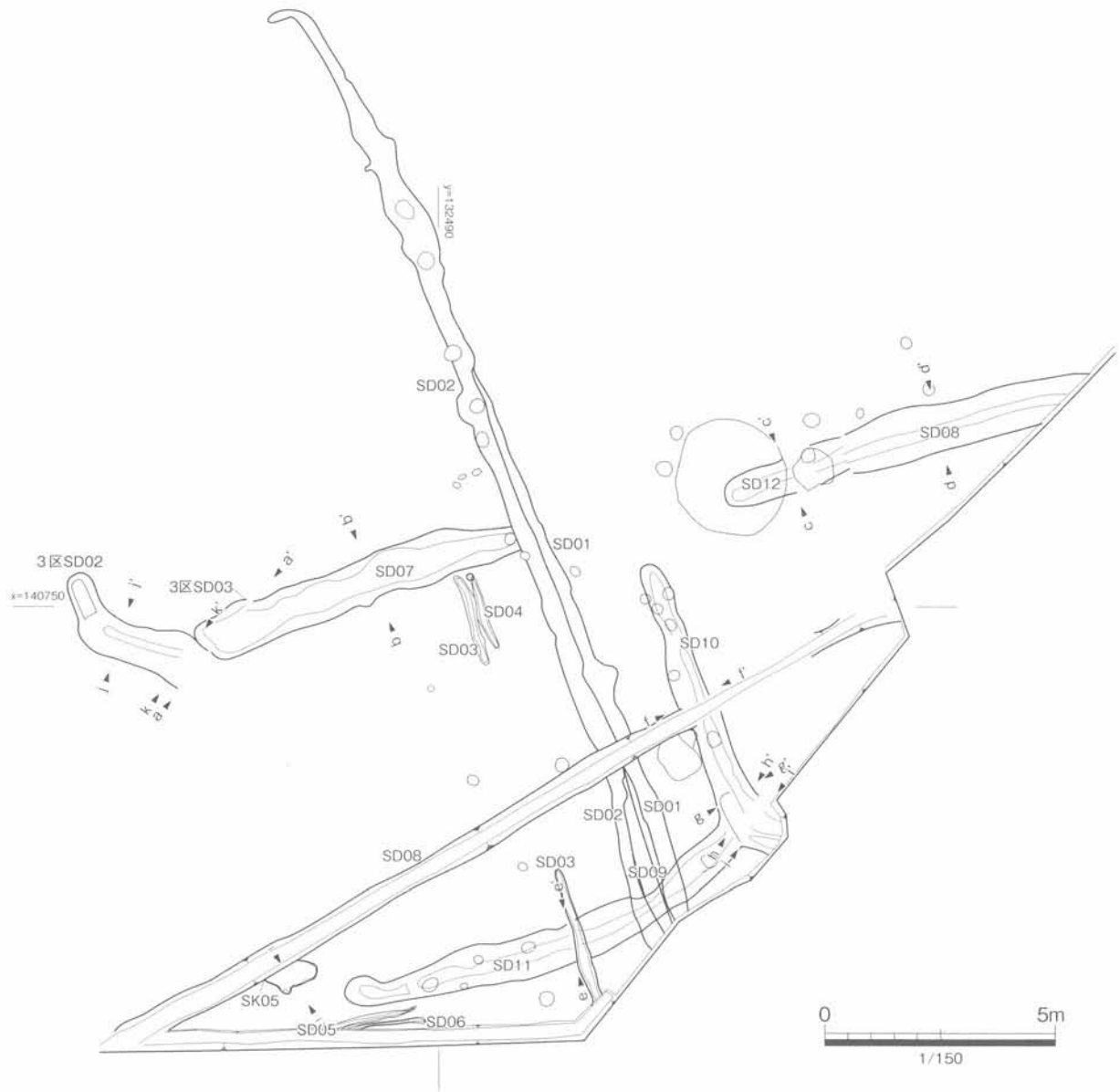
2区SK02 (H2) (第14図)

TK217型式期の土坑SK01より古い。ほぼ完形の弥生土器8と9が出土している。8から下川津Ⅲ式の時期と考えられる。

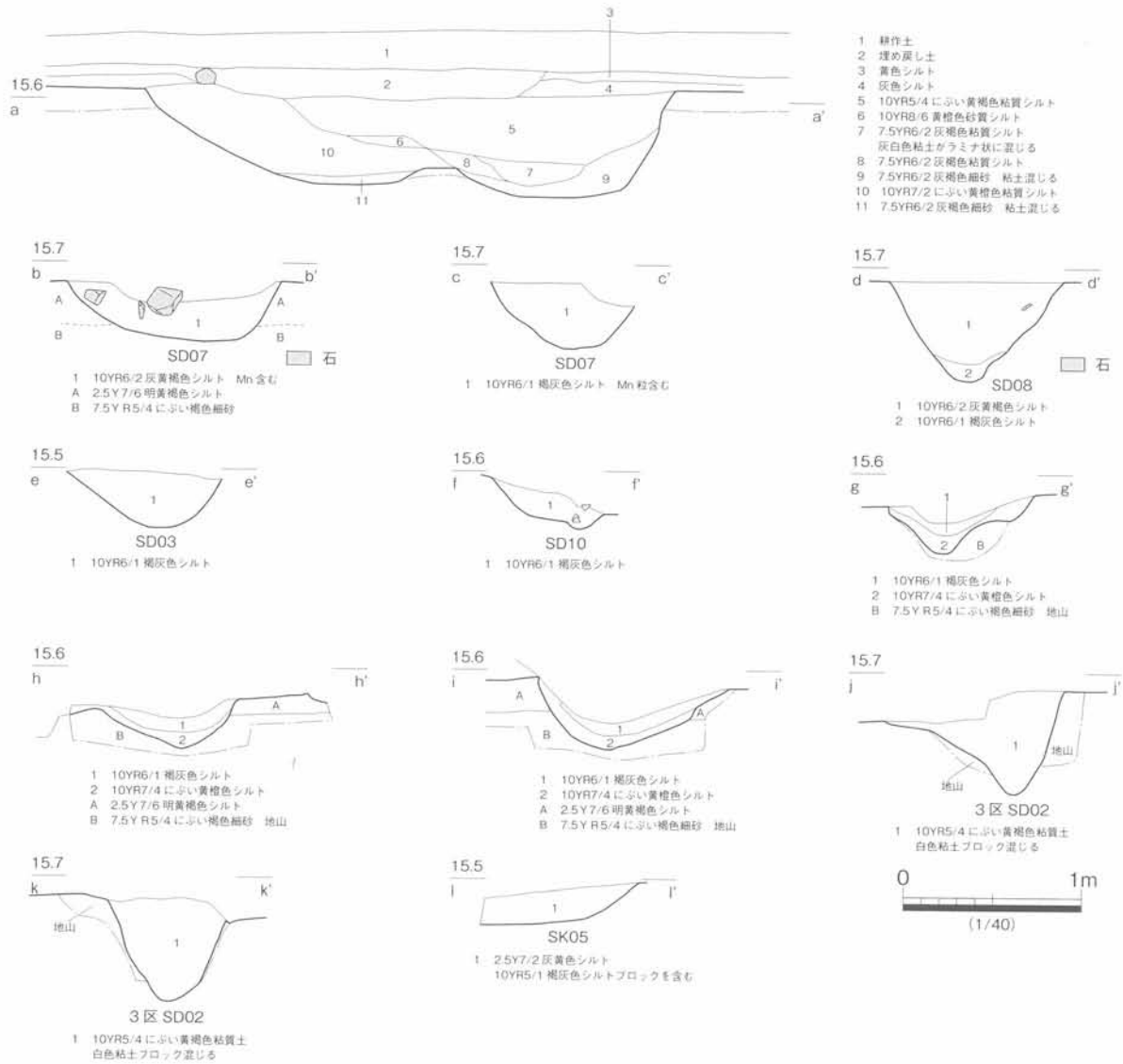
溝

5区SD01 (H2) (第15図)

最大幅1m、深さ15cm程度の溝である。弥生土器甕10・11が出土している。底部の破片で、詳細な時期は不明であるが、付近にある当期の遺構は、上記2区SK02のみであることから、同時期と考えられる。



第 12 图 1·3·6区方形区画溝平面图、出土遗物



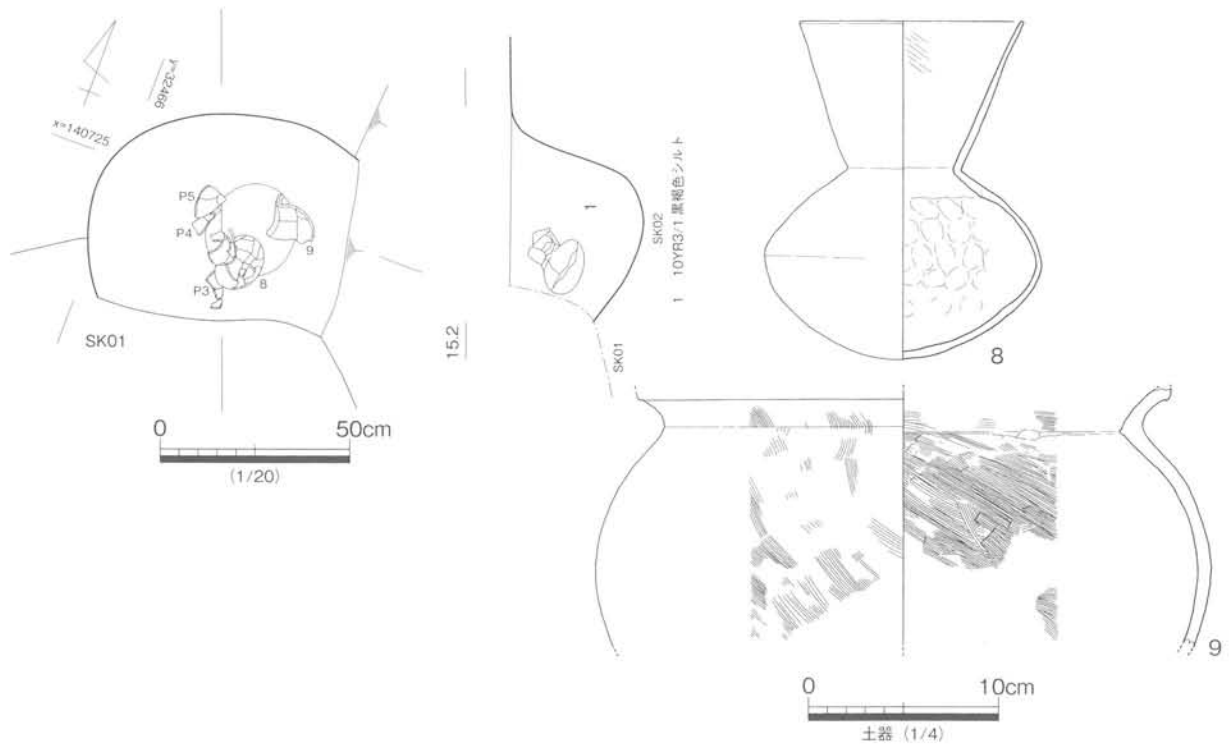
第13図 1・3・6区方形区画断面図

包含層 (H2・I2) 出土の弥生時代の遺物 (第16～18図、第4表)

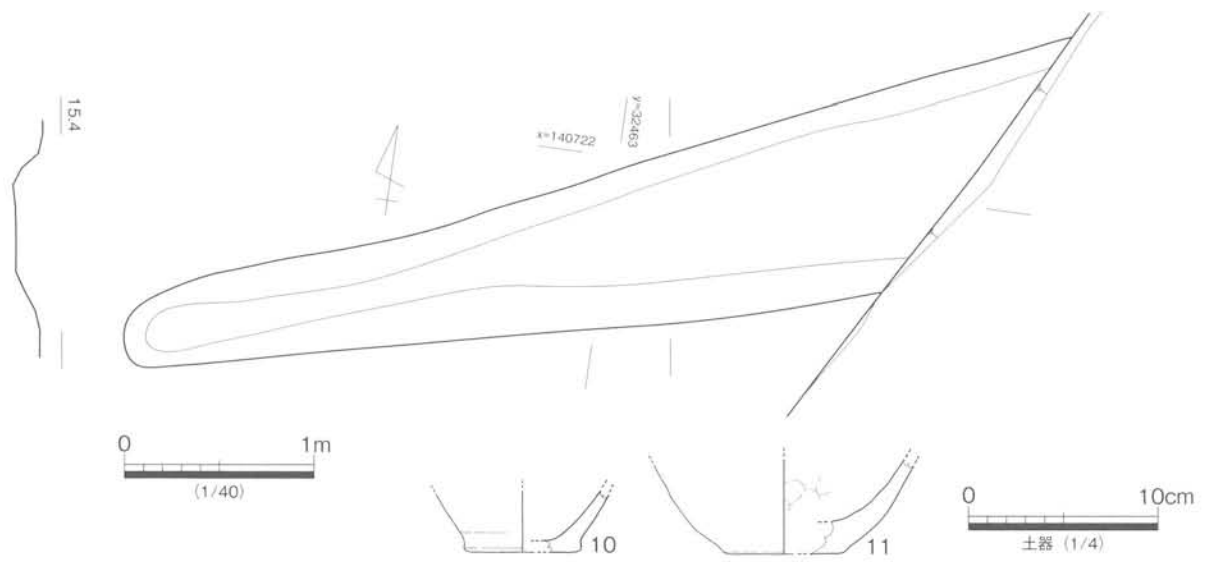
2・4区の南半、5区の南東隅は、基盤層が南にある旧河川に向かい落ち込んでおり、黒色粘土層の堆積が見られる。この黒色粘土層の上面では中世のピットが検出されている。黒色粘土層からは、弥生土器及び須恵器等が出土する。また、サヌカイトの石核・小剥片も少なからず出土しており、弥生時代の石器製作が近辺で行われていたことが考えられる。ここでは、弥生土器及びサヌカイト製石器について報告する。

弥生土器は、中期後半から後期後半のもの12～19が出土している。また、20・21は遺構検出時等に出土したもので、20は13と同一個体の可能性がある。

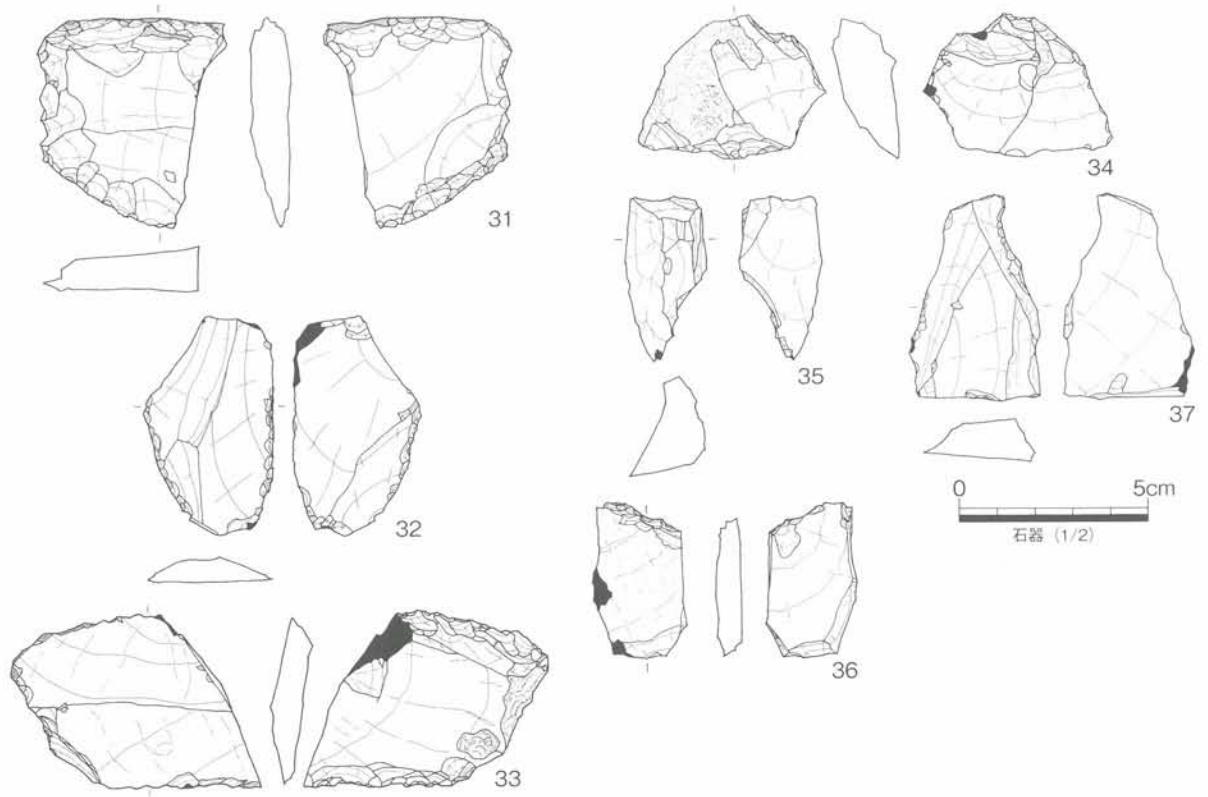
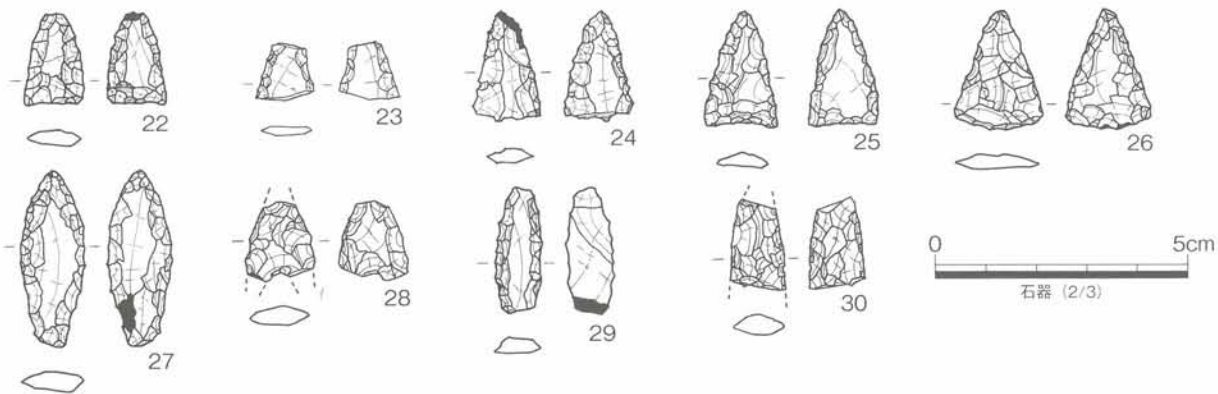
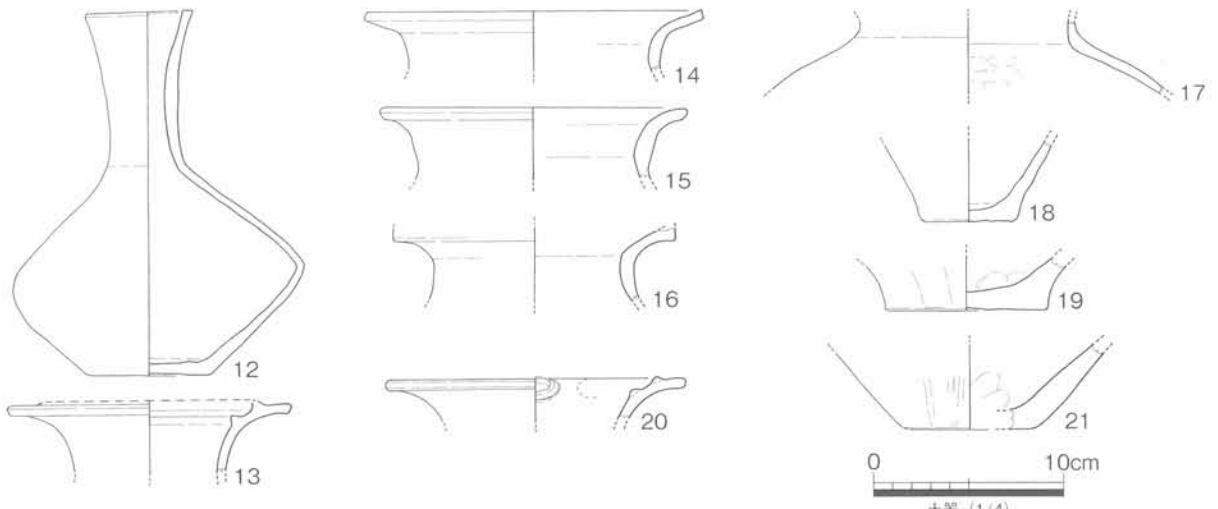
2・4区から出土したサヌカイト製石器の一覧は、第4表のとおりである。このうちの一部を実測した。22～30は、石鏃である。31は打製石庖丁である。32・33は、スクレイパーである。34は、二次加工ある剥片である。35・36は、縦長剥片である。37は、板状剥片を分割したものである。38～42は、石核である。43～54は、楔状石核である。



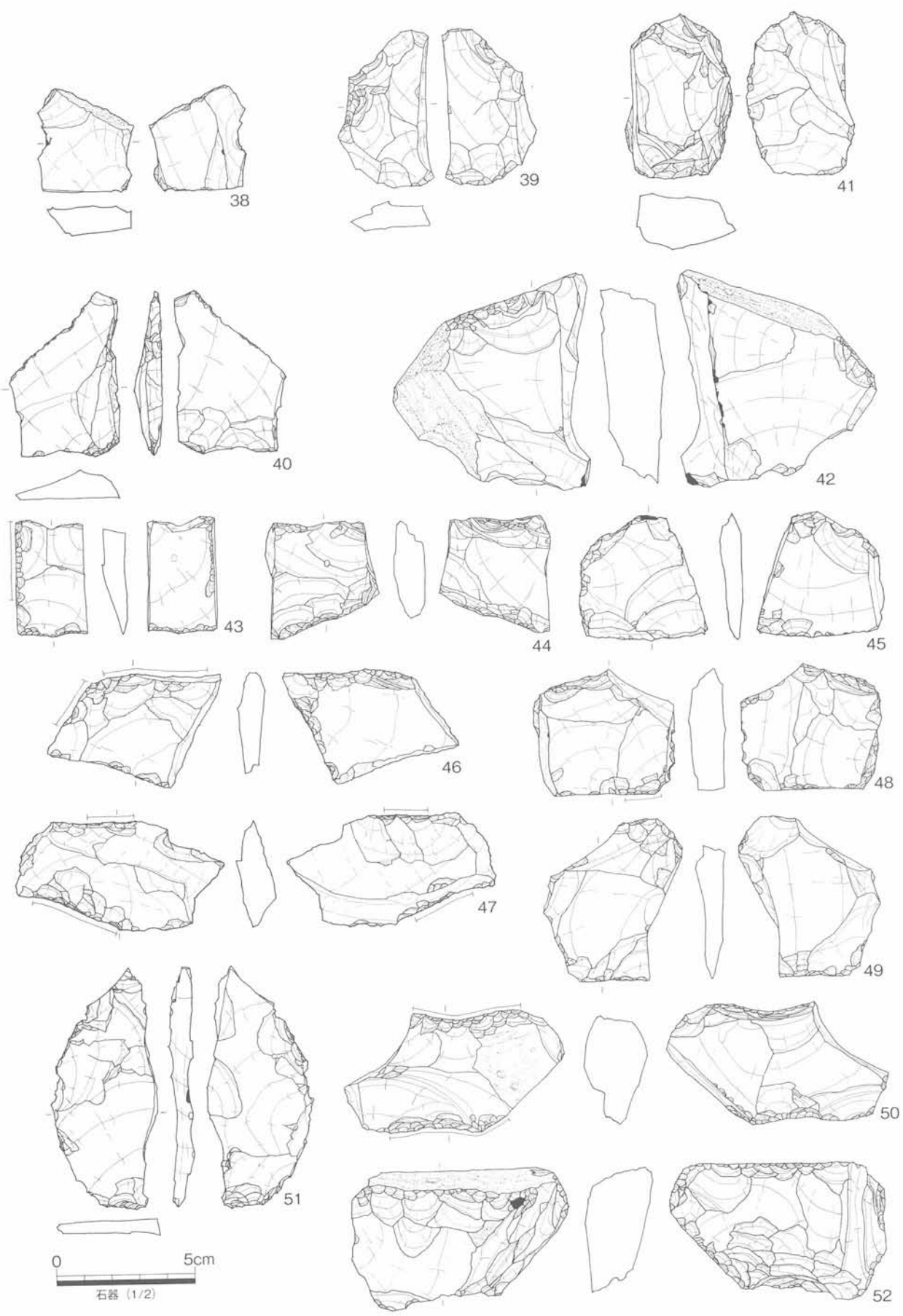
第14図 2区SK02平・断面図、出土遺物



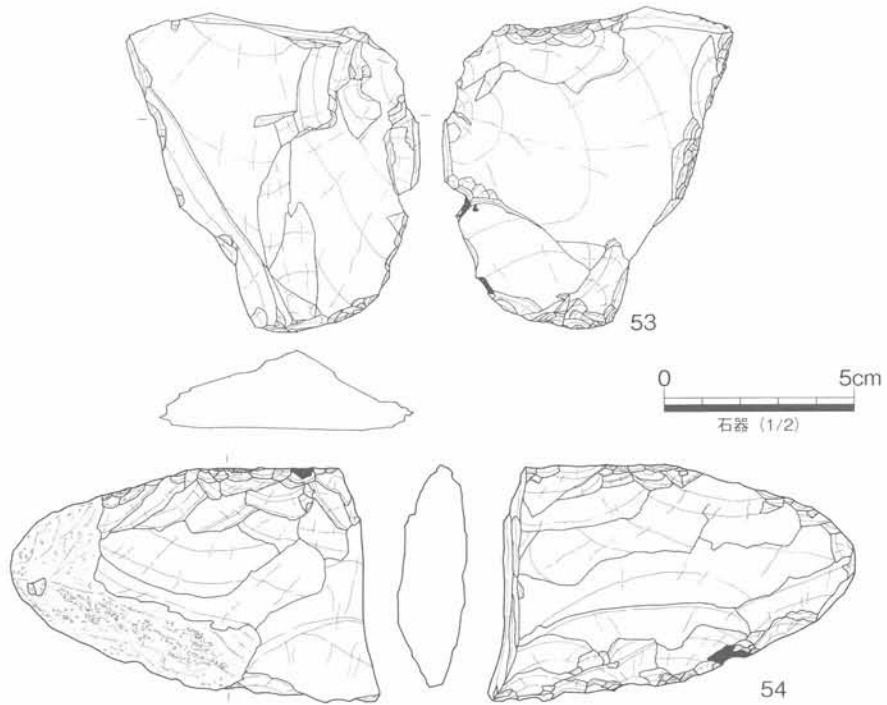
第15図 5区SD01平・断面図、出土遺物



第 16 図 弥生時代の包含層出土遺物 1



第 17 図 弥生時代の包含層出土遺物 2



第 18 図 弥生時代の包含層出土遺物 3

第 4 表 2・4 区出土サヌカイト製石器

(重量 g)

打点あり剥片						打点なし剥片		碎片 (3cm 以下)		二次加工ある剥片		楔状石核	
平坦打面		線状打面		切子打面									
点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量
13	91.49	44	221.7	8	81.15	35	188.4	441	326.42	4	51.65	18	739.11

石核		石核分割		板状剥片分割片		石鏃		スクレイパー		石庖丁		総計	
点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量
3	56.89	12	311.8	14	240.8	10	8.38	3	55.58	1	35.19	606	2409

3 飛鳥時代

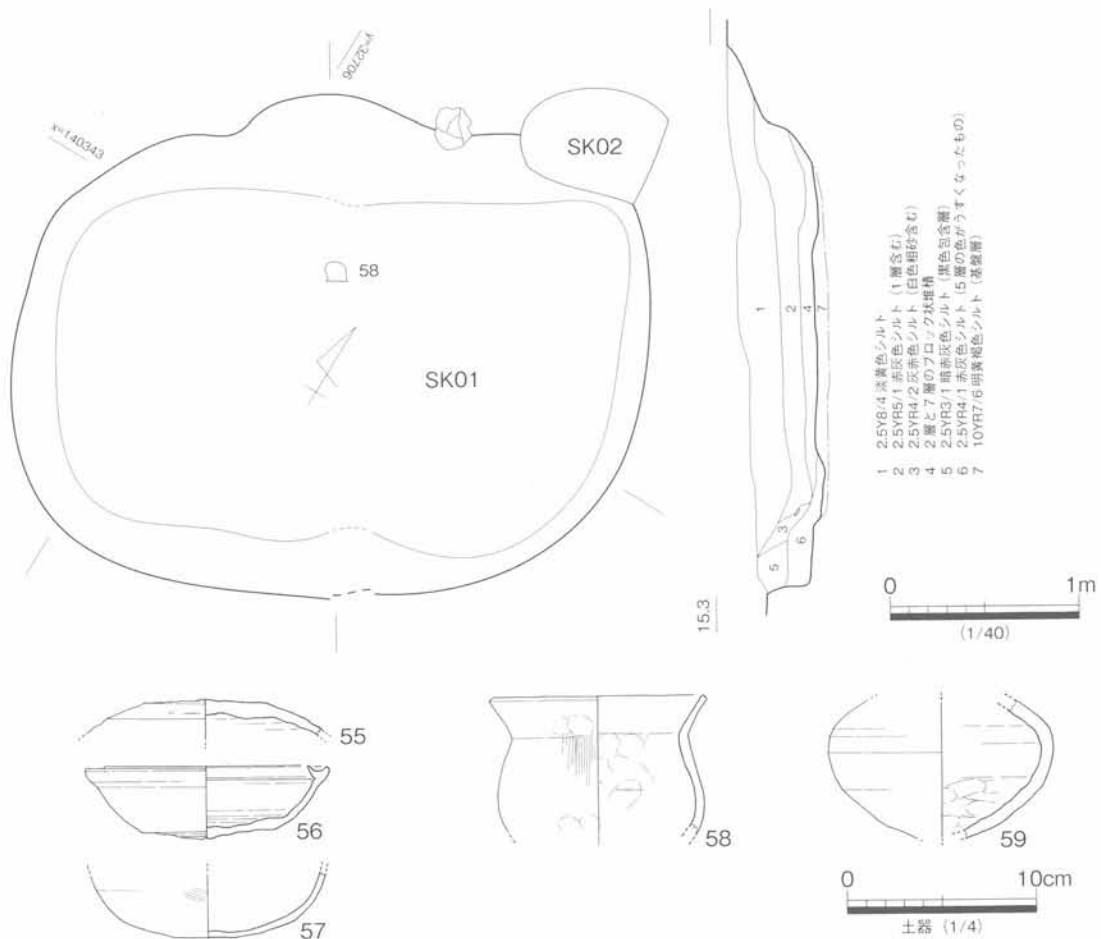
調査区南端の2・5区で遺構がわずかに見られる。

2区SK01 (H2・I2) (第19図)

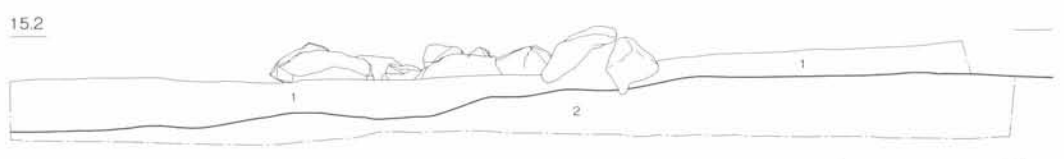
平面形がほぼ方形である。北辺中央がややくぼんでいるため、竪穴建物の竈部分の可能性もあるが、この付近に焼土や炭はみられない。また規模も通常の竪穴建物よりも小さいため、竪穴建物ではないと考えられる。遺物は、須恵器55・56、土師器57・58が出土している。完形品の56は、北西隅斜面の床面付近から、58は床面中央やや北で出土した。56からTK217型式の時期と考えられる。須恵器59は、発掘作業時は、隣接するSK02出土と認識していたが、SK02はほぼ完形の弥生後期後半の土器が出土していることから7世紀代に下ることは考えられず、SK01との境界付近で出土したもので、SK01から出土したとした方がよい。

集石遺構 (I2) (第20図)

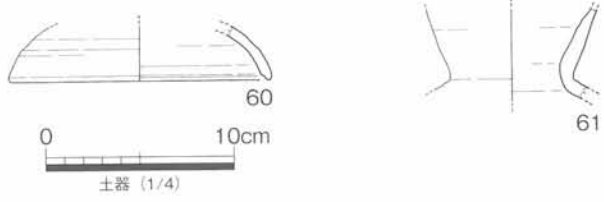
2区黒色粘土層の包含層を掘削中に、人頭大の垂角礫が集中する部分を検出した。付近からは須恵器60・61が出土しているので、当期の遺構と考えられる。礫には整列したような状況は認められず、性格は不明である。



第19図 2区SK01平・断面図、出土遺物



- 1 7.5YR3/2 黒褐色粘土
- 2 橙灰色粘土 (地山)



第 20 図 集石遺構平・断面図、出土遺物

包含層 (H2・I2) (第 21 図)

2・4・5区で見られた包含層の遺物のうち、当期のものをここで報告する。須恵器 62～65 が出土している。

4 平安時代

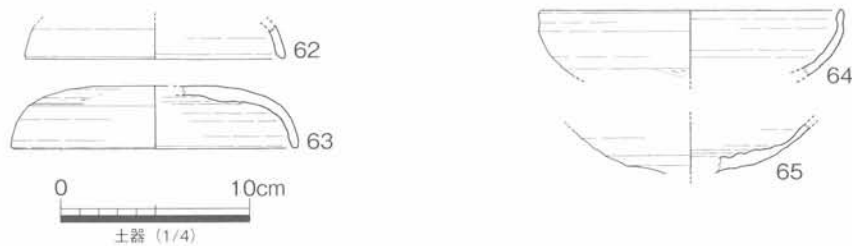
調査区中央の1・3区で、庇付の掘立柱建物とその周辺にのみわずかに遺構が見られる。

1・3区SB02 (G3) (第 22・23 図)

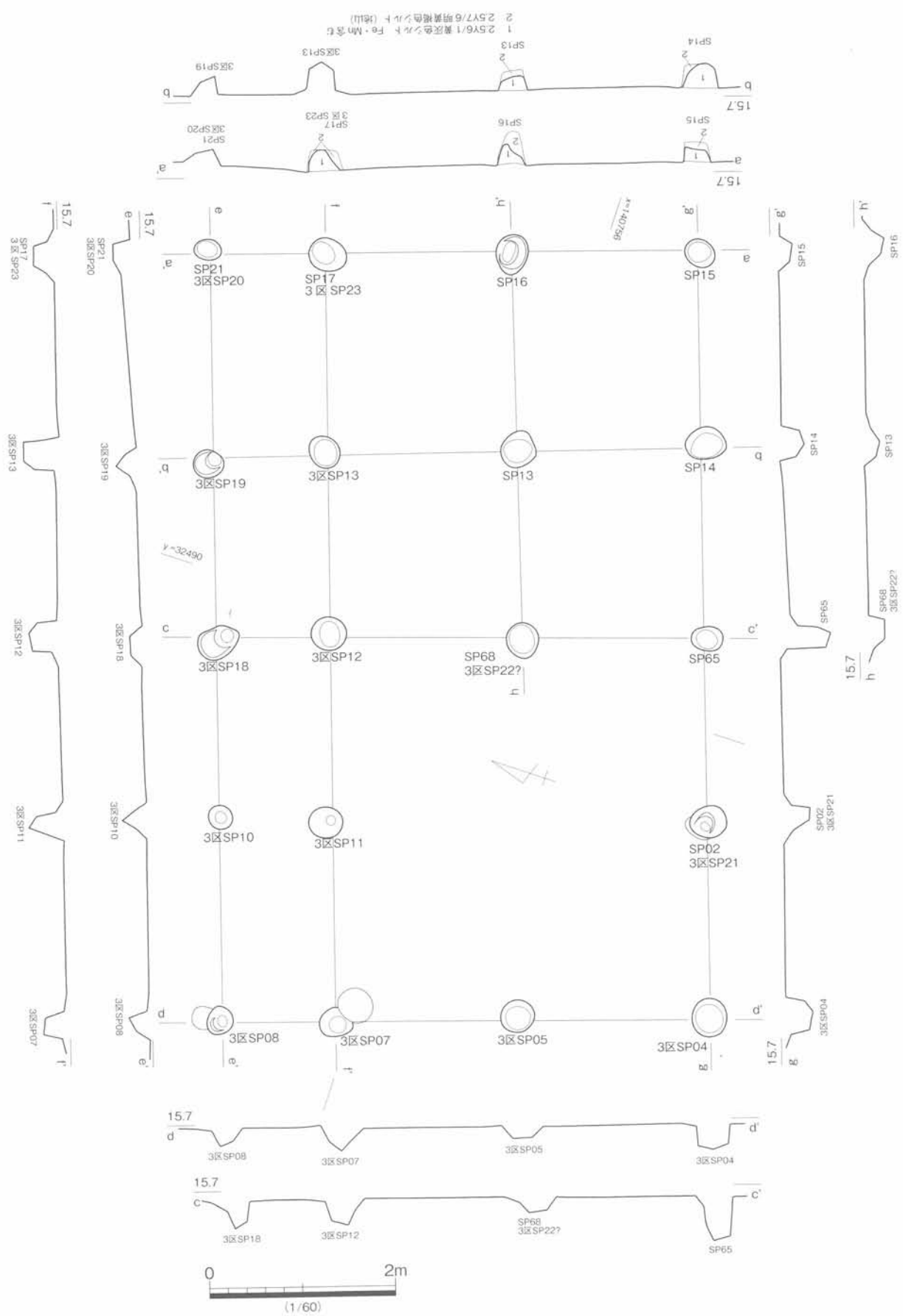
一番北の柱穴列とその南の柱穴列の間隔は、その南側の柱穴列の間隔よりやや狭いことから、建物本体の柱穴列ではなく、庇の柱穴列と考えられる。また一番南の柱穴列の南側には、南側の庇の柱穴と考えてもよい位置にSP37があるが、西側に柱穴列を形成するものがないため、南側は庇がないものとする。したがって、北側庇を除いた建物の規模は、桁行4間(8.3m)×梁行2間(4.0m)で、ほぼ同時期と考えられるまんのう町買田岡下遺跡(註)のSB20とほぼ同じ規模である。主軸方位は、N71°Eで、現在の地割とほぼ平行する。

出土遺物は、3区SP11から土師器66・楠葉産黒色土器B類椀67、1区SP16から黒色土器A類椀68・黒色土器B類椀69、1区SP17から黒色土器A類椀70が出土している。67から10世紀後半頃と考えられる。

(註) 香川県教育委員会『買田岡下遺跡』2004



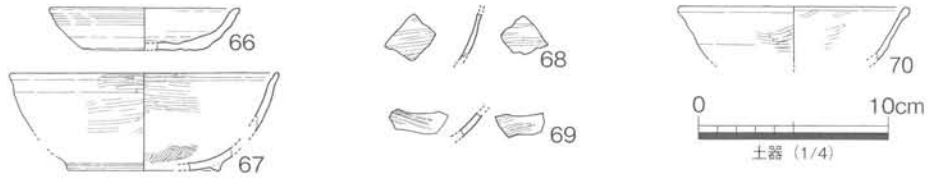
第 21 図 7 世紀の包含層出土遺物



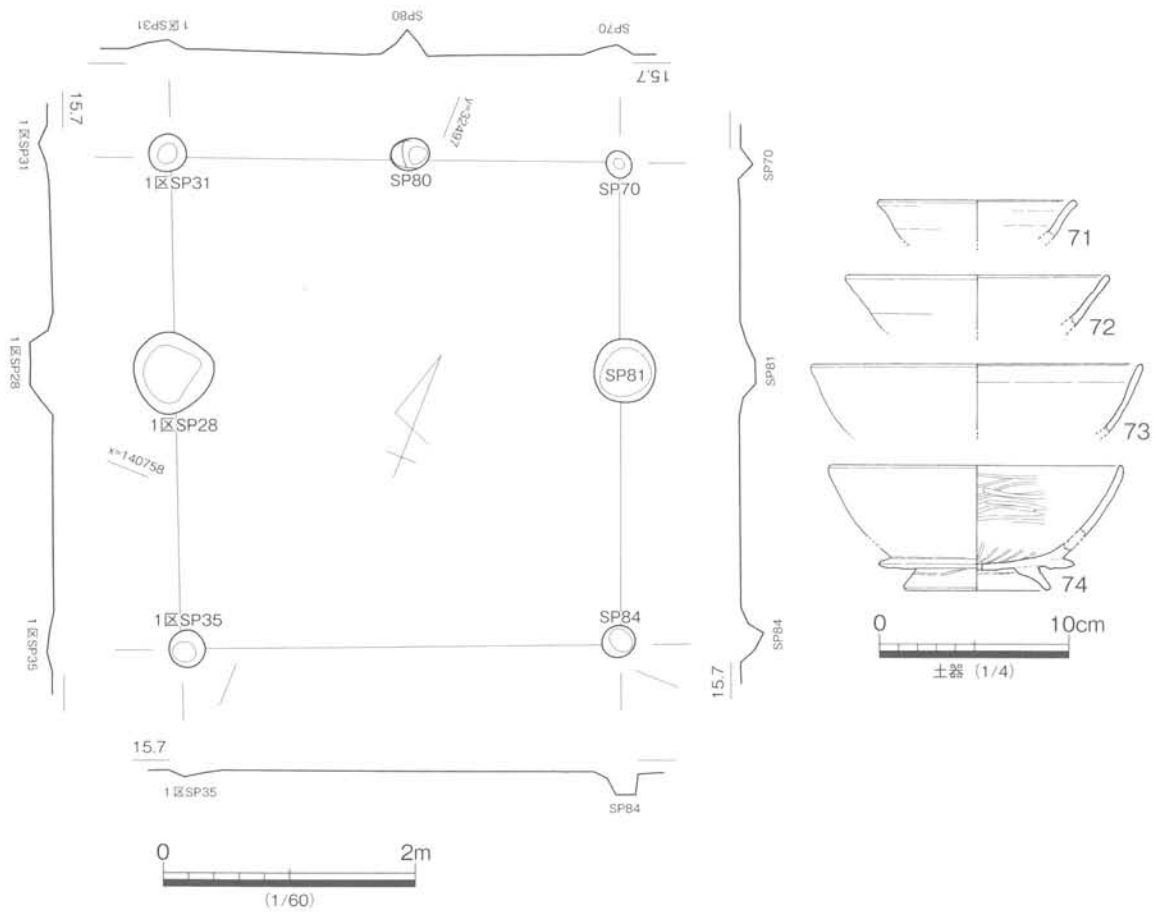
第 22 図 1・3区 SB02 平・断面図

1・6区SB06 (F3・G3) (第24図)

規模は、桁行2間(3.9m)×梁行2間(3.5m)で、主軸方位はN22°Wである。出土遺物は、SP28から土師器、黒色土器が出土している。74は黒色土器A類の台付椀で、深椀タイプで10世紀後半の時期と考えられる。



第23図 1・3区SB02出土遺物



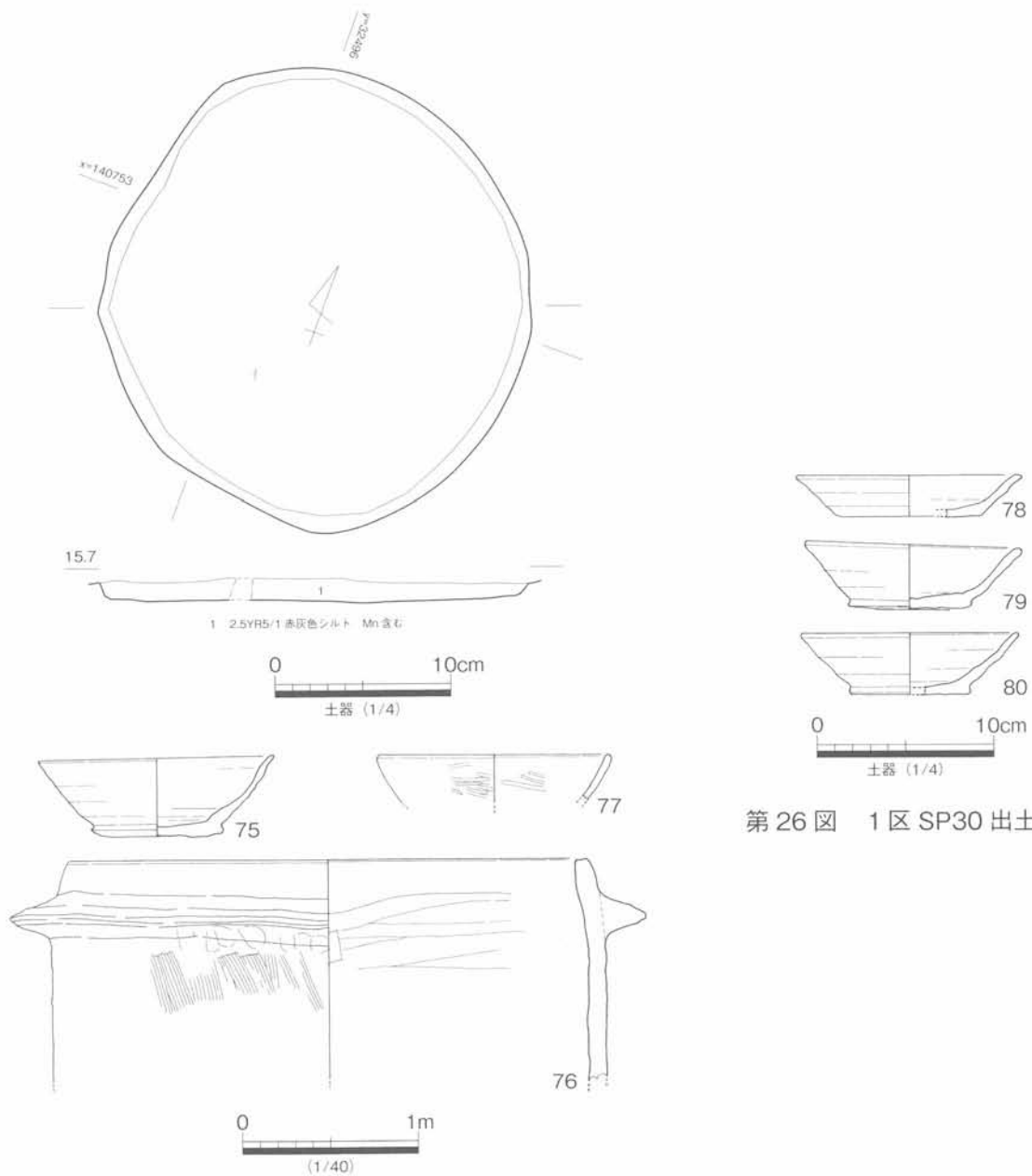
第24図 1・6区SB06平・断面図、出土遺物

1区SK01 (G3) (第25図)

平面形がほぼ円形の土坑である。ほぼ同時期と考えられる掘立柱建物SB03に近接することから、同建物に関連するものと考えられる。土器片の出土量は多くないものの、廃棄土坑のような性格が考えられる。土師器75・76、黒色土器A類碗77が出土している。土師器の杯から10世紀後半頃の年代が考えられる。

1区SP30 (G3) (第26図)

土師器78～80が出土している。土師器の杯から10世紀後半頃の年代が考えられる。



第26図 1区SP30出土遺物

第25図 1区SK01平・断面図、出土遺物

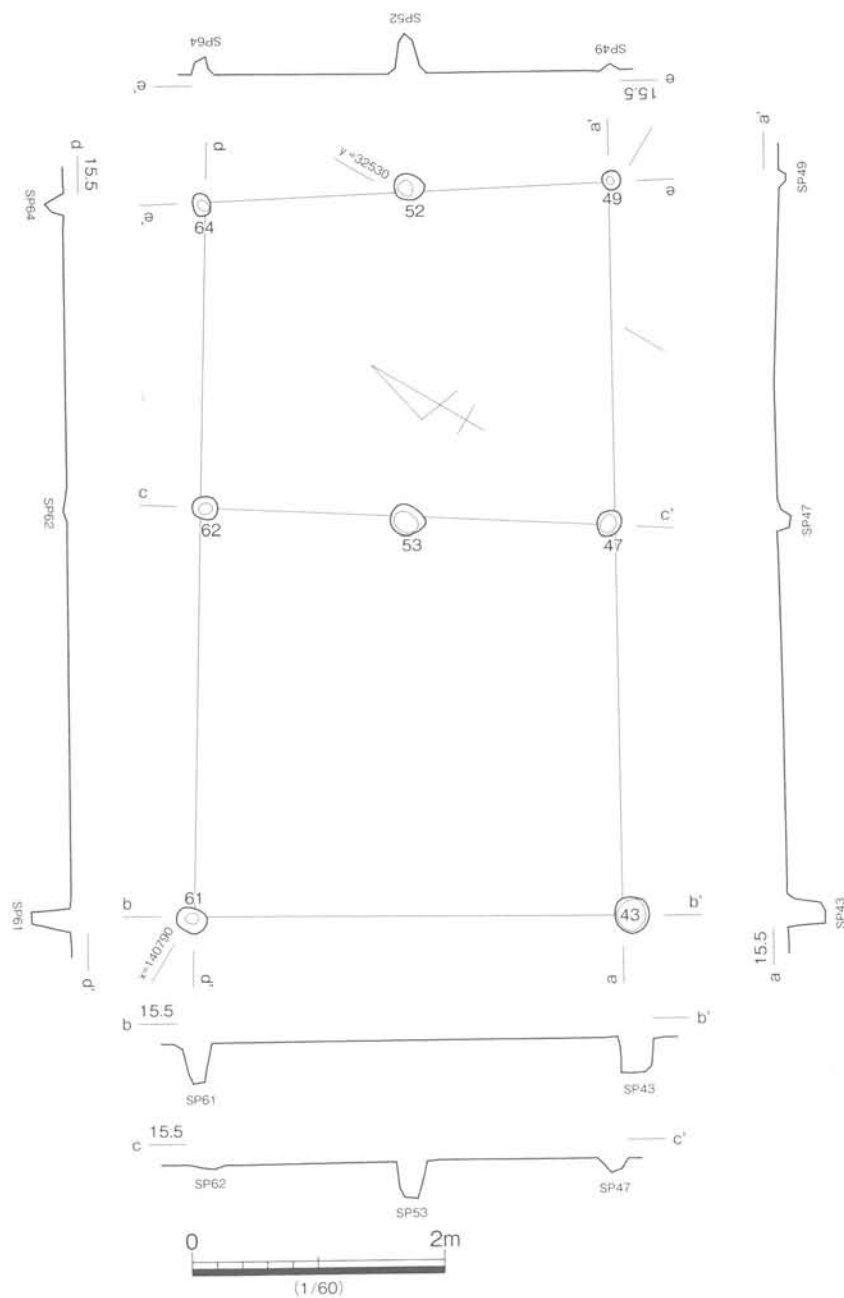
5 中世

中世の遺構は、IV～VI、6・7区に建物跡を中心とする遺構が見られる。また、調査区南端でも、弥生時代から古代の包含層の上面でわずかなピット群が見られる。

掘立柱建物

VI区SB01 (E5) (第27図)

規模は桁行2間(5.8m)×梁行2間(3.4m)で、主軸方位はN59°Eである。柱穴からは土師器小片がわずかに出土しているのみである。主軸方位、柱穴の規模から中世の時期と考えられる。



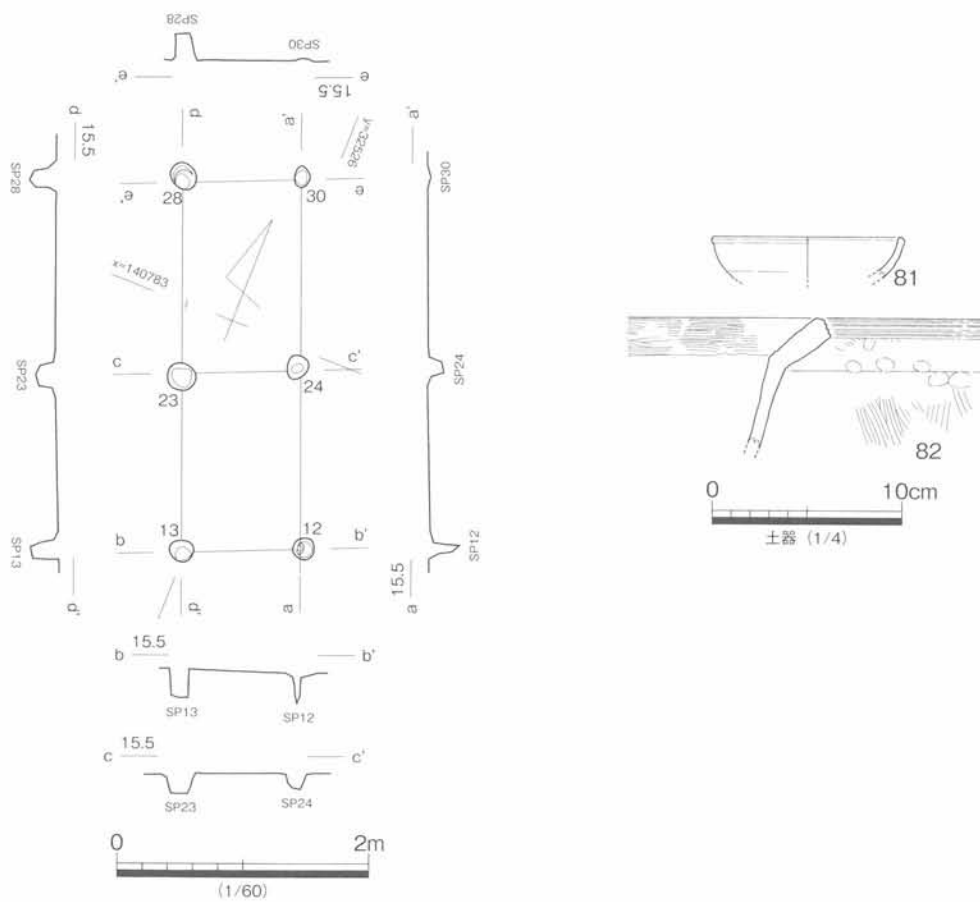
第27図 VI区SB01平・断面図

Ⅵ区SB02 (E5) (第28図)

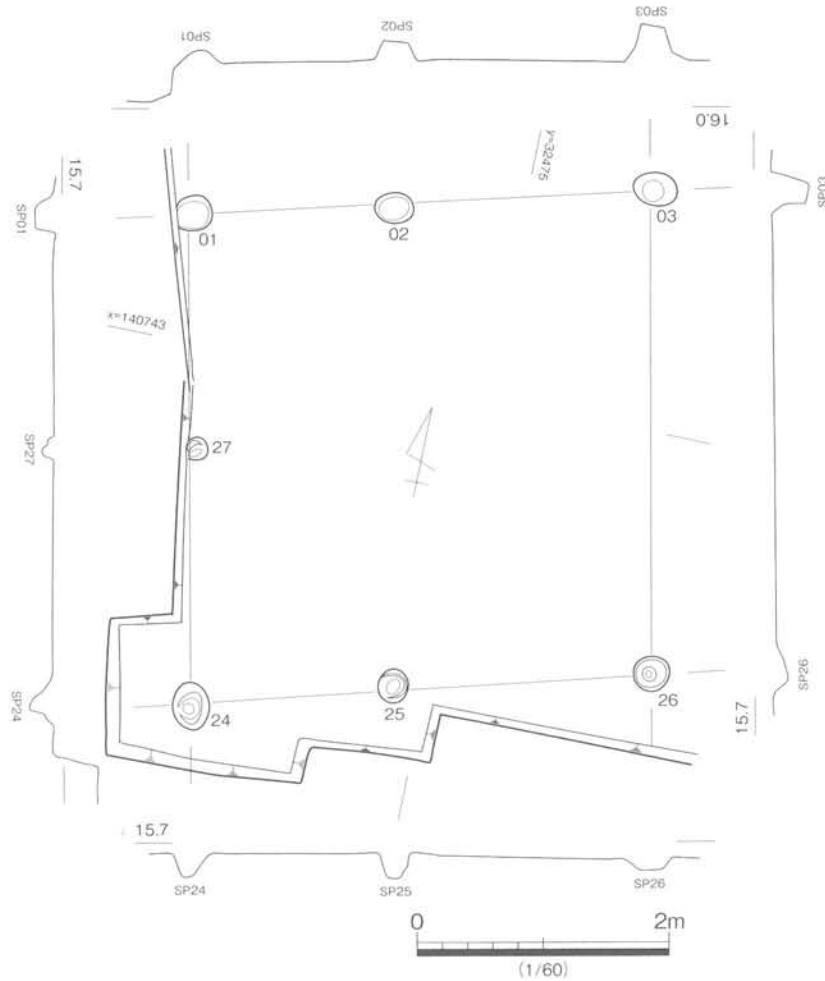
規模は桁行2間(2.9m)×梁行1間(0.9m)で、主軸方位はN22°Wである。SP13からは土師器杯81、SP28からは土師器鍋82が出土している。空港跡地遺跡分類では土師器杯がDⅡ-6型式、土師器鍋がAⅠ型式で、13世紀後半頃の時期が考えられる。

Ⅲ区SB01 (G2) (第29図)

柱穴列は調査区西側へ続く可能性があり、正確な規模は確定できないが、桁行2間(3.9m)×梁行2間(3.6m)の建物としておく。主軸方位は、N12°Wである。出土遺物は土器細片が少量出土しているのみで、そのうち3区SP02から黒色土器B類の細片が出土していることから、平安時代後半以降の建物と考えられる。柱配置がやや規格性が低いことから中世の建物の可能性が高い。



第28図 Ⅵ区SB02平・断面図、出土遺物



第29図 3区SB01平・断面図

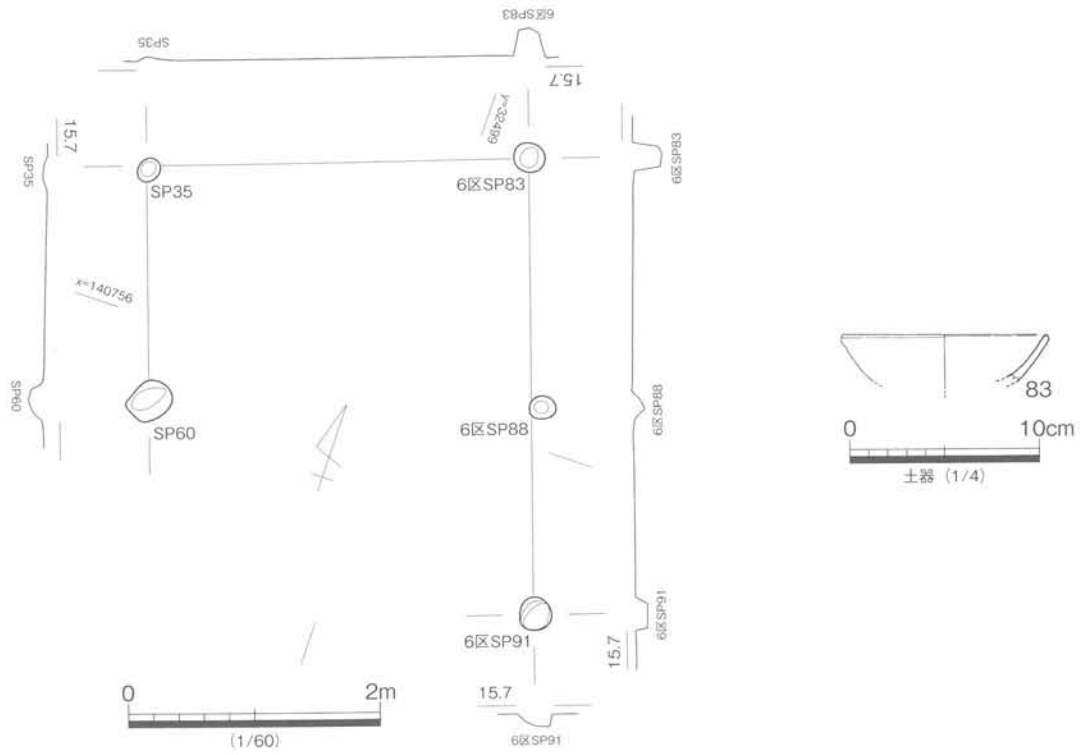
1・6区SB03 (G3・G4) (第30図)

規模は、桁行2間(3.6m)×梁行1間(3m)で、主軸方位はN19°Wである。

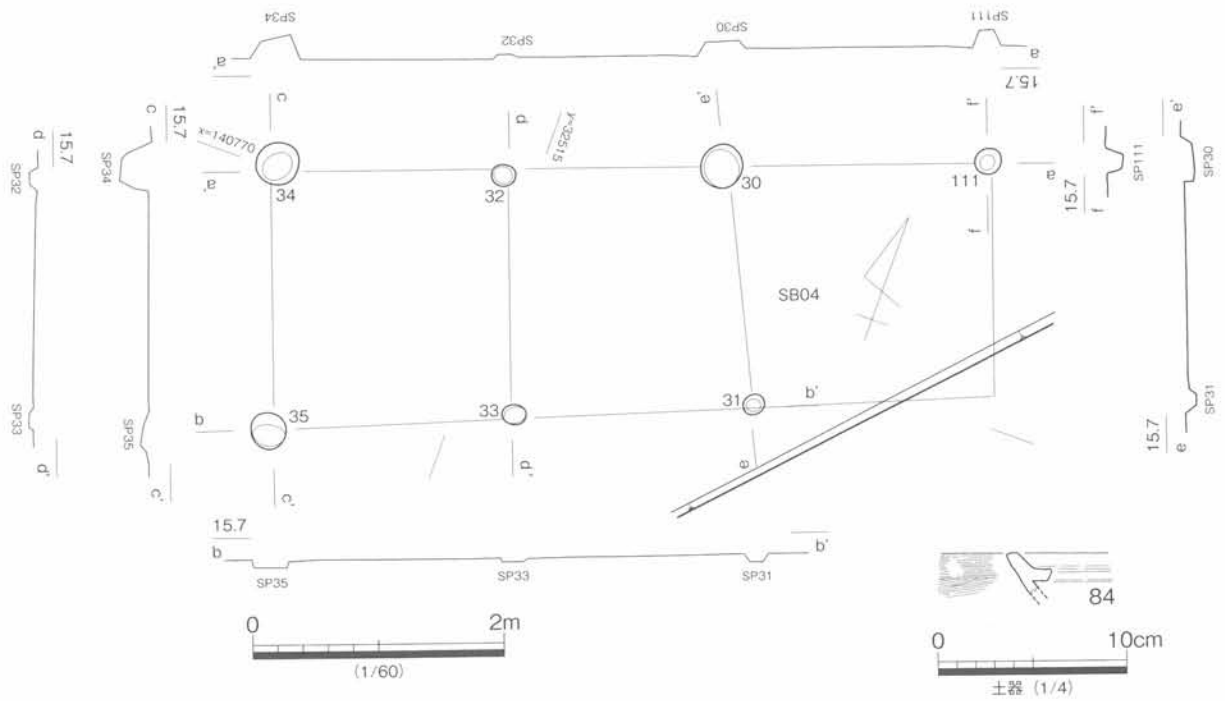
SP60から土師器杯83が出土しているほか、黒色土器A類等の細片が少量出土しているが、83は空港跡地遺跡分類DⅡ-6型式で、13世紀後半頃の時期と考えられる。

6区SB04 (F4) (第31図)

西側柱穴列のうちSP35が浅いことから、一部の柱穴は調査区外にあると考えられるが、現状の規模は桁行3間(5.7m)×梁行1間(2.0m)で、主軸方位はN70°Eである。出土遺物は、SP34から土師器足釜84が出土している。他の遺構の時期からも、13世紀後半頃と考えられる。



第30図 1・6区SB03平・断面図、出土遺物



第31図 6区SB04平・断面図、出土遺物

6・7区SB05 (E4・F4) (第32・33図)

周溝を持つ総柱の建物跡である。東端は、周溝が途中までしか検出できていないため、全体の規模は不明であるが、現状で桁行2間(4.7m)×梁行2間(3.7m)である。建物内にあったと考えられるSX02及びその近辺からは銅の鑄造時に発生する径数mmの銅滴7点が出土していること、SD06その他の遺構等から銅滓が3点(142～144)出土していることから、この建物は、銅鑄造の工房の可能性はある。

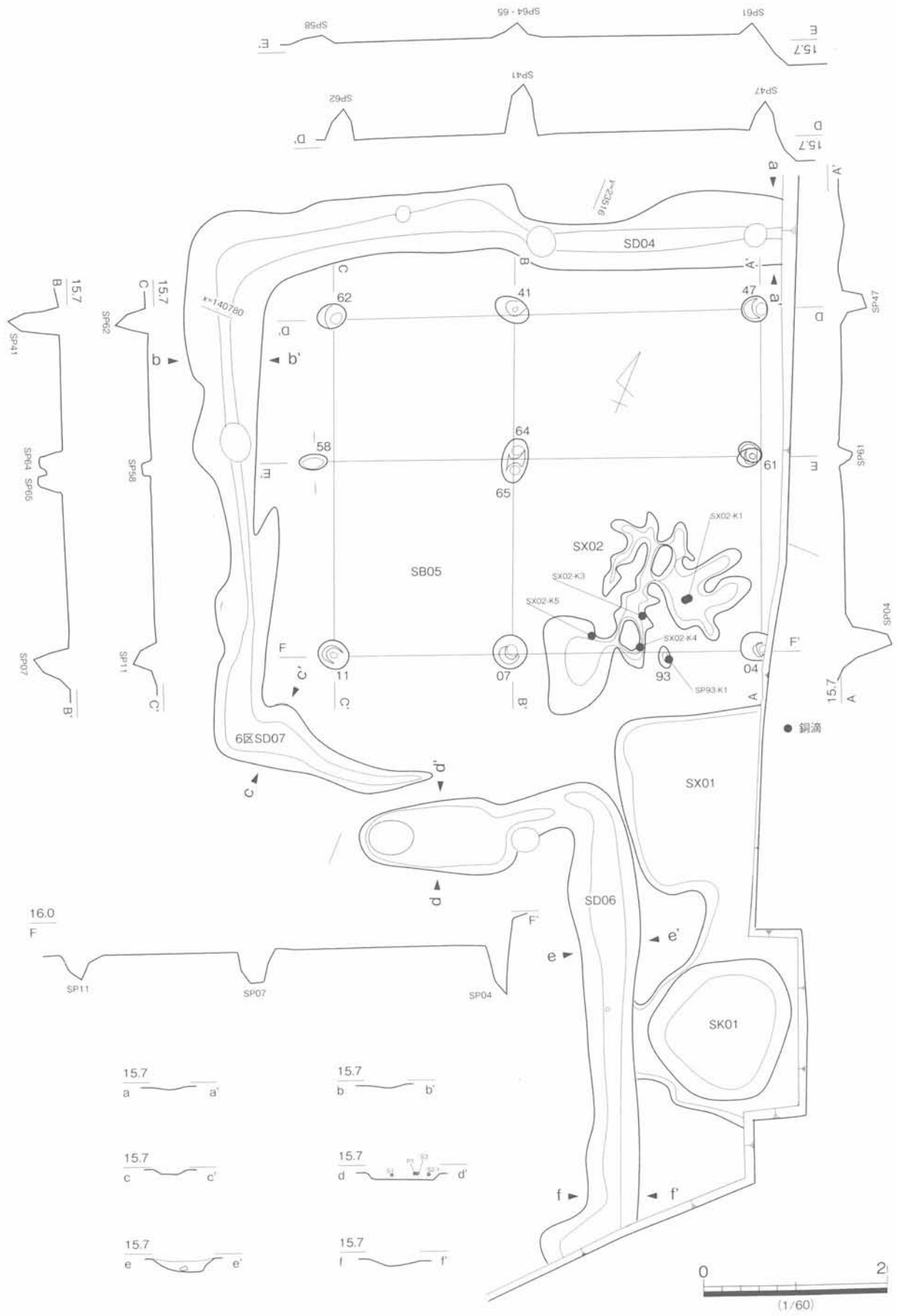
出土遺物は、85～95が柱穴から出土した。85・86はSP04から出土した土師器皿及び西村産須恵器碗である。87～89は、SP07から出土した土師器である。90はSP11から出土した土師器である。91はSP264から出土した土師器杯である。92・93はSP47から出土した土師器である。94はSP62から出土した土師器杯である。95はSP64・65から出土した土師器杯である。

96・97はSX02から出土した土師器皿及び西村産須恵器碗である。98～125は6区SD06から出土した。98～123は土師器である。124は西村産須恵器杯である。125は青白磁壺である。126～140は、6区SD07及び7区SD04(同一の溝)から出土した。126～137は土師器である。138は東播系須恵器鉢である。139は須恵器鉢で、138と同一個体の可能性がある。140は中国産白磁碗である。141は6区SD06から出土した砥石である。上記の銅滓は他遺構から出土したものも含めここで報告する。142は6区SD06から出土した。143は6区SD06の東に隣接するSX01から出土した。144は、当遺構から10m程度西側にあるSD03から出土した。

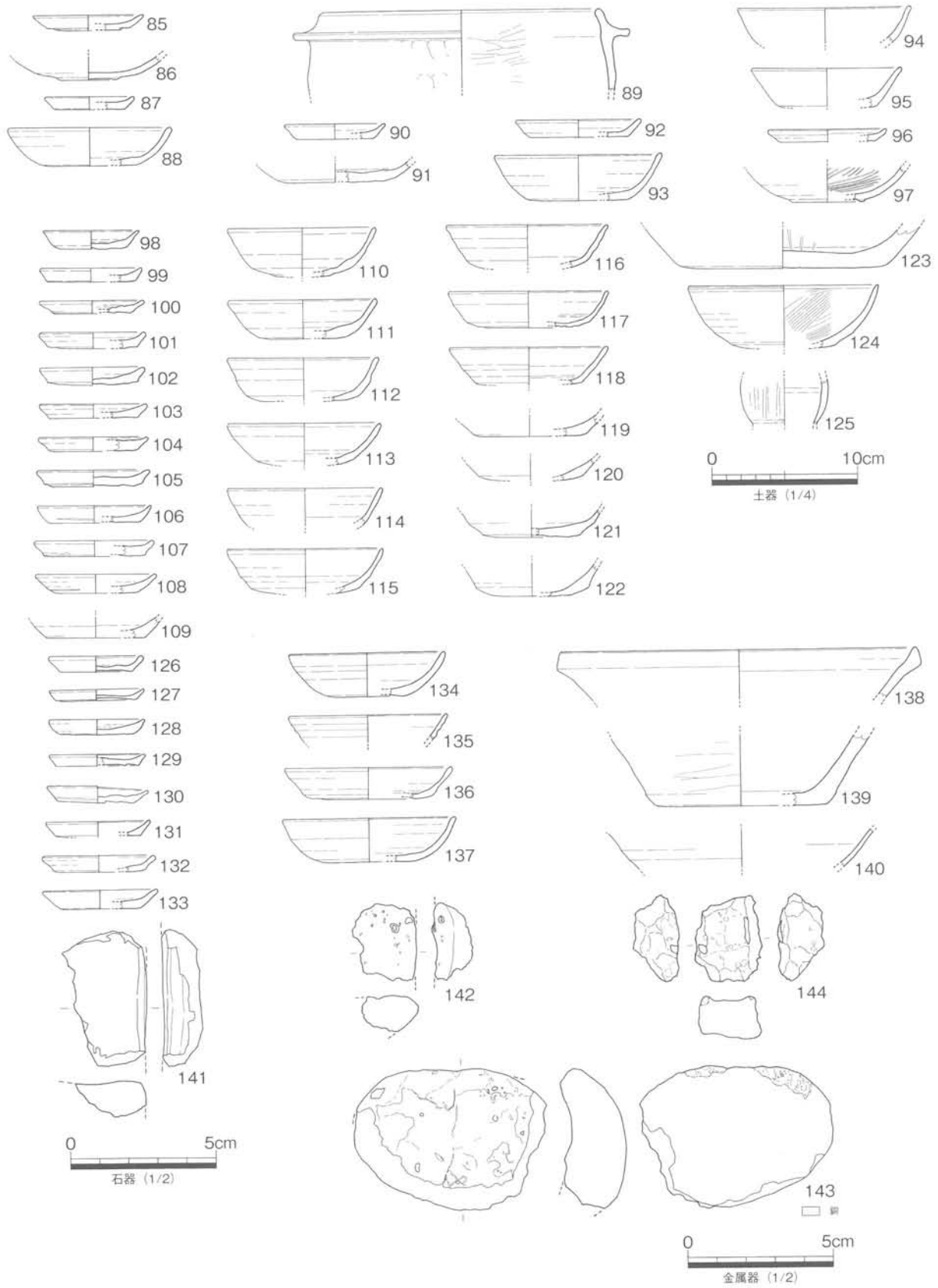
出土遺物の時期は、空港跡地遺跡分類で土師器皿がBⅢ-2～4型式、土師器杯がDⅡ-6型式、西村産須恵器碗がAⅡ-10型式であり、中世Ⅱ-3～4期(13世紀後半頃)と考えられる。また、東播系須恵器鉢は、森田稔編年(註)の第Ⅱ期2段階から第Ⅲ期1段階で、12世紀末から13世紀の時期と考えられる。

以上から、当遺構の時期は、13世紀後半と考えられる。

(註) 森田稔「中世須恵器」『概説中世の土器・陶磁器』1995



第 32 图 6·7 区 SB05、SX02、SD04·06 平·断面图



第33図 6・7区SB05出土遺物

6区SX01 (F4、F5) (第32・34図)

平面形が不定形な遺構である。SK01との前後関係は不明である。前記のSB05に近接し、同時期と考えられることから関連する施設あるいは周溝の一部かもしれない。出土遺物は、145～157が土師器である。158は須恵器椀である。159～161は西村産須恵器椀である。空港跡地遺跡分類では、土師器皿がBⅢ-3～4型式、土師器杯がDⅡ-5・6型式で、中世Ⅱ-3～4期(13世紀後半頃)が考えられる。

6区SB07 (G3) (第35図)

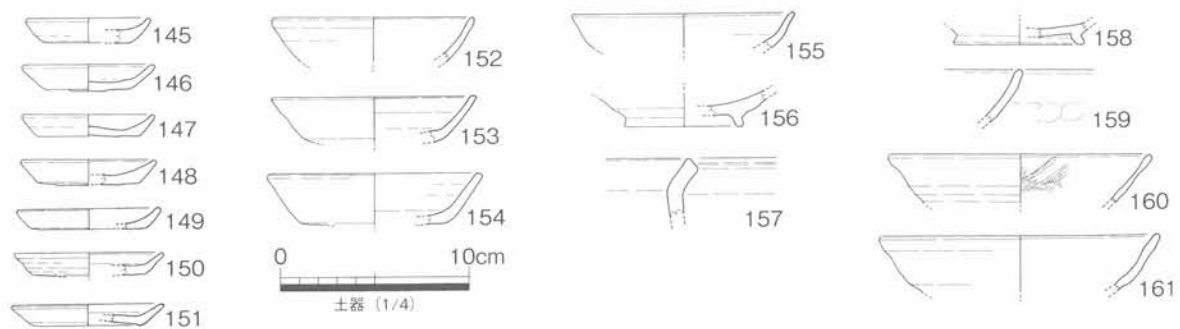
規模は桁行3間(3.4m)×梁行1間(1.8m)で、主軸方位はN21°Wである。出土遺物は、土師器の小片が数点出土しているのみである。柱穴の規模が小さいことから中世の遺構と考えられる。

6区SB08 (F4) (第36図)

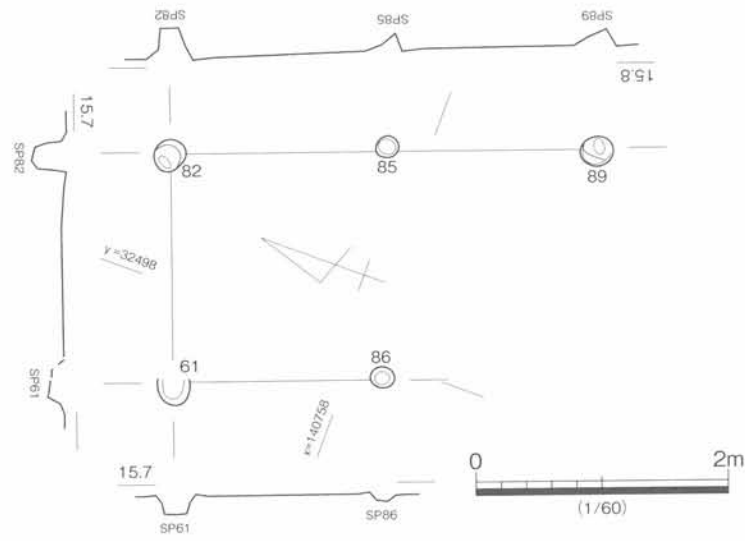
規模は1間(3.3m)×1間(3.0m)で、主軸方向はN22°Wである。出土遺物は、SP20から土師器162～167、黒色土器A類椀168、西村産須恵器椀169、鉢170が出土している。SP37からは龍泉窯系青磁椀I-5類171、SP53からは土師器皿172が出土している。空港跡地遺跡分類では、土師器皿がBⅢ-4型式、土師器杯がDⅡ-6型式、須恵器鉢がE-4型式で、中世Ⅱ～Ⅲ期(13世紀後半頃)と考えられる。

7区SB09 (E4) (第37図)

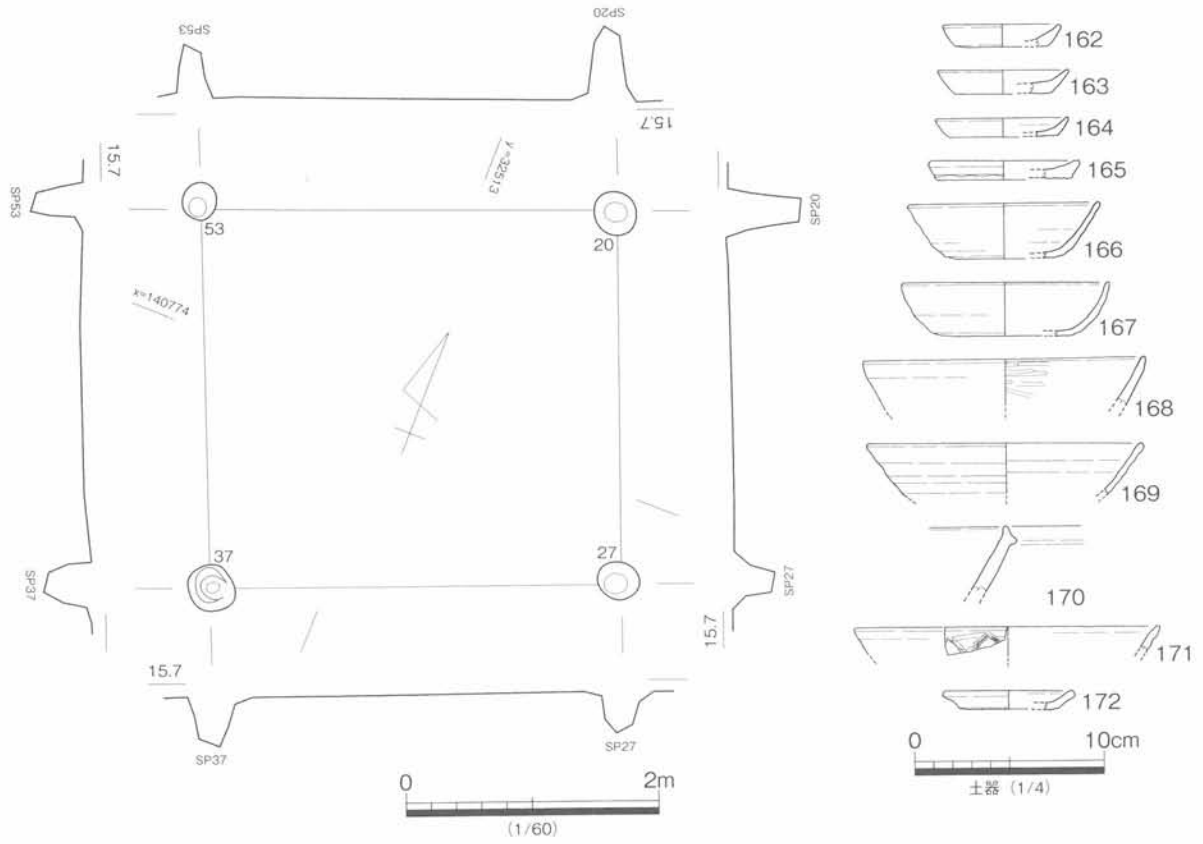
規模は桁行2間(6.5m)×梁行1間(2.9m)で、主軸方位はN67°Eである。SP10・19も建物を構成する可能性はある。また、周囲の小ピット群は、庇を構成する柱穴になる可能性がある。出土遺物は土師器の小片がわずかに出土しており、SP26からは土師器杯173が出土している。建物の方向、柱穴の規模から中世の時期と考えられる。



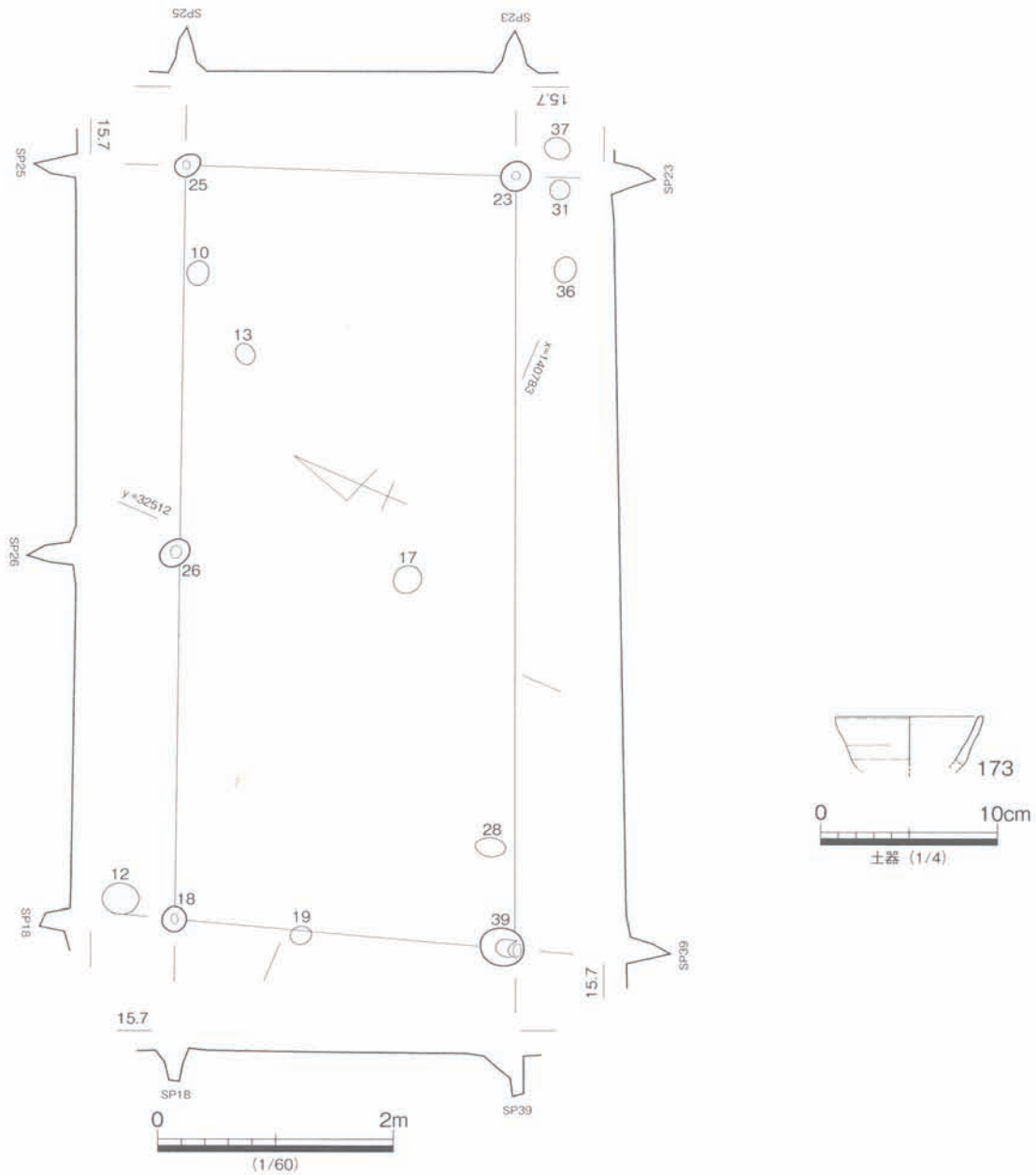
第34図 6区SX01 出土遺物



第35图 6区SB07平·断面图



第36图 6区SB08平·断面图、出土遺物



第37図 7区SB09平・断面図、出土遺物

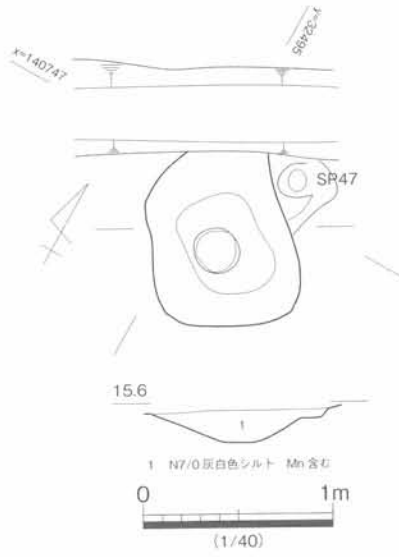
土坑

1区SK03 (G3) (第38図)

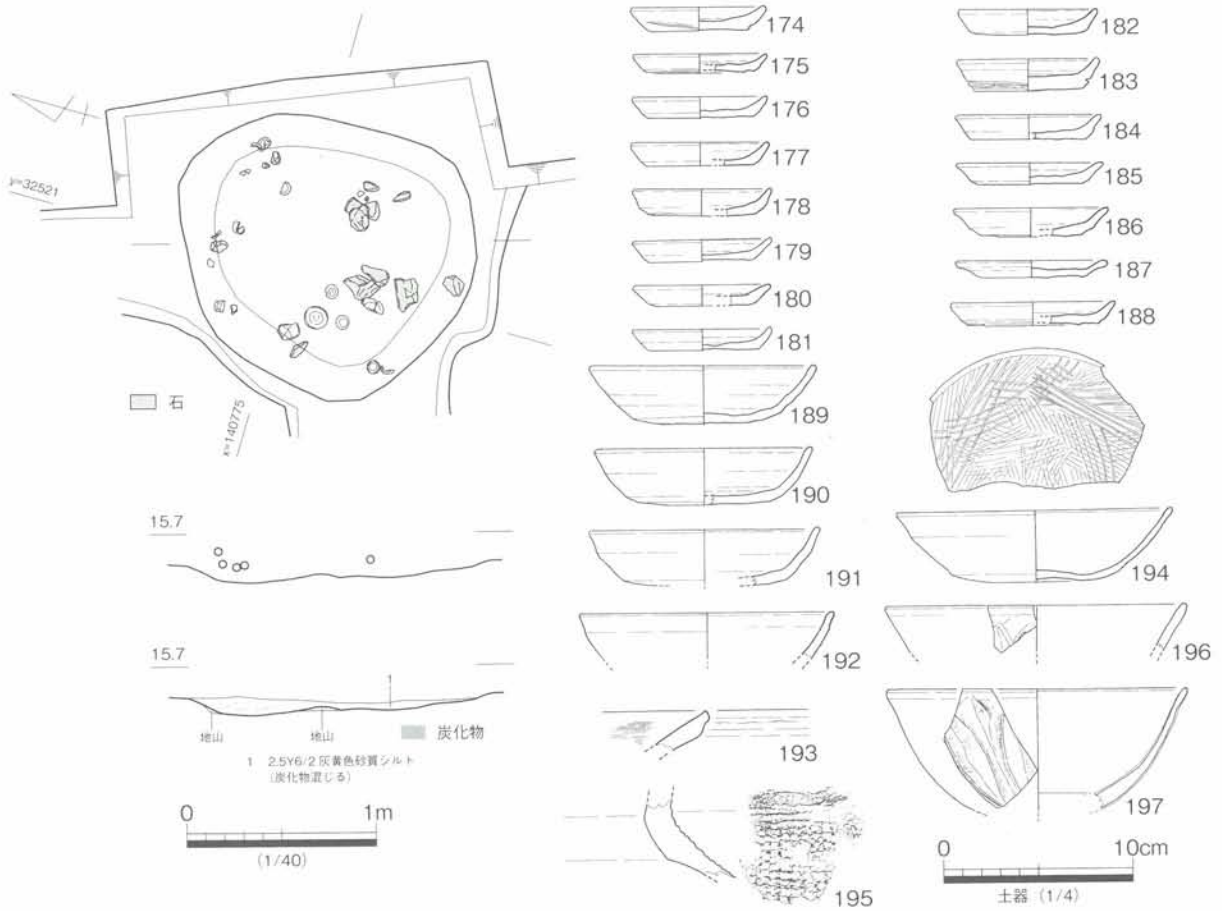
遺物は土師器小片が少量出土しているのみである。

6区SK01 (F5) (第39図)

6区SX01を発掘後に検出したが、埋土はよく似ており、新旧関係は明らかではない。埋土から、人頭大以下の礫、炭化物、土器片が出土している。廃棄土坑と考えられる。土師器174～193、西村産須恵器杯194、亀山焼195、中国産青磁I-5類196・197等が出土している。土師器皿は、空港跡地遺跡分類のBⅢ-4, 3, 2型式と考えられこのうち4型式が多い。杯は、DⅡ-4・5型式と考えられ、



第38図 1区 SK03 平・断面図



第39図 6区 SK01 平・断面図、出土遺物

このうち5型式が多い。以上から中世Ⅱ-3~4期で、13世紀後半と考えられる。

6区SK04 (F4) (第40図)

6区SX01より古い。土師器杯198が出土している。13世紀後半頃の遺構と考えられる。

7区SK01 (F4) (第41図)

埋土に炭及び礫を含む。土師器杯199及び埋土から中世の遺構と考えられる。

ピット

6区SP87 (G3) (第42図)

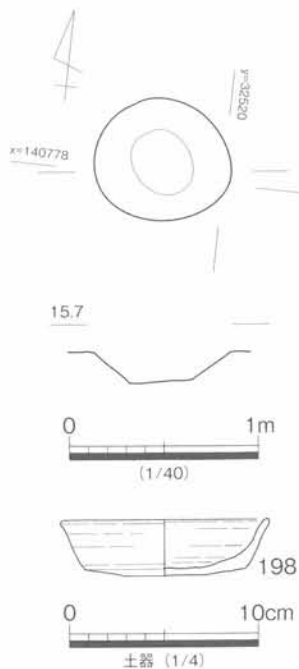
平面形が楕円形で、長径70cm、短径42cm、深さ10cm程度である。土師器杯200~210、須恵器甕が出土している。土師器杯には完形に近いものもあるが、整列された状況ではないため、廃棄土坑と考えられる。土師器杯は空港跡地遺跡分類のDⅡ-5・6で、13世紀後半の時期が考えられる。

7区SP27 (F4) (第43図)

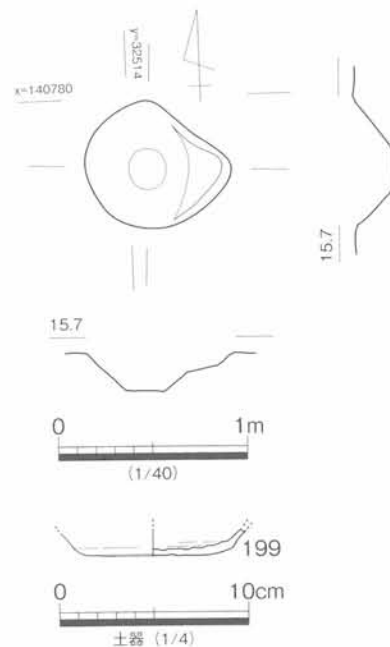
径40cm、深さ50cm程度である。完形品及びそれに近い土器が出土している。211~218はいずれも土師器である。空港跡地遺跡分類では、土師器皿がBⅢ-4型式、土師器杯がDⅡ-6型式で、中世Ⅱ-3~4期(13世紀後半頃)が考えられる。

中世のピット出土遺物 (第44図)

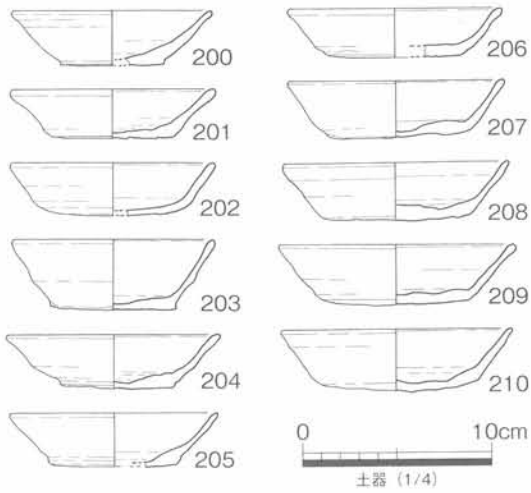
中世の他のピットから出土した土器をまとめて掲載する。出土位置は観察表を参照されたい。219~245は土師器である。246は須恵器である。247・248は西村産須恵器碗である。249・250は瓦器碗である。251は、砥石である。252は初鑄年1009年の銅銭祥符元寶である。



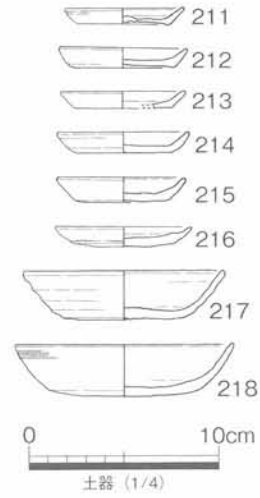
第40図 6区SK04平・断面図、出土遺物



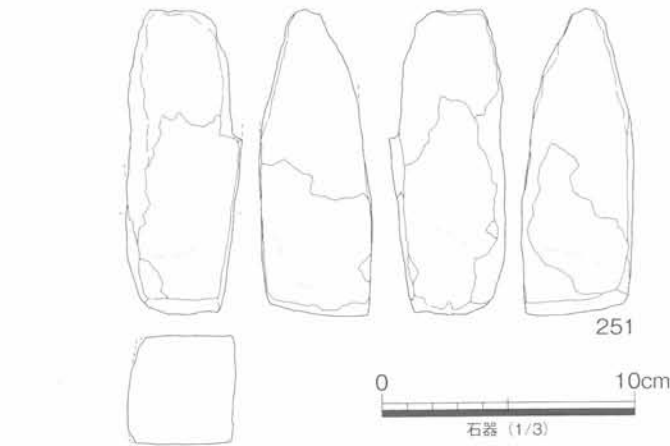
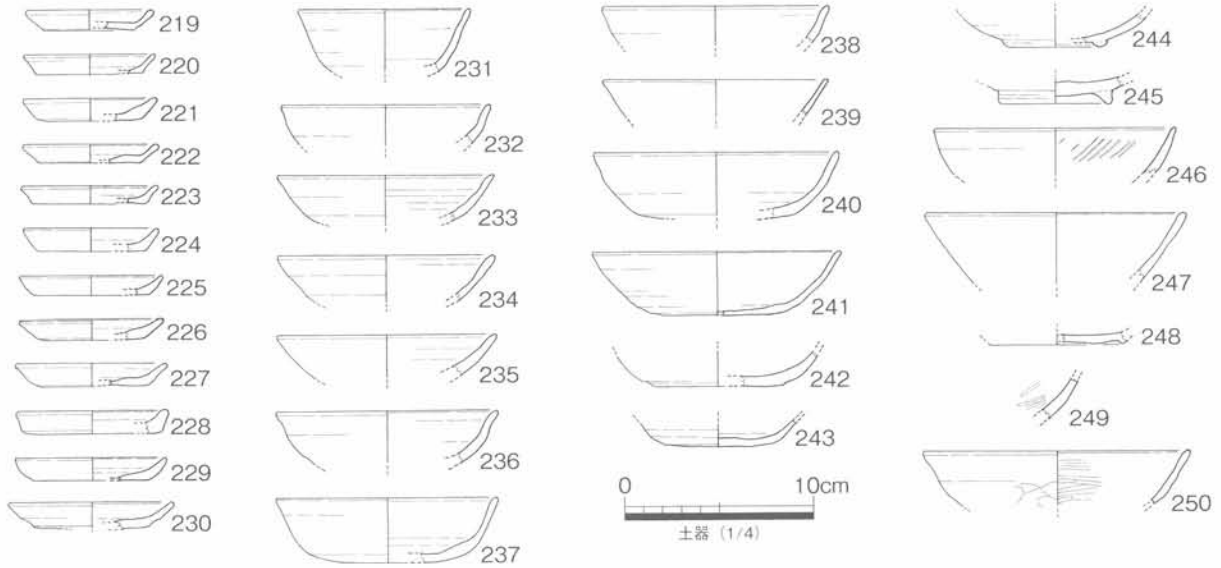
第41図 7区SK01平・断面図



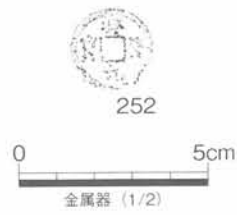
第 42 図 6区 SP87 出土遺物



第 43 図 7区 SP27 出土遺物



第 44 図 中世のピット出土遺物



溝

Ⅱ区SD12 (B8) (第45図)

北端部で土器が集中して出土している。須恵器 253・254 や土師器小片が出土している。土師器小片は胎土から中世の時期と考えられるが、溝の時期は近世以降に下る可能性がある。

1・3区SD01、1区SD02 (G3) (第46図)

ほぼ同じ位置にある溝で、1区SD01のほうがSD02より新しい。またSD01は近世以降のピットSP01より古い。SD02からは、15世紀頃の中国産雷文帯青磁椀 255 が出土しているので、この溝は中世後半期のものと考えられる。

6区SD03、7区SD01 (E4, F4) (第47・48図)

幅 0.5～1 m、深さ 10～15cm である。出土遺物は、土師器 256～263、瓦器椀 264、龍泉窯系青磁椀 I-2 類 265 がある。空港跡地遺跡分類では土師器皿が BⅢ-4 型式、土師器杯が DⅡ-6 型式で、中世Ⅱ-3、4 期で 13 世紀後半頃と考えられる。

6区SD05 (F4) (第47・48図)

幅 20～40cm、深さ 7cm 程度である。7区SD03と同一の溝の可能性もある。出土遺物は、土師器椀 266、須恵器椀 267・甕 268、不明金銅製品 269 がある。溝の方向から 6区SD03と同じ時期と考えられる。

7区SD02、6区SD04 (E4, F4) (第48図)

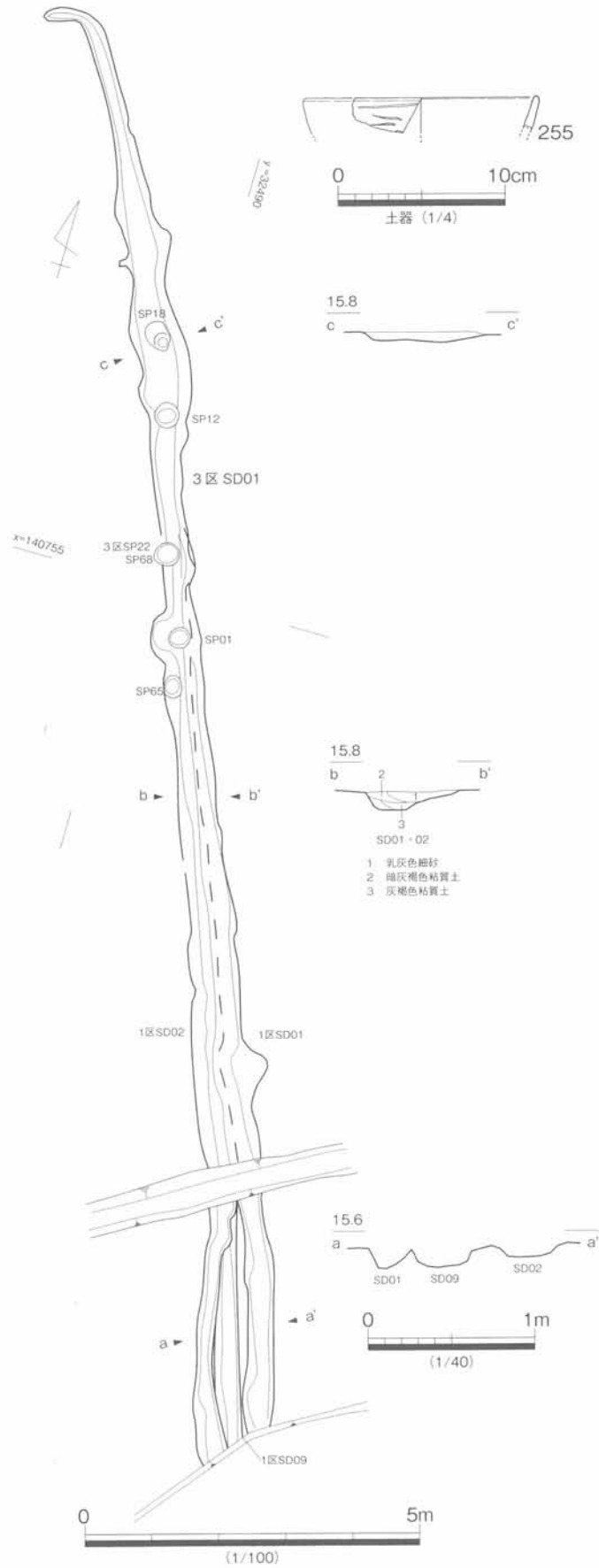
幅 20～80cm、深さ 5～10cm 程度である。底から礫が出土している。出土遺物は、土師器皿 270、西村産須恵器椀 271、中国産白磁椀 272 である。6区SD03・7区SD01とほぼ平行することから同じ時期と考えられる。

7区SD03 (E4, F4) (第49図)

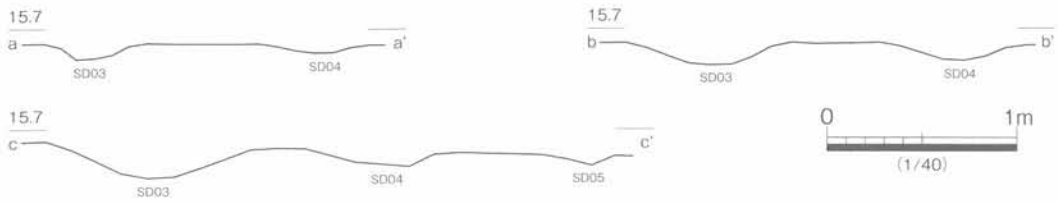
幅 40～60cm、深さ 5～10cm 程度である。6区SD05の延長の可能性もある。出土遺物は、土師器 273～276、西村産須恵器 277・278、中国産白磁皿 279、龍泉窯系青磁椀 I-5 類 280、砥石 281 である。13 世紀後半頃の時期が考えられる。



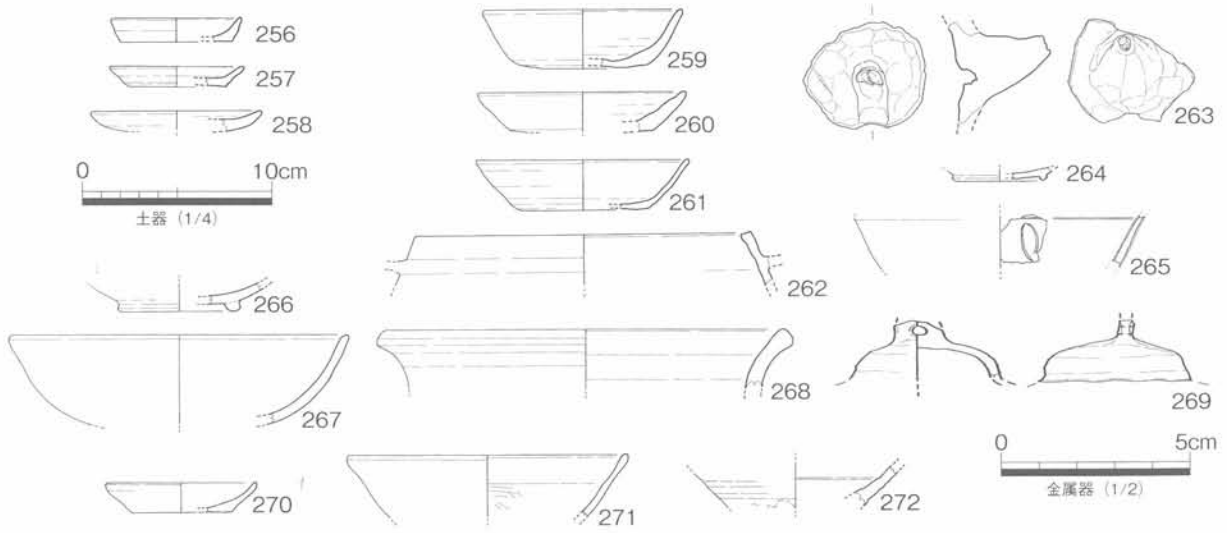
第45図 Ⅱ区SD12断面図、出土遺物



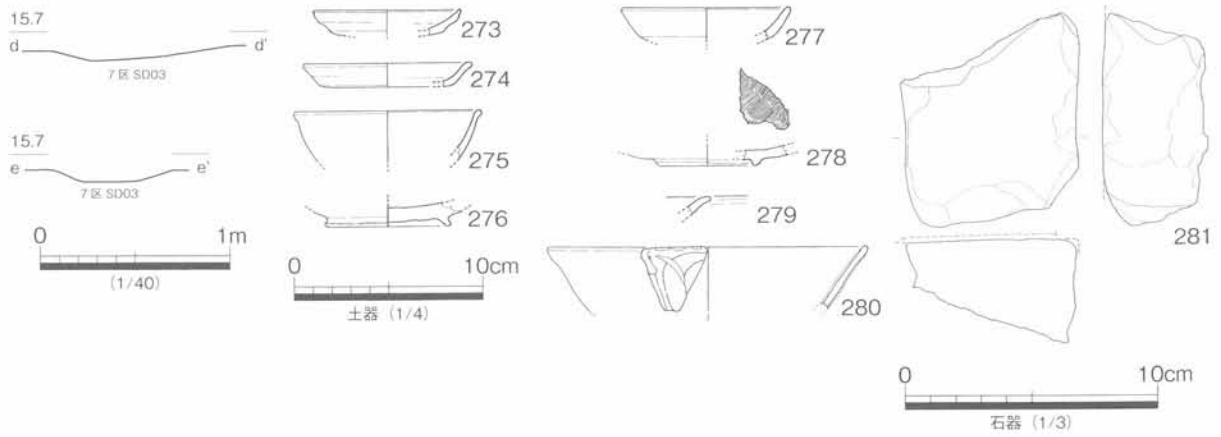
第46图 1·3区SD01、1区SD02平·断面图、出土遺物



第 47 图 6 区 SD03 · 04 · 05 断面图



第 48 图 6 区 SD03 · 04 · 05、7 区 SD01 · 02 出土遺物



第 49 图 7 区 SD03 断面图、出土遺物

6 近世以降

調査区北端のⅡ・Ⅲ区は、近世以降の遺構がほとんどである。

Ⅲ区SK01 (B7) (第50図)

SD04の南北方向の古い溝が埋没途上に、掘り込まれた土坑である。染付椀 282～284 などが出土している。

Ⅱ区SX01 (A8) (第51図)

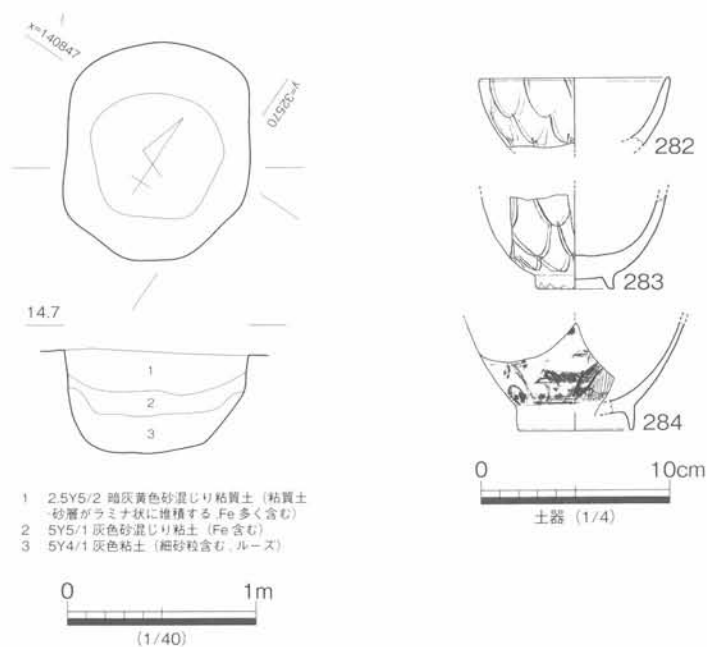
2段掘りの遺構である。礫、石臼を環状に積み上げ、井戸側のようにしている。ただ、底面は砂礫層ではないため、井戸ではなく水溜と考えられる。染付椀 285、陶胎染付椀 286 などが出土している。

Ⅲ区SX01 (C6、C7) (第52図)

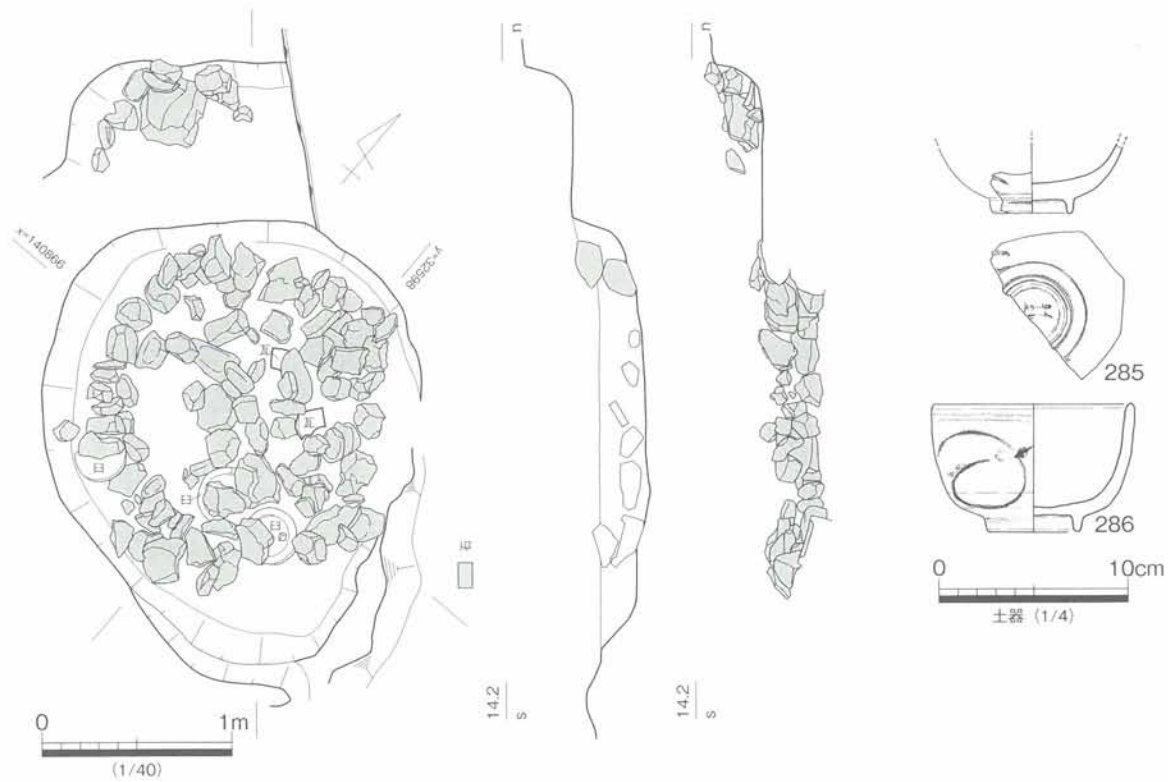
平面形が正方形の遺構である。中心よりやや南東側が土坑状になっている。出土遺物は、陶器皿 287、染付椀 288、陶胎染付椀 289 などがある。

ピット出土遺物 (第53図)

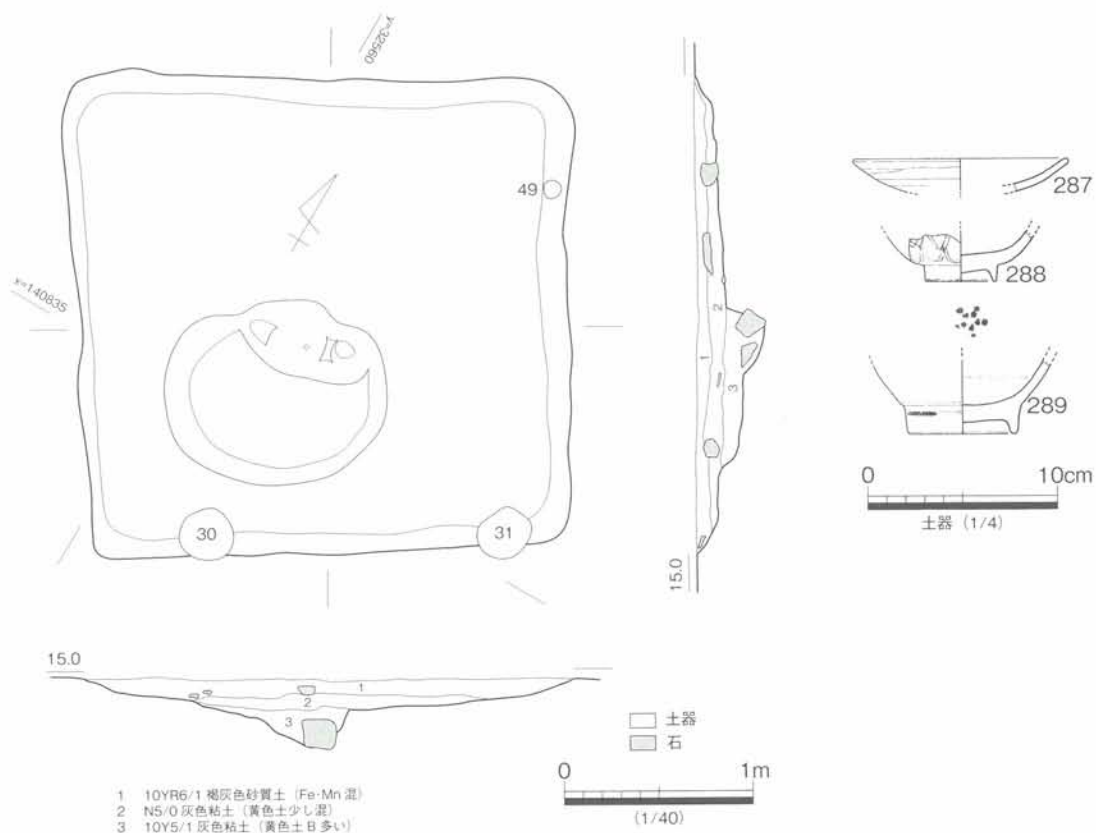
Ⅲ区SP20から陶器椀 290、Ⅲ区SP30から陶器椀 291・292 が出土している。



第50図 Ⅲ区SK01 平・断面図、出土遺物



第51図 II区 SX01 遺物出土状況平・断面図、出土遺物



第52図 III区 SX01 平・断面図、出土遺物



第 53 図 近世のピット出土遺物

Ⅱ、Ⅲ区 S D O 1 (C7 ~ A8) (第 54 ~ 56 図)

調査区南壁沿いに検出された大溝である。溝の北半分のみが調査可能であった。Ⅱ・Ⅲ区は丘陵端部を削平した地形と見られるが、Ⅱ区 S D O 1 は丘陵裾を等高線にほぼ平行に流下するものと見られる。現在の用水路に平行することから、その前身の溝と考えられる。

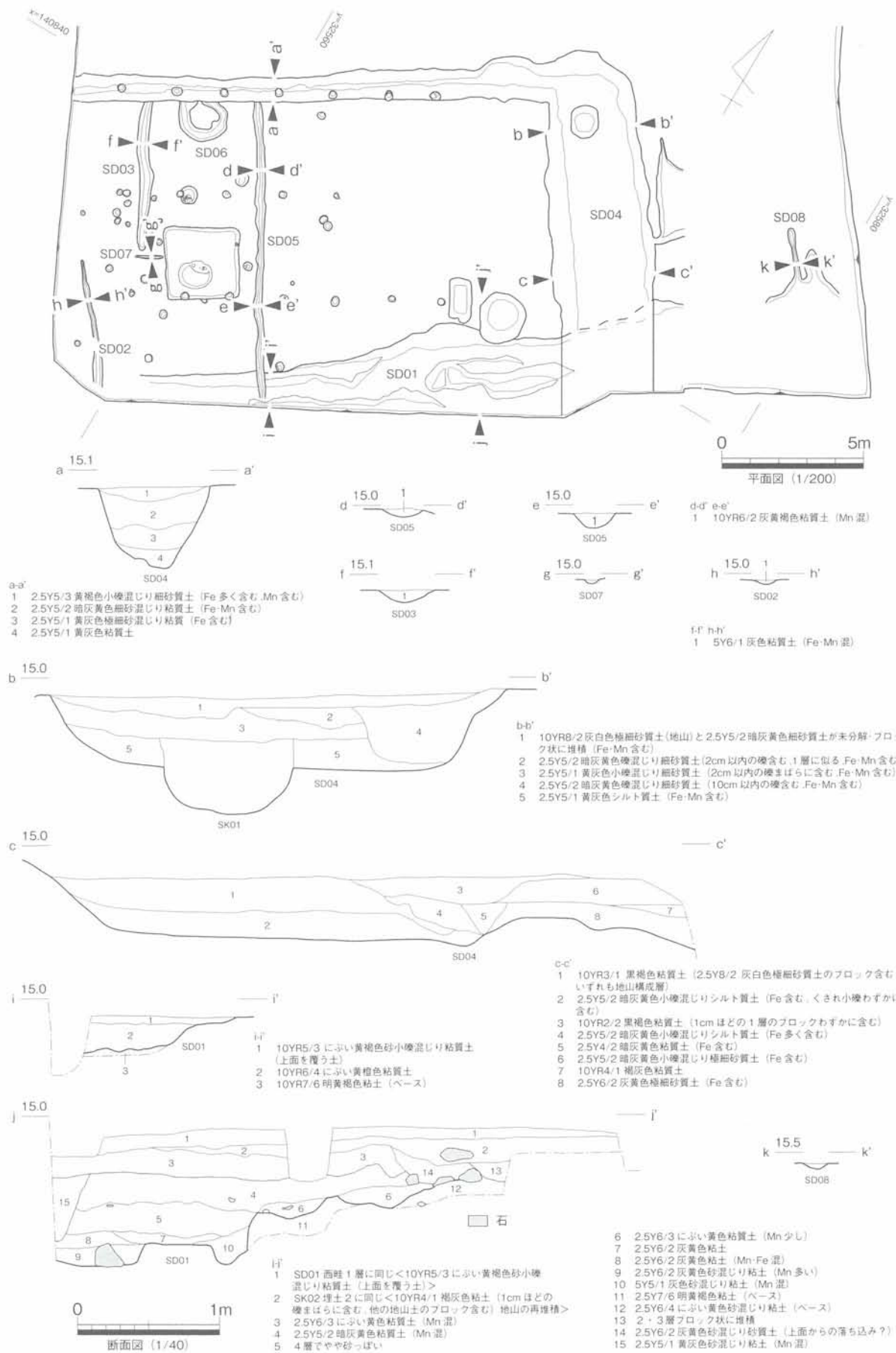
Ⅲ区 S D O 1 は、今回の調査では溝底が検出されていない可能性もあるが、Ⅱ区 S D O 1 の底よりも標高が 80cm 程度高いため、同一の溝ではない可能性が高い。Ⅱ区とⅢ区の境界付近は大きく攪乱されており、この二つの溝の関係は不明である。Ⅱ区 S D O 1 はⅢ区との境界付近から現水路に平行するように南へ屈曲するものと見られる。埋土からは一部近世以前の遺物も含むが、近世以降の遺物が多量に出土している。293 ~ 296 は須恵器である。297 は緑釉陶器である。298・299 は土師器である。300 は黒色土器 A 類椀である。301 は東播系須恵器である。302 は龍泉窯系青磁椀 I - 5 類である。303 ~ 305 は土師器質土器である。306 は瓦質土器である。307 ~ 310 は陶器である。311・312 は白磁である。313 ~ 315 は染付である。

Ⅲ区 S D O 4 (B6, B7) (第 54・57・58 図)

平面形が L 字状を呈する溝である。Ⅲ区 S D O 1 より新しい。南北方向の溝には、新旧二つの溝が重なっている。溝の埋土に含まれる礫群が、東西方向から南北の方向の新しい溝へ連続しているため、最終的な形態は南北方向も幅が東西方向の溝と同規模と考えられる。東西方向の部分で、幅 0.7 ~ 1.5m、深さ 60cm 程度である。南北方向の部分は、古い方で幅 3.0 ~ 3.6m、深さ約 50cm である。新しい方で、幅 1.1m 程度、深さ 50cm 程度である。出土遺物は、龍泉窯系青磁椀 316、陶器皿 (灯明皿) 317、唐津焼皿 318、陶器椀 319、陶器皿 320、染付皿 321、染付蓋 322、染付椀 323 ~ 327、染付瓶 328、土師質蜻壺 329、瓦質土器壺 330、瓦質土器釜 331、不明土製品 332・333 がある。

Ⅲ区 S D O 8 (B7) (第 59 図)

S D O 1 へと流入すると考えられる浅い溝である。出土遺物は、染付椀 334 がある。



- a-a'
- 2.5Y5/3 黄褐色小礫混じり細砂質土 (Fe 多く含む, Mn 含む)
 - 2.5Y5/2 暗灰黄色細砂混じり粘質土 (Fe-Mn 含む)
 - 2.5Y5/1 黄灰色極細砂混じり粘質土 (Fe 含む)
 - 2.5Y5/1 黄灰色粘質土

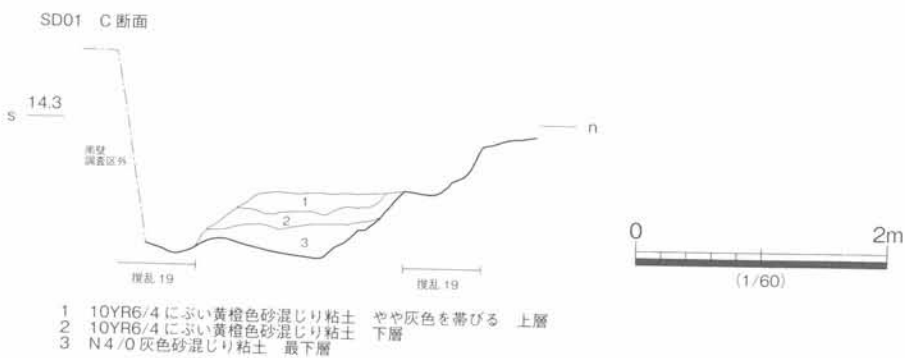
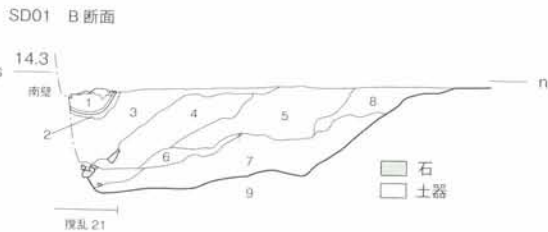
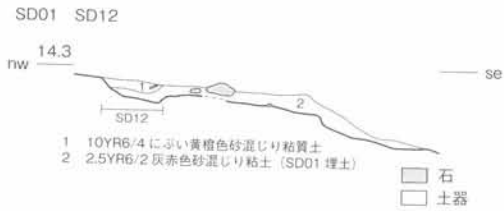
- d-d' e-e'
- 10YR6/2 灰黄褐色粘質土 (Mn 混)
- f-f' h-h'
- 5Y6/1 灰色粘質土 (Fe-Mn 混)

- b-b'
- 10YR8/2 灰白色極細砂質土 (地山) と 2.5Y5/2 暗灰黄色細砂質土 が未分解・ブロック状に堆積 (Fe-Mn 含む)
 - 2.5Y5/2 暗灰黄色礫混じり細砂質土 (2cm 以内の礫含む, 1 層に似る, Fe-Mn 含む)
 - 2.5Y5/1 黄灰色小礫混じり細砂質土 (2cm 以内の礫まばらに含む, Fe-Mn 含む)
 - 2.5Y5/2 暗灰黄色礫混じり細砂質土 (10cm 以内の礫含む, Fe-Mn 含む)
 - 2.5Y5/1 黄灰色シルト質土 (Fe-Mn 含む)

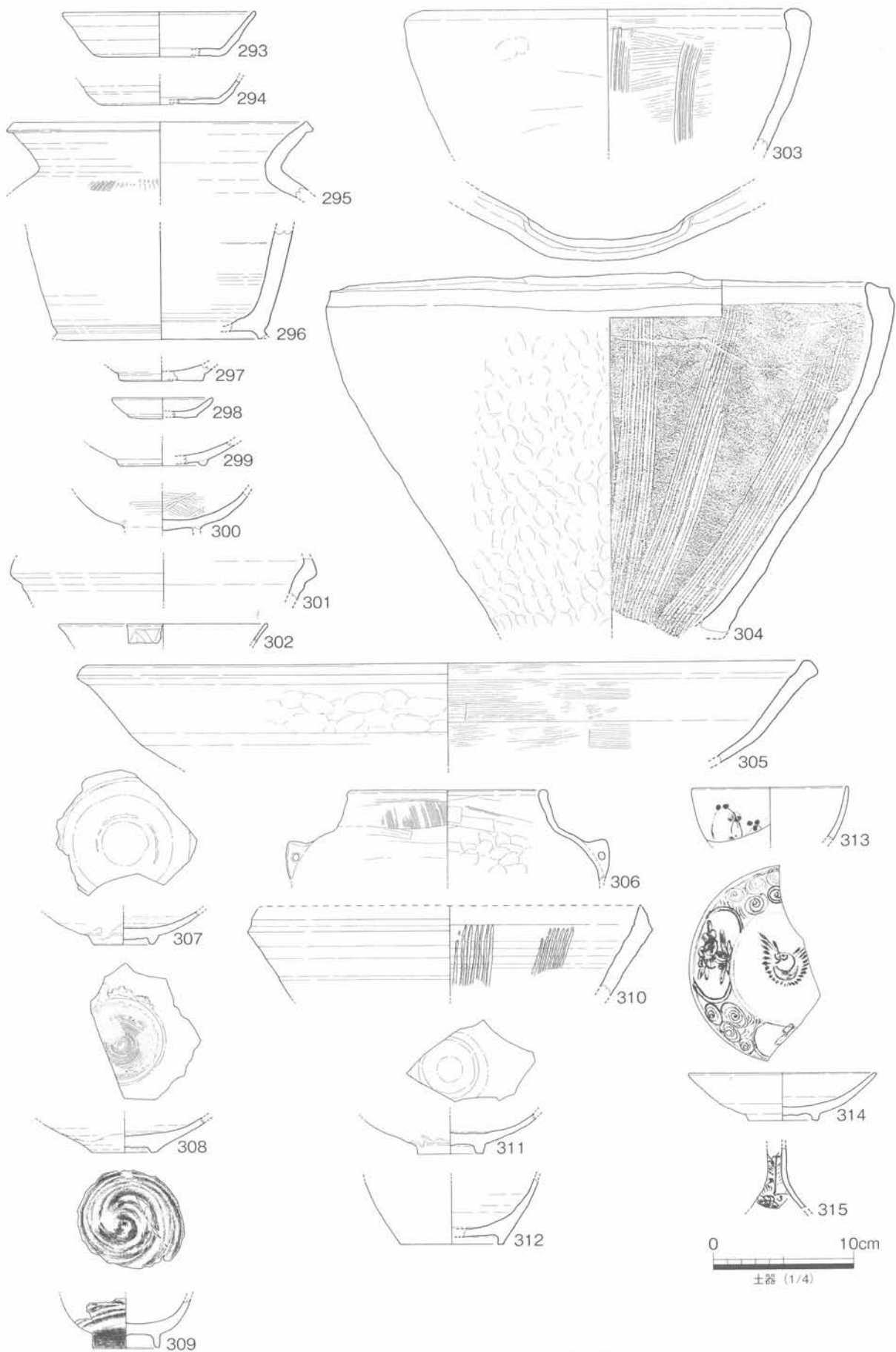
- c-c'
- 10YR3/1 黒褐色粘質土 (2.5Y8/2 灰白色極細砂質土のブロック含む, いずれも地山構成層)
 - 2.5Y5/2 暗灰黄色小礫混じりシルト質土 (Fe 含む, くさ小礫わずかに含む)
 - 10YR2/2 黒褐色粘質土 (1cm ほどの 1 層のブロックわずかに含む)
 - 2.5Y5/2 暗灰黄色小礫混じりシルト質土 (Fe 多く含む)
 - 2.5Y4/2 暗灰黄色粘質土 (Fe 含む)
 - 2.5Y5/2 暗灰黄色小礫混じり極細砂質土 (Fe 含む)
 - 10YR4/1 褐灰色粘質土
 - 2.5Y6/2 灰黄色極細砂質土 (Fe 含む)

- i-i'
- 10YR5/3 黄褐色細砂小礫混じり粘質土 (上面を覆う土)
 - 10YR6/4 黄褐色粘質土
 - 10YR7/6 明黄褐色粘土 (ベース)

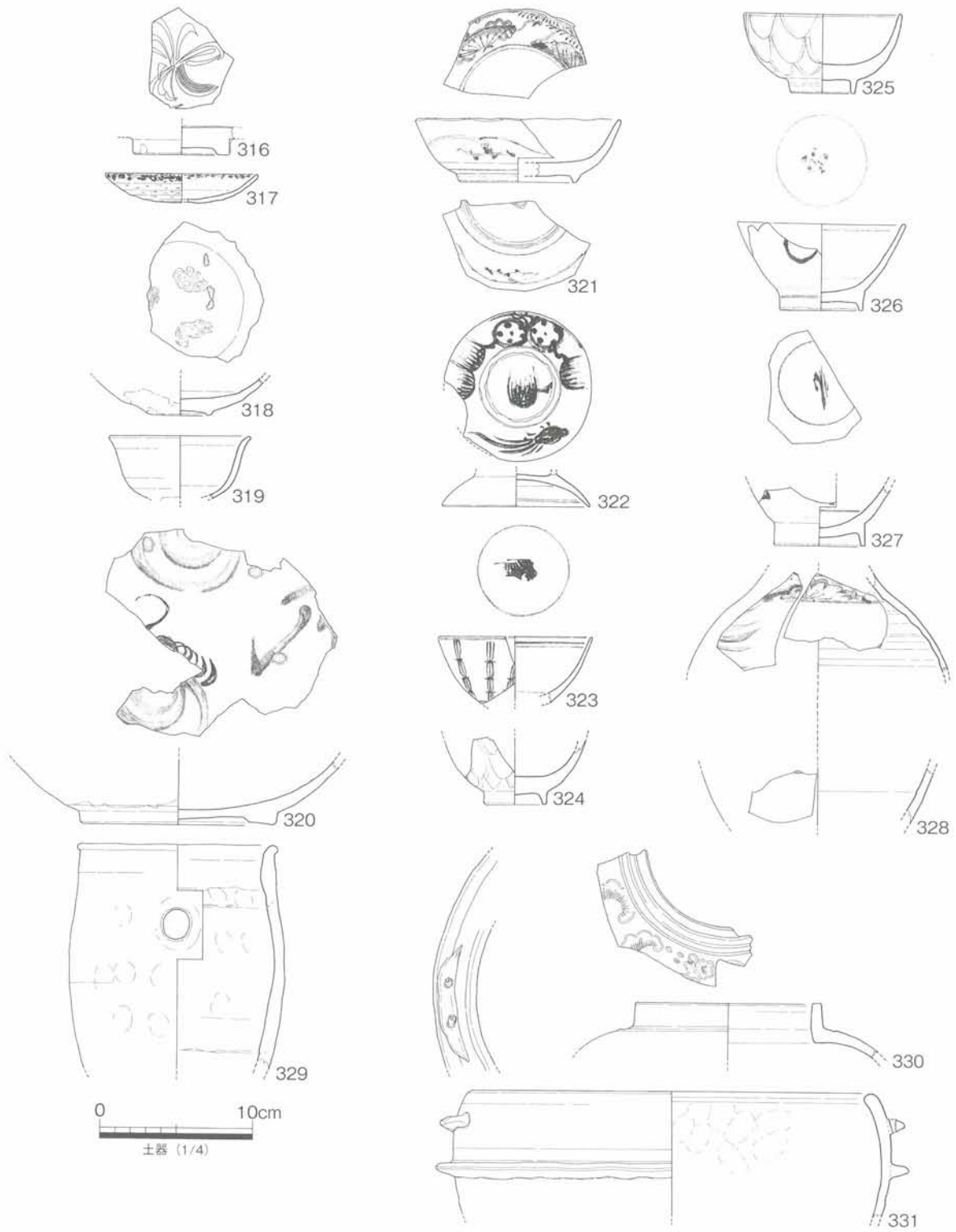
- j-j'
- SD01 西畦 1 層に同じく 10YR5/3 黄褐色細砂小礫混じり粘質土 (上面を覆う土)
 - SK02 埋土 2 に同じく 10YR4/1 褐灰色粘土 (1cm ほどの礫まばらに含む, 他の地山のブロック含む) 地山の再堆積
 - 2.5Y6/3 黄褐色粘質土 (Mn 混)
 - 2.5Y5/2 暗灰黄色粘質土 (Mn 混)
 - 4 層でやや砂っぽい
 - 2.5Y6/3 黄褐色粘質土 (Mn 混)
 - 2.5Y6/2 灰黄色粘土
 - 2.5Y6/2 灰黄色粘土 (Mn-Fe 混)
 - 2.5Y6/2 灰黄色砂混じり粘土 (Mn 多い)
 - 5Y5/1 灰色砂混じり粘土 (Mn 混)
 - 2.5Y7/6 明黄褐色粘土 (ベース)
 - 2.5Y6/4 黄褐色粘土 (Mn 混)
 - 2-3 層ブロック状に堆積
 - 2.5Y6/2 暗灰黄色粘質土 (上面からの落ち込み?)
 - 2.5Y6/2 暗灰黄色粘質土 (Mn 混)
 - 2.5Y5/1 黄灰色粘質土 (Mn 混)



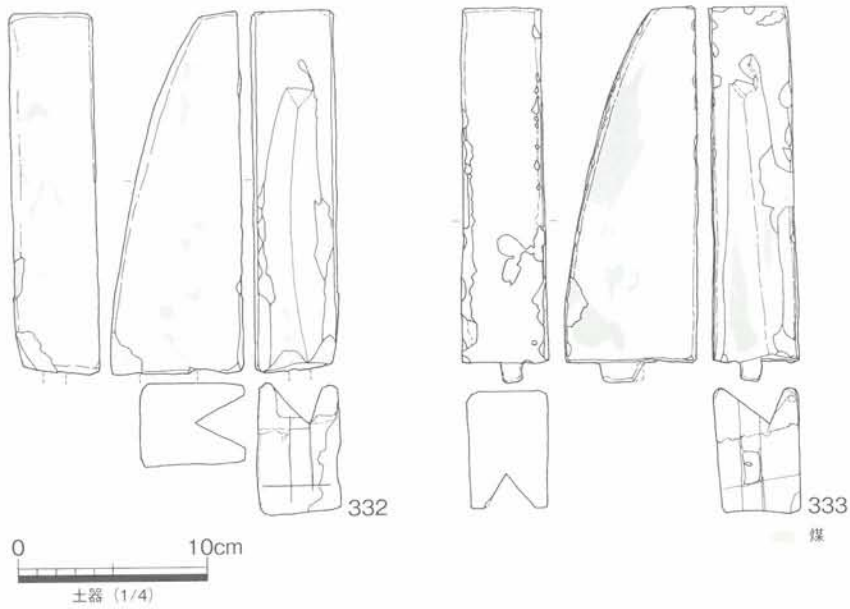
第 55 図 II・III区 SD01 断面図



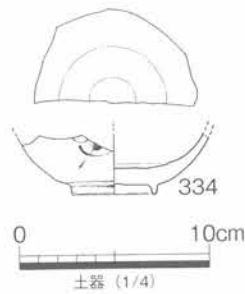
第56图 II·Ⅲ区SD01出土遺物



第 57 图 Ⅲ区 SD04 出土遺物 1



第58図 Ⅲ区SD04出土遺物2



第59図 Ⅲ区SD08出土遺物

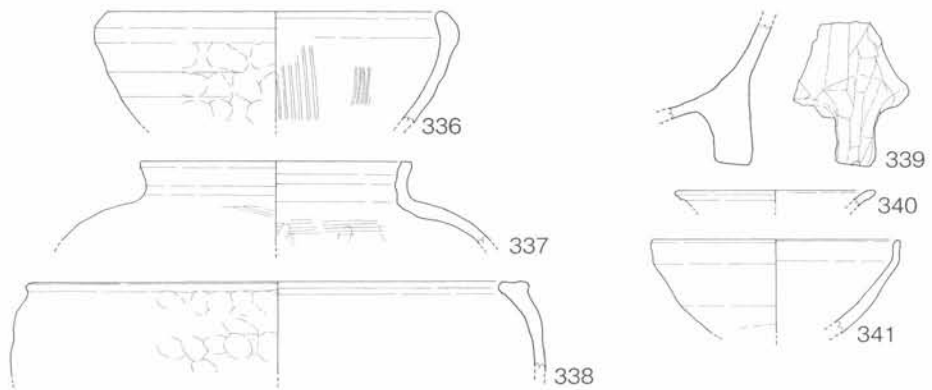
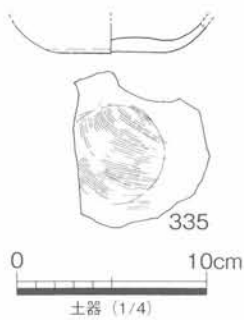
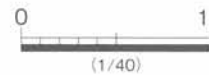
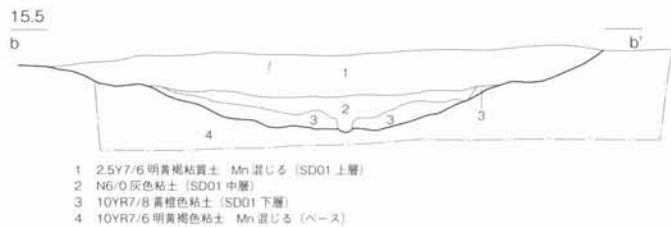
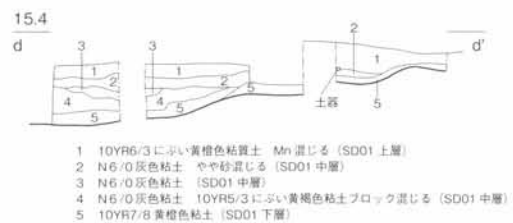
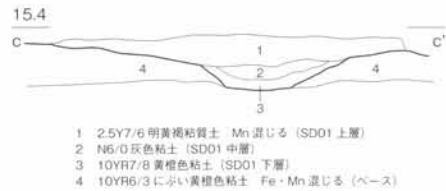
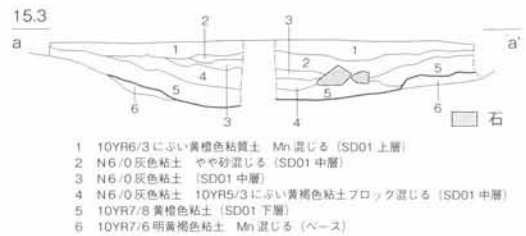
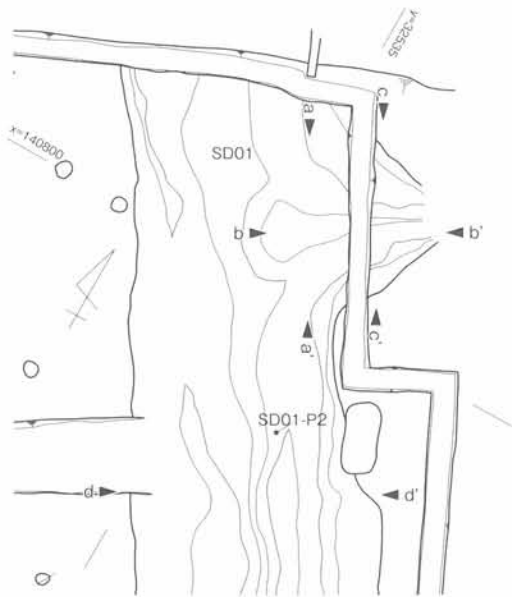
V区SD01 (D5,E5) (第60図)

幅3.3m程度の溝である。深さ30～40cmである。出土遺物は、土師質土器335～339、白磁皿340、天目椀341などがある。

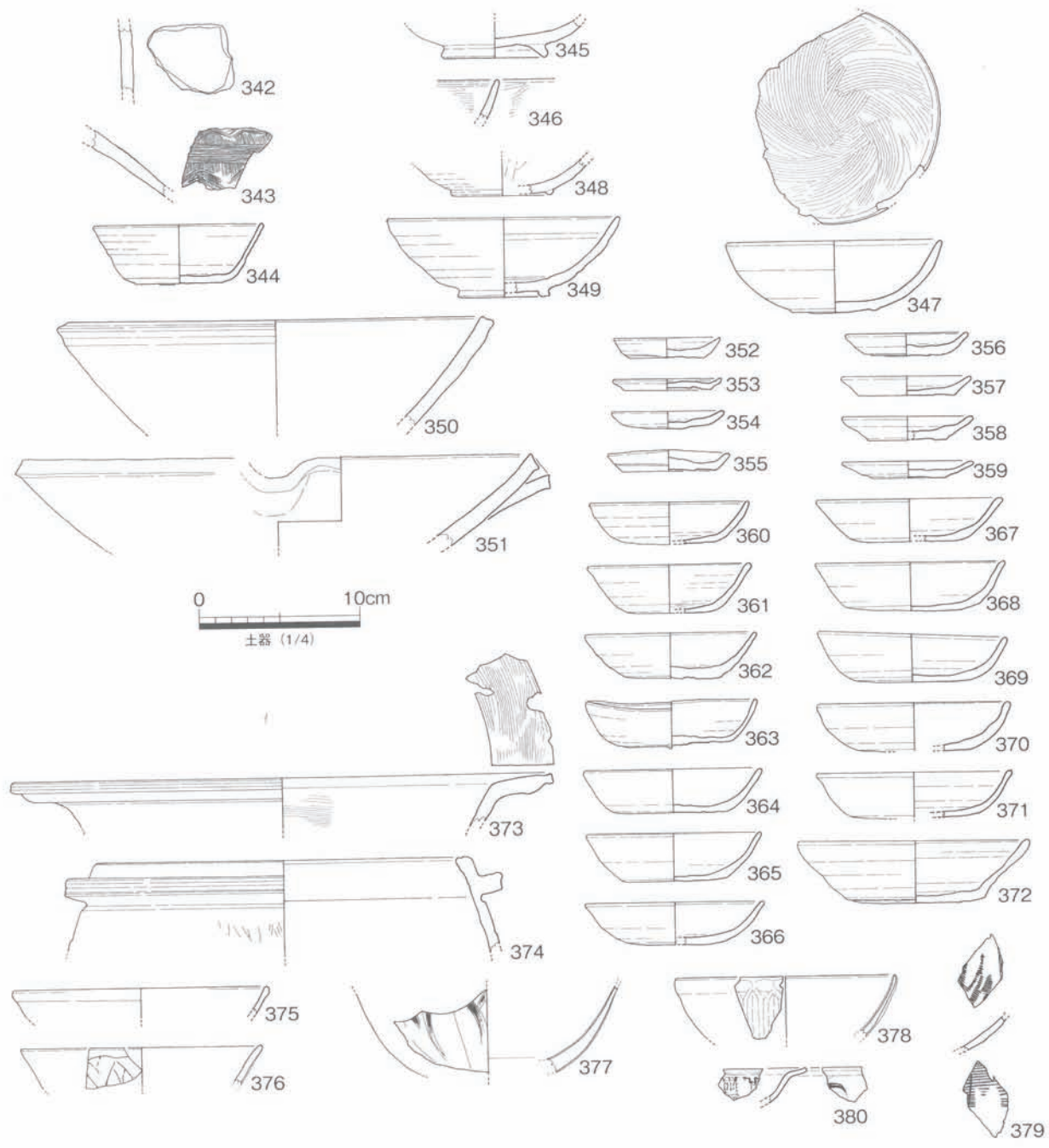
7 包含層等出土遺物 (第61・62図)

包含層からや調査区壁整形中などに出土した遺物をここで報告する。また、石器については出土した遺構の時期と明らかに所属時期が異なるものは、ここで報告する。

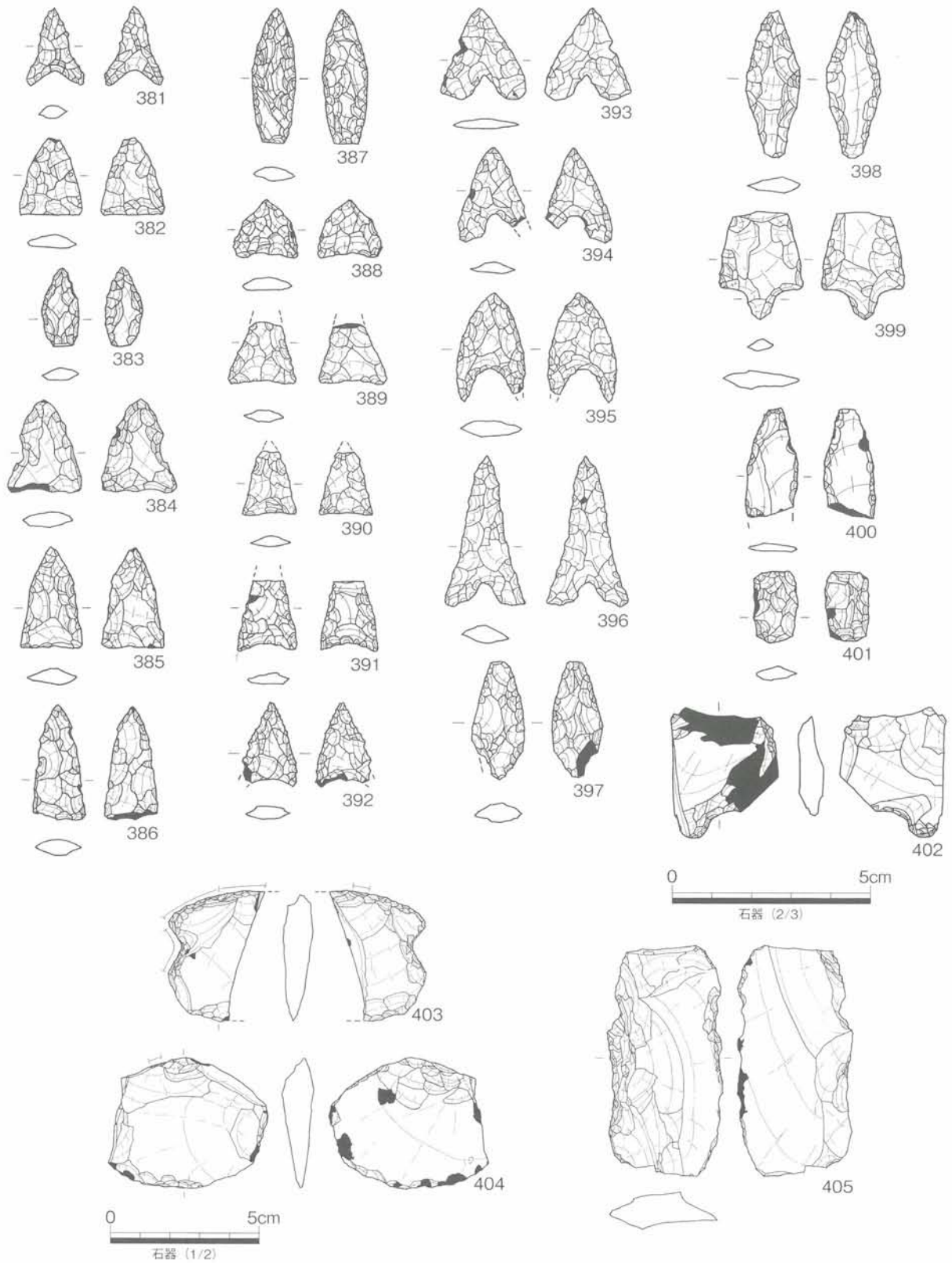
342は摩滅が著しいが、胎土から縄文土器と考えられる。343は弥生土器である。344は須恵器杯である。345は黒色土器A類椀である。346は黒色土器B類椀である。347～351は西村産須恵器である。352～374は土師器である。375は中国産白磁Ⅱ-1類である。376・377は龍泉窯系青磁椀Ⅰ-5類である。378は龍泉窯系青磁椀Ⅲ-2類である。379は同安窯系青磁椀である。380は染付皿である。381は大分県姫島産黒曜石製石鏃である。382～400はサヌカイト製石鏃である。401・402は石錐と考えられる。403は打製石庖丁である。404・405はスクレイパーである。406～409は楔状石核である。410は石核である。



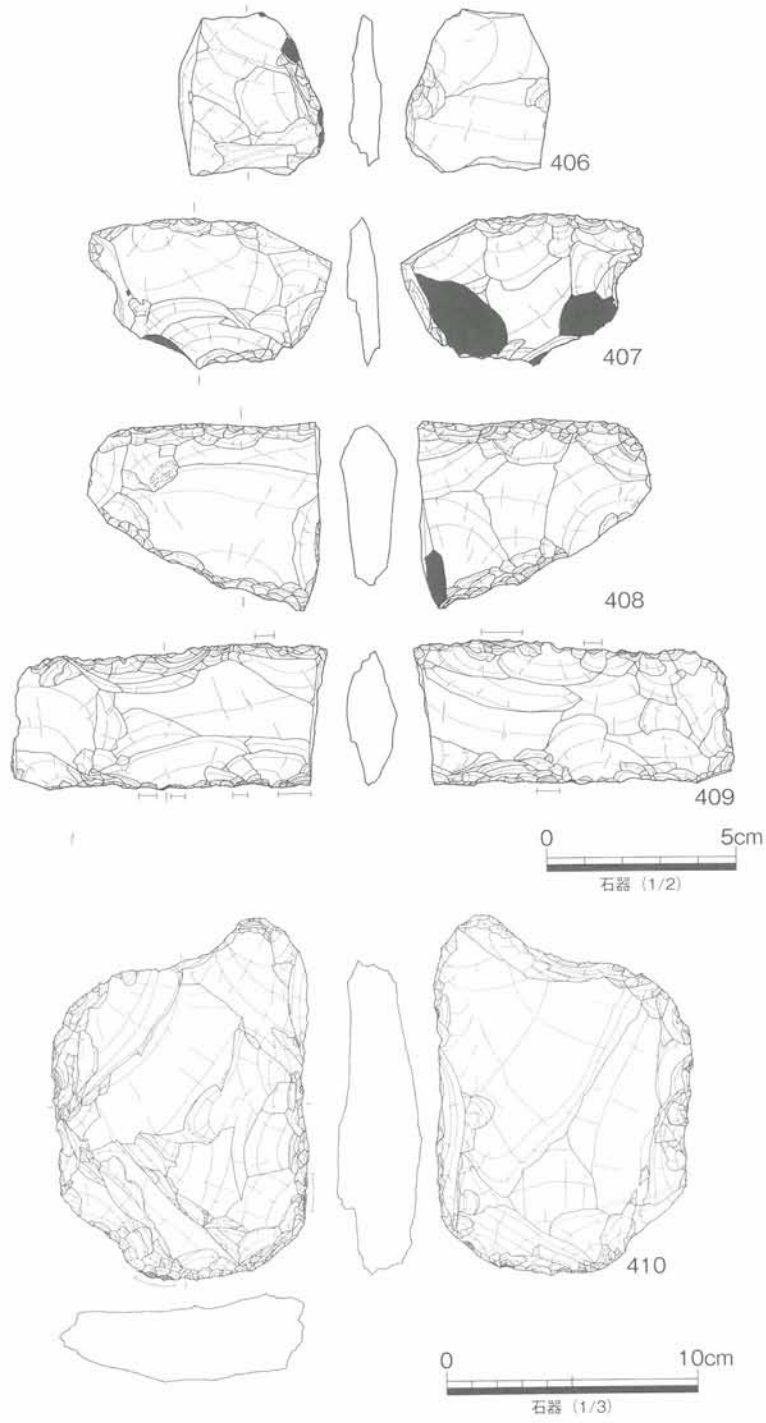
第60図 V区 SD01 平・断面図、出土遺物



第 61 図 包含層等出土遺物 1



第 62 図 包含層等出土遺物 2



第 63 図 包含層等出土遺物 3

第4章 まとめ

遺構の変遷（第63～68図）

弥生時代中期後半

土器埋納ピットと方形区画溝がある。方形区画溝は、埋土が方形周溝墓に見られるような黒色粘質土ではなく、基盤層に近いものであることから、掘削されてから短期間のうちに埋没したものと考えられる。また墓の主体部と考えられる遺構も区画内には見られず、溝の埋土に含まれる土器もわずかな量であることから、この遺構が方形周溝墓である可能性は低いと考えられる。なお、調査区南端では、弥生土器の包含層が検出されており、サヌカイトの小剥片や石核が出土していることから付近で石器製作が行われていたと考えられる。

弥生時代後期後半

調査区南端で、土坑及び溝がわずかに確認されているにすぎない。

飛鳥時代

調査区南端で土坑1基及び性格不明の集石遺構が確認されている。

平安時代

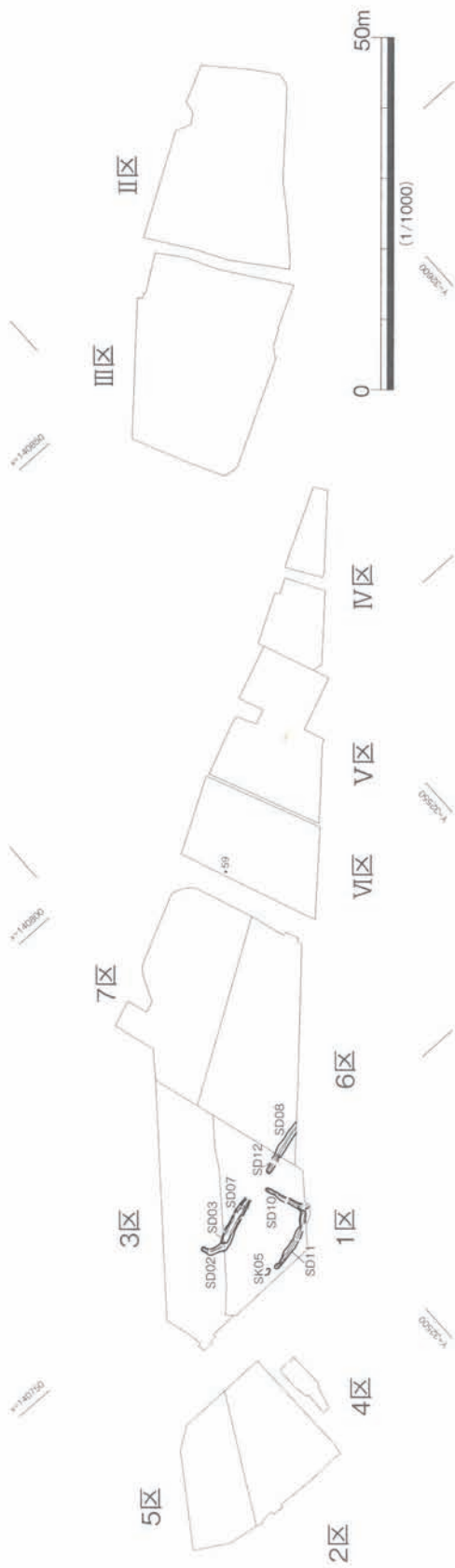
調査区中央部で10世紀後半頃の掘立柱建物2棟と廃棄土坑2基が確認されている。突然、平安時代に出現し、短期間で廃絶したと考えられる庇付大型建物を含む建物群の性格は、当遺跡の状況からは何うことはできない。丸亀市郡家原遺跡では、湧水池の管理のためと考えられるような建物群が出現しているが、当遺跡では関連する遺構はない。まんのう町買田岡下遺跡でも平安時代前半の建物群がみられるが、瓦や帯金具が出土するなど当遺跡とは状況がやや異なる。また、当遺跡から南へ750mにある北岸南遺跡でも、12世紀後半に同様な建物群が出現しているが、関連する遺構はない。

中世

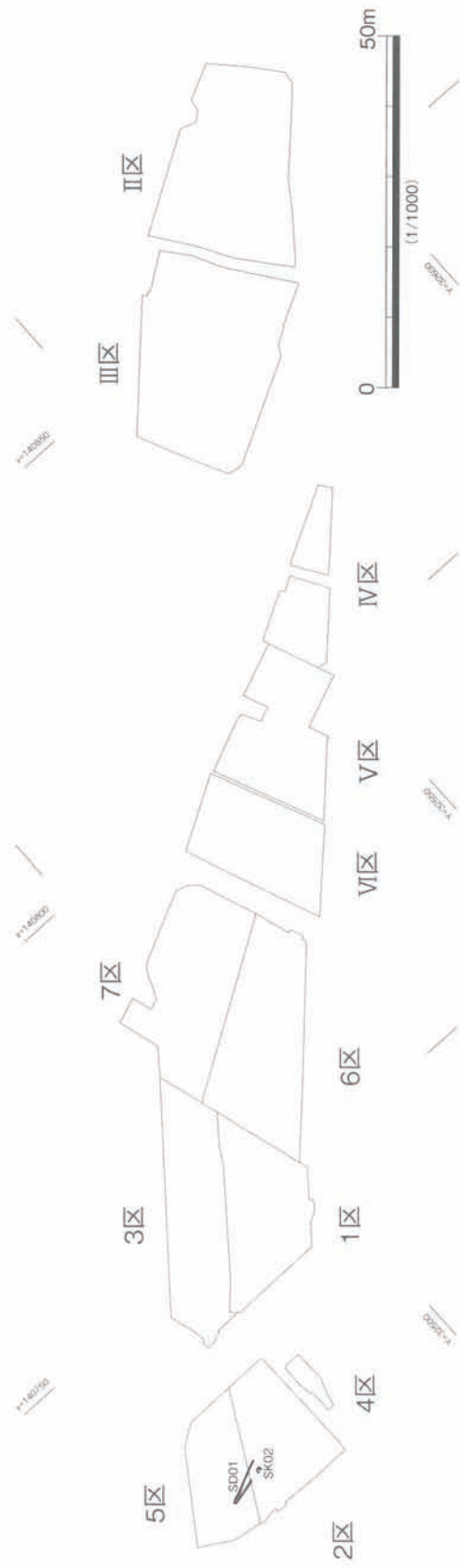
調査区南半で多数のピットを確認したが、建物として復元できたのはわずかである。そのうち6・7区SB05は、周りに溝を伴い、周囲から銅鑄造時に発生する銅滴が出土するなど、銅鑄造に関わる建物である。

近世以降

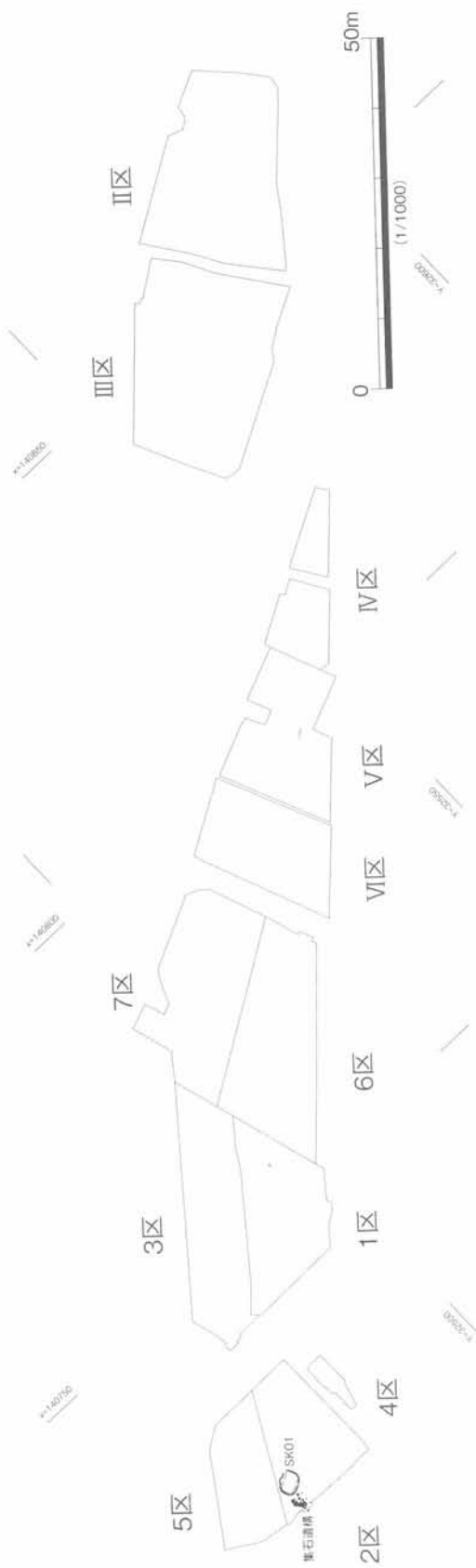
調査区北半（Ⅱ・Ⅲ区）で確認した遺構は、ほとんどが近世以降のものである。



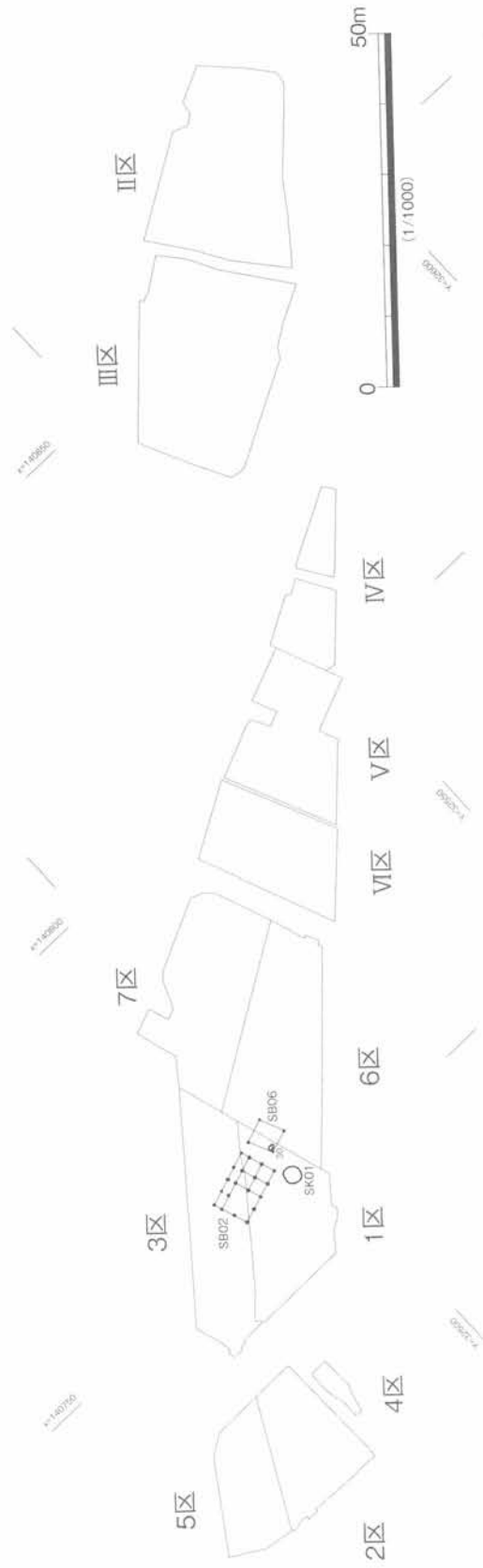
第64図 遺構変遷図 弥生時代中期後半



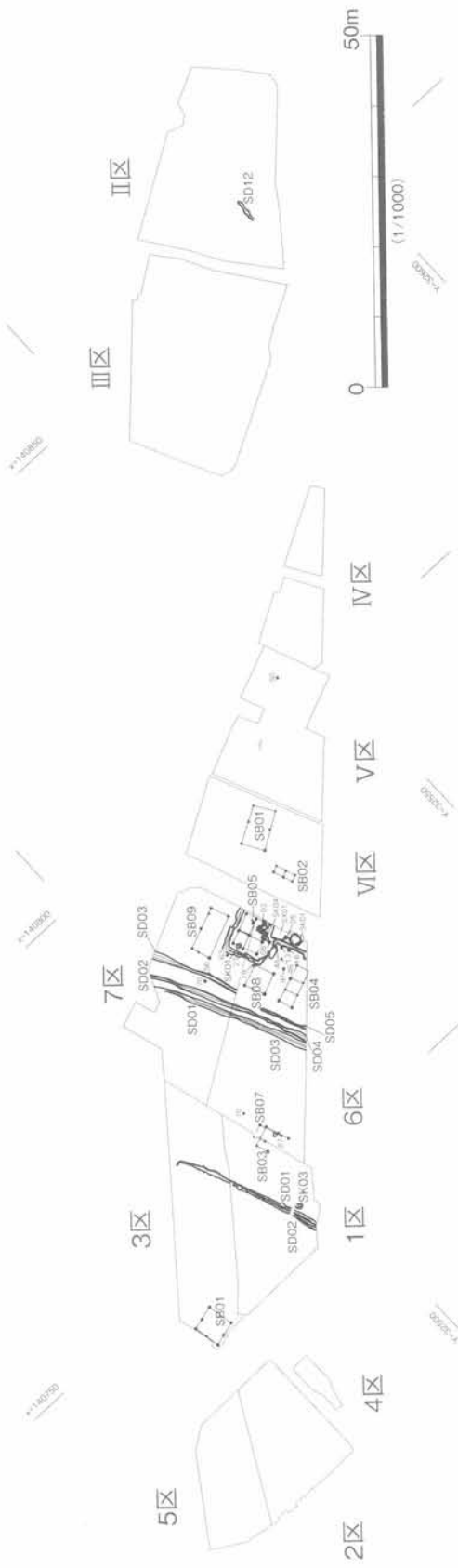
第65図 遺構変遷図 弥生時代後期後半



第66図 遺構変遷図 飛鳥時代



第67図 遺構変遷図 平安時代



第 68 図 遺構変遷図 中世

觀察表

第5表 東坂元秋常遺跡出土土器観察表(1)

根文番号	調査区	遺構名	層位	種類	器種	調整		胎土				法量			色調		残存率	備考
						外面	内面	石英、長石	赤色粒	角四石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他 (cm)		
1	VI区	SP59 埋土・PI		弥生土器	甕	上半ナナキ 下半不明 (ナリ)	粗・並					5.5		10YR4/3に ぶい・黄褐	N3/ 暗灰	7/8		
2	I区	SD10・11		弥生土器	壺	口頸ヨコナナキ 体不明	中・多				(11.1)			5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	3/8		
3	I区	SD07		弥生土器	甕	口縁ヨコナナキ 体不明	細・並				(15.4)			5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	3/8		
4	I区	SD07		弥生土器	甕	体ナナキ 底不明 (ナリ)	中・並				(5.8)			10YR5/3に ぶい・黄褐	10YR5/2 灰黄褐	4/8		
5	I区	SD11	黒色包含層 P2 (10~20cm)	弥生土器	甕	体ナナキ 底指挿	中・多							10YR6/4に ぶい・黄褐	2.5Y5/1 黄灰	1/8		
6	I区	SD10・11	黒色包含層 P2 トニタリスズニ ション(写真有り)	弥生土器	甕	不明 (ナリ)	中・並							5YR6/6 橙	5YR4/2 灰褐	1/8 未満		
7	I区	SD07		弥生土器	甕	不明	中・並	中・少			(8.0)			7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	2/8		
8	2区	SK02	壁切り	弥生土器	壺	不明 (ナリ)	粗・多	中・少			(11.7)	18.0		5YR7/4に ぶい・橙	5YR7/6 橙	6/8		
9	2区	SK02	黒色包含層 (0~ 10cm) 集石付近	弥生土器	甕	口縁ナナキ後上 半ナナキ 体不明	中・並						中・少	7.5YR7/4に ぶい・橙	7.5YR6/4に ぶい・橙	2/8		
10	5区	SD01		弥生土器	甕	不明 (ナリ)	中・並				(6.2)			7.5YR5/3に ぶい・褐	10YR4/1 褐灰	2/8		
11	5区	SD01		弥生土器	甕	不明 (ナリ)	中・並				(6.4)			2.5Y8/3 淡黄	2.5Y7/2 灰黄	1/8		
12	2区			弥生土器	壺	不明 (ナリ)	粗・多	中・並			5.5	19.3		10YR6/4に ぶい・黄橙	5Y4/1 灰	6/8		
13	2区		黒色包含層 (0~10cm)	弥生土器	壺	不明 (ナリ)	粗・多				(15.0)			10YR6/6 明黄褐	10YR6/6 明黄褐	1/8	20と同—個体か	
14	2区		黒色包含層 (10~20cm)	弥生土器	壺	不明 (ナリ)	中・多				(17.9)			5YR6/8 橙	10YR7/6 明黄褐	1/8		
15	2区		壁切り 遺構検出	弥生土器	壺	不明 (ナリ)	粗・多				(16.0)			2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/3 淡黄	2/8		
16	2区			弥生土器	壺	不明 (ナリ)	中・多	中・並						5YR6/6 橙	10YR6/4に ぶい・黄橙	1/8 未満		
17	2区		黒色包含層 (0~10cm)	弥生土器	甕	不明 (ナリ)	中・多							5YR6/8 橙	7.5YR5/6 明褐	2/8		

第6表 東坂元秋常遺跡出土土器観察表(2)

報文 番号	調査区	遺構名	層位	種類	器種	調整		胎土				法量			色調		残存率	備考
						外面	内面	石英・ 長石	赤色靨	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他 (cm)		
18	2区			弥生土器	甕	不明(不明)	不明(不明)	粗・多	中・少				(4.6)		10YR5/8黄褐	2.5Y8/3淡黄	2/8	
19	2区		黒色包含層 (0~10cm)	弥生土器	甕	不明(不明)	不明(不明)	中・多				(8.6)		10YR6/3に ぶい黄橙	10YR7/4に ぶい黄橙	3/8		
20	2区		壁切り 上面精査	弥生土器	甕	不明(不明)	不明(不明)	中・多				(15.7)		10YR5/8黄褐	10YR5/8黄褐	1/8未 満	13と同一個体か	
21	2区		上面精査	弥生土器	甕	体ハツミカキ 不明(不明)	底不明(不明)	粗・多	細・少			(7.0)		5YR5/6明赤褐	5YR5/6明赤褐	1/8未 満		
55	2区	SK01	黒色包含層(0~ 10cm) 集石付近	須恵器	杯蓋	下半回転ナリ 上半回転ハナリ	下半回転ナリ 上半回転ナリ			中・少				2.5Y7/1灰白	2.5Y7/1灰白	3/8		
56	2区	SK01	黒色包含層(0~ 10cm)	須恵器	杯身	口縁~体回転ナリ 底回転ハナリ 初期未調整	口縁~体回転ナリ 底回転ハナリ 初期未調整			細・少	10.8	3.9	7.0	N7/灰白	N7/灰白	8/8		
57	2区	SK01		土師器	杯	体ハツミ 明(不明)	底不明(不明)			中・多				2.5YR7/6橙	5YR7/6橙	2/8		
58	2区	SK01	黄灰色シロト	土師器	甕	口縁不明(剥 落) 体ハツミ	口縁不明(剥 落) 体ハツミ			中・少	(11.1)			2.5YR7/6橙	2.5YR6/8橙	6/8		
59	2区	SK02	黒色包含層(0~ 10cm) 集石付近	須恵器	甕	体回転ナリ 底指ナリ	体回転ナリ 底指ナリ			細・少				N6/灰	N7/灰白	2/8		
60	2区		黒色包含層 (0~10cm)	須恵器	杯蓋	回転ナリ	回転ナリ			細・少	(13.8)			7.5Y7/1灰白	7.5Y7/1灰白	1/8		
61	2区			須恵器	甕	回転ナリ	回転ナリ			細・少				N5/灰	7.5Y5/1灰	4/8		
61	2区			須恵器	甕	回転ナリ	回転ナリ			細・少				N5/灰	7.5Y5/1灰	4/8		
62	2区		黒色包含層 (10~20cm)	須恵器	杯蓋	回転ナリ	回転ナリ			細・少	(13.6)			N6/灰	N6/灰	1/8		
63	2区		黒色包含層(0~ 10cm) 集石付近	須恵器	杯蓋	口縁回転ナリ 天井回転ハナリ	口縁回転ナリ 天井回転ハナリ			細・多	(15.0)	3.3		N6/灰	N6/灰	1/8		
64	2区		P1(トータル ステーション) 下層	須恵器	杯	口縁~体回転 ナリ 底ハツミ	口縁~体回転 ナリ 底ハツミ			細・少	(15.9)			2.5Y7/1灰白	2.5Y7/1灰白	1/8未 満		
65	2区		P2(トータル ステーション)	須恵器	杯	体回転ナリ 底ナリ	体回転ナリ 底ナリ			細・少				2.5Y7/1灰白	2.5Y7/1灰白	3/8		
66	3区	SP11		土師器	皿	口縁~体回転 ナリ 底回転ハナリ 初期未調整	口縁~体回転 ナリ 底回転ハナリ 初期未調整			中・多	(10.2)	2.2	(6.6)	5YR5/4に ぶい赤褐	7.5YR6/4に ぶい橙	2/8		

第7表 東坂元秋常遺跡出土土器観察表(3)

報文番号	調査区	遺構名	層位	種類	器種	調整		胎土				法量				色調		残存率	備考	
						外面	内面	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他 (cm)	外部			内部
67	3区	SP11		黒色土器B類	椀	口縁～体ハツカキ底付	ハツカキ										N3/暗灰	N3/暗灰	1/8	
68	1区	SP16		黒色土器A類	椀	ハツカキ	ハツカキ										5YR6/6橙	N3/暗灰	1/8未満	
69	1区	SP16	合流部	黒色土器B類	椀	ハツカキ	ハツカキ										10YR4/1褐灰	10YR4/1褐灰	1/8未満	
70	1区	SP17		黒色土器A類	椀	ハツカキ	ハツカキ										7.5YR7/4に ぶい橙	7.5YR3/1黒褐	1/8未満	
71	1区	SP28	トレンチ	土師器	杯	回転付	回転付										5YR7/6橙	5YR7/6橙	1/8	
72	1区	SP28		土師器	杯	回転付	回転付										5YR6/4に ぶい橙	7.5YR6/4に ぶい橙	1/8	
73	1区	SP28	精査中	土師器	椀	不明(マタ)	不明(マタ)										2.5Y8/3淡黄	2.5Y8/3淡黄	1/8未満	
74	1区	SP28		黒色土器A類	椀	口縁～体不明(マタ)底付	ハツカキ										7.5YR5/3に ぶい褐	N3/暗灰	2/8	
75	1区	SK01		土師器	杯	口縁～体回転付、底回転ハツカキ後付	回転付										7.5YR8/4浅黄橙	10YR8/4浅黄橙	6/8	
76	1区	SK01		土師器	釜	口縁ヨコ付、体ハツカキ	口縁ヨコ付、体付										7.5YR6/4に ぶい橙	10YR7/3に ぶい黄橙	1/8	外面すす付着
77	1区	SK01		黒色土器A類	椀	ハツカキ	ハツカキ										10YR5/4に ぶい黄褐	10YR3/1黒褐	1/8未満	
78	1区	SP30		土師器	皿	口縁～体回転付、底不明(マタ)	不明(マタ)										5YR7/6橙	5YR6/6橙	1/8	
79	1区	SP30		土師器	杯	口縁～体回転付、底回転ハツカキ初未調整	回転付										7.5YR8/4浅黄橙	7.5YR8/3浅黄橙	5/8	
80	1区	SP30	合流部	土師器	杯	口縁～体回転付、底付	回転付										10YR8/3浅黄橙	5YR7/6橙	2/8	
81	VI区	SP13埋土		土師器	杯	回転付	回転付										7.5YR8/6浅黄橙	7.5YR8/6浅黄橙	1/8未満	
82	VI区	SP28埋土		土師器	鉢	口縁端ハツカキ原 体ヨコ付、以下 指付後付、 体ハツカキ	口縁ハツカキ 体付										2.5Y3/1黒褐	2.5Y8/2灰白	1/8	外面すす付着

第8表 東坂元秋常遺跡出土土器観察表(4)

編文 番号	調査区	遺構名	層位	種類	器種	調整		胎土				法量				色調		残存率	備考
						外面	内面	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他 (cm)	外部		
83	1区	SP60	No.2	土師器	杯	回転+ +	回転+ +					細・少	10.9			5YR7/6橙	5YR7/6橙	1/8	
84	6区	SP34		土師質 土器	足釜	上半ヨコ+ 下半不明(マカマカ)						細・少				7.5YR6/6橙	5YR7/6橙	1/8未 満	
85	6区	SP04		土師質 土器	皿	口縁回転+ 底回転+ 未調整	回転+ +					細・少	7.6	1.1	(5.8)	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	3/8	
86	6区	SP04		西村産 須恵器	碗	回転+ +						細・少			(3.4)	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/6 浅黄橙	4/8	
87	6区	SP07		土師器	皿	口縁回転+ 底+ +	回転+ +					細・少	6.2	0.9	(5.0)	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	1/8未 満	
88	6区	SP07		土師質 土器	杯	口縁~体回転 + 底不明 (付着物)	回転+ +					細・少	11.0	2.7	(6.4)	7.5YR8/6 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	1/8未 満	
89	6区	SP07		土師質 土器	足釜	口縁ヨコ+ 体指+ +						細・少	19.1			10YR6/2 灰黄褐	10YR5/2 灰黄褐	1/8未 満	外面すす付着
90	6区	SP11		土師器	皿	口縁回転+ 底回転+ +	回転+ +					中・多	7.0	1.1	(5.3)	7.5YR7/6橙	7.5YR7/6橙	1/8未 満	
91	7区	SP41		土師器	杯	体回転+ 底回転+ +	回転+ +					細・多			(8.0)	7.5YR7/6橙	10YR8/4 浅黄橙	1/8	
92	7区	SP47		土師器	皿	口縁回転+ 底回転+ +	口縁回転+ 底+ +					細・少	8.5	1.2	(6.7)	10YR7/4に ぶい黄橙	10YR7/4に ぶい黄橙	1/8	
93	7区	SP47		土師器	杯	口縁~体回転 + 底回転 + + + 後+ +	回転+ +					細・少	11.4	3.2	(6.9)	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	2/8	
94	7区	SP62		土師器	杯	回転+ +	回転+ +					細・少	12.0			7.5YR8/2 灰白	7.5YR8/2 灰白	1/8	
95	7区	SP64・65		土師器	杯	口縁~体回転 + 底不明 +	回転+ +					細・少	10.0			10YR8/1 灰白	10YR8/4 浅黄橙	2/8	
96	6区	SX02		土師器	皿	口縁不明(マカ マカ) 底回転+ 不明(マカマカ)						細・少	8.0		(6.5)	10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙	1/8	
97	6区	SX02		西村産 須恵器	碗	回転+ +						細・少			(4.8)	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/1 灰白	2/8	
98	6区	SD06	TS取り上げ P18	土師器	皿	口縁回転+ 底回転+ +	口縁回転+ 底+ +					細・少	6.6	1.3	(4.2)	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙	3/8	

第9表 東坂元秋常遺跡出土土器観察表 (5)

報文 番号	調査区	遺構名	層位	種類	器種	調整		胎土				法量			色調		残存率	備考	
						外面	内面	石莖・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他 (cm)			外部
99	6区	SD06		土師器	皿	口縁回転ナリ・ 底回転△ナリ	不明(マク)					細・少	(6.8)	0.9	(6.2)		7.5YR8/4 浅黄橙7.5YR8/4 浅黄橙	1/8	
100	6区	SD06		土師器	皿	口縁回転ナリ・ 底回転△ナリ 未調整	口縁回転ナリ・ 底回転△ナリ					細・少	(7.0)	0.9	(5.4)		7.5YR8/3 浅黄橙7.5YR8/3 浅黄橙	2/8	
101	6区	SD06	TS取り上げ P2	土師器	皿	口縁回転ナリ・ 底回転△ナリ 未調整	口縁回転ナリ・ 底回転△ナリ					細・少	(7.1)	1.1	(6.2)		2.5Y8/3 淡黄 2.5Y8/3 淡黄	1/8	
102	6区	SD06	TS取り上げ P17	土師器	皿	口縁回転ナリ・ 底回転△ナリ 後ナリ	口縁回転ナリ・ 底回転△ナリ					細・少	(7.1)	1.2	(6.3)		10YR8/2 灰白 10YR8/2 灰白	2/8	
103	6区	SD06	トータル ステーション 取り上げ P1	土師器	皿	口縁回転ナリ・ 底回転△ナリ	口縁回転ナリ・ 底回転△ナリ					細・少	(7.2)	1.0	(6.1)		2.5Y8/2 灰白 7.5YR7/6 橙	3/8	
104	6区	SD06		土師器	皿	口縁回転ナリ・ 底回転△ナリ	口縁回転ナリ・ 底回転△ナリ					細・少	(7.4)	1.0	(6.2)		10YR8/3 浅黄橙10YR8/3 浅黄橙	1/8	
105	6区	SD06	TS取り上げ P12	土師器	皿	口縁回転ナリ・ 底回転△ナリ	口縁回転ナリ・ 底回転△ナリ					細・少	(7.6)	1.1	(5.7)		2.5Y5/1 黄灰 2.5Y6/1 黄灰	2/8	
106	6区	SD06		土師器	皿	口縁回転ナリ・ 底回転△ナリ 未調整	口縁回転ナリ・ 底回転△ナリ					細・少	(7.8)	1.2	(6.0)		7.5YR8/4 浅黄橙7.5YR8/4 浅黄橙	1/8	
107	6区	SD06		土師器	皿	口縁回転ナリ・ 底回転△ナリ	口縁回転ナリ・ 底回転△ナリ					細・少	(8.0)	1.1	(6.9)		10YR8/2 灰白 10YR8/3 浅黄橙	2/8	
108	6区	SD06	TS取り上げ P10	土師器	皿	口縁回転ナリ・ 底回転△ナリ 未調整	口縁回転ナリ・ 底回転△ナリ					細・少	(8.2)	1.3	(5.6)		2.5Y8/3 淡黄 2.5Y8/3 淡黄	1/8	
109	6区	SD06	TS取り上げ P9	土師器	皿	体回転ナリ・ 底不明(マク)	回転ナリ					細・少			(6.7)		10YR7/4 に ぶい黄橙 10YR7/4 に ぶい黄橙	1/8	
110	6区	SD06	TS取り上げ P16	土師器	杯	口縁～体回転 ナリ・底回転 △ナリ	口縁～体回転 ナリ・底回転 △ナリ					細・少	(9.9)		(7.1)		10YR8/2 灰白 10YR8/2 灰白	3/8	
111	6区	SD06		土師器	杯	口縁～体回転 ナリ・底回転 △ナリ	口縁～体回転 ナリ・底回転 △ナリ					細・少	(10.1)	2.7	(6.0)		2.5Y8/2 灰白 2.5Y8/2 灰白	1/8	
112	6区	SD06	TS取り上げ P4	土師器	杯	口縁～体回転 ナリ・底回転 △ナリ 後ナリ	口縁～体回転 ナリ・底回転 △ナリ 不明(付着物)					細・少	(10.4)		(8.0)		7.5YR8/3 浅黄橙7.5YR8/3 浅黄橙	1/8	
113	6区	SD06		土師器	杯	口縁～体回転 ナリ・底回転 △ナリ 後ナリ	口縁～体回転 ナリ・底回転 △ナリ					中・多	(10.6)		(6.6)		10YR8/4 浅黄橙10YR8/4 浅黄橙	2/8	

第10表 東坂元秋常遺跡出土土器観察表(6)

観文 番号	調査区	遺構名	席位	種類	器種	調整		胎土				法量				色調		残存率	備考
						外面	内面	石英・ 長石	赤色粒 角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他 (cm)	外部	内部		
114	6区	SD06	TS取り上げ P15	土師器	杯	回転子	回転子									7.5YR7/6 橙	7.5YR8/3 浅黄橙	2/8	
115	6区	SD06		土師器	杯	口縁～体回転子 底不明(付着物)	口縁～体回転子 底不明(付着物)									10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙	3/8	
116	6区	SD06		土師器	杯	口縁～体回転子 底不明(マダ)	口縁～体回転子 底不明(マダ)									7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙	1/8	
117	6区	SD06		土師器	杯	口縁～体回転子 底不明(付着物)	口縁～体回転子 底不明(付着物)									10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙	2/8	
118	6区	SD06		土師器	杯	口縁回転子 底不明(付着物)	口縁回転子 底不明(付着物)									10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	1/8	
119	6区	SD06		土師器	杯	体回転子 底不明(付着物)	体回転子 底不明(付着物)									10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	1/8	
120	6区	SD06		土師器	杯	不明(付着物)	不明(マダ・付 着物)									10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	1/8	
121	6区	SD06	TS取り上げ P14	土師器	杯	体回転子 底不明(付着物)	体回転子 底不明(付着物)									10YR8/2 灰白	10YR8/3 浅黄橙	3/8	
122	6区	SD06		土師器	杯	体回転子 底不明(付着物)	体回転子 底不明(付着物)									10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	2/8	
123	6区	SD06		土師器	摺鉢	不明(付着物)	不明(付着物)									2.5Y8/3 淡黄	2.5Y8/2 灰白	3/8	
124	6区	SD06	TS取り上げ F3	西村産 須恵器	杯	口縁ヨコナテ 体付	口縁ヨコナテ 体付									5Y8/1 灰白	5Y8/1 灰白	2/8	
125	6区	SD06	TS取り上げ P1	青白磁	壺	底無軸	底無軸									5G7/1 明緑灰	5G7/1 明緑灰	1/8未 調	
126	7区	SD04	黒色包含層 集石 周辺(10～20cm)	土師器	皿	口縁回転子 底不明(付着物)	口縁回転子 底不明(付着物)									7.5YR8/3 浅黄橙	7.5YR8/3 浅黄橙	3/8	
127	7区	SD04	黄灰色シルト	土師器	皿	口縁回転子 底不明(付着物)	口縁回転子 底不明(付着物)									10YR7/4に ぶい黄橙	10YR7/4に ぶい黄橙	6/8	
128	7区	SD04	上面積査	土師器	皿	口縁回転子 底不明(付着物)	口縁回転子 底不明(付着物)									10YR7/3に ぶい黄橙	10YR7/3に ぶい黄橙	3/8	
129	7区	SD04	黄灰色シルト	土師器	皿	口縁回転子 底不明(付着物)	口縁回転子 底不明(付着物)									2.5Y8/3 淡黄	2.5Y8/3 淡黄	2/8	

第 11 表 東坂元秋常遺跡出土土器観察表 (7)

観文 番号	調査区	遺構名	層位	種類	器種	調整		胎土				法量				色調		残存率	備考	
						外面	内面	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他 (cm)	外部			内部
130	6区	SD07		土師器	皿	口縁回転ナリ 底回転ナリ 未調整	口縁回転ナリ 底行						6.9	0.7	5.1		10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙	8/8	
131	7区	SD04	下層	土師器	皿	口縁回転ナリ 底回転ナリ	回転ナリ						7.1		6.9		7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙	1/8	
132	6区	SD07		土師器	皿	口縁回転ナリ 底回転ナリ	口縁回転ナリ 底不明						7.4	1.1	6.3		10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙	1/8	
133	7区	SD04	下層	土師器	皿	不明(付着物 ナリ)	不明(付着物)						7.8	1.3	5.5		7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙	1/8	
134	7区	SD04	包含層(黄灰色シルト) SD03北部付近	土師器	杯	口縁~体回転 ナリ 底回転 ナリ 後行	回転ナリ						10.7	3.0	5.9		2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/3 浅黄	2/8	
135	7区	SD04	試掘より西 黄灰色シルト	土師器	杯	回転ナリ	不明(付着物)						10.8				10YR8/4 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	1/8未 満	
136	6区	SD07		土師器	杯	口縁回転ナリ 底回転ナリ	回転ナリ						11.4	2.2	8.0		10YR7/6 明黄緑	10YR8/4 浅黄橙	1/8	
137	7区	SD04	包含層 (試掘より西) 黄灰色シルト	土師器	杯	口縁~体回転 ナリ 底回転 ナリ	口縁~体回転 ナリ 底行						11.9	3.0	6.1		10YR8/3 浅黄橙	7.5YR7/4 に 近い橙	1/8	
138	7区	SD04	包含層 (試掘より東) 黄灰色シルト	東播系 須恵器	鉢	回転ナリ	口縁回転ナリ 体行						24.4				5Y8/1 灰白	N5/ 灰	1/8未 満	
139	7区	SD04	西部 黄褐色 粘質シルト層	須恵器	鉢	体ナリ 底不 明(ナリ)	不明(ナリ)								11.8		7.5Y8/1 灰白	5Y7/1 灰白	1/8	内面使用痕
140	7区	SD04	黄灰色シルト	白磁	碗	施軸	施軸										7.5Y7/1 灰白	7.5Y8/1 灰白	1/8未 満	
145	6区	SX01		土師器	皿	口縁回転ナリ 底回転ナリ	回転ナリ						6.3	1.3	4.3		7.5YR8/6 浅黄橙	7.5YR8/6 浅黄橙	2/8	
146	6区	SX01		土師器	皿	口縁回転ナリ 底回転ナリ	不明(付着物)						6.9	1.4	4.5		7.5YR8/3 浅黄橙	7.5YR8/3 浅黄橙	2/8	
147	6区	SX01		土師器	皿	口縁回転ナリ 底回転ナリ 後行	口縁回転ナリ 底行						6.9	1.2	5.3		7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	2/8	
148	6区	SX01		土師器	皿	口縁回転ナリ 底回転ナリ 未調整	不明(付着物)						7.1	1.3	5.5		7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙	2/8	
149	6区	SX01		土師器	皿	口縁回転ナリ 底回転ナリ	回転ナリ						7.4	1.1	6.0		7.5YR8/6 浅黄橙	7.5YR8/6 浅黄橙	1/8	

第12表 東坂元秋常遺跡出土土器観察表(8)

観文 番号	調査区	遺構名	層位	種類	器種	調整		胎土				法量				色調		残存率	備考
						外面	内面	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他 (cm)	外部		
150	6区	SX01		土師器	皿	口縁回転ナリ 底回転ナリ	不明(マヨ)								10YR7/4に ぶい黄橙	10YR7/4に ぶい黄橙	2/8		
151	6区	SX01		土師器	皿	口縁回転ナリ 底回転ナリ	回転ナリ						1.1	(5.5)	7.5YR7/4に ぶい橙	7.5YR7/4に ぶい橙	1/8		
152	6区	SX01		土師器	杯	回転ナリ	不明(付着物 マヨ)				細・少				10YR7/6明黄橙	7.5YR8/6浅黄橙	2/8		
153	6区	SX01		土師器	杯	口縁～体回転 ナリ底不明	回転ナリ				細・多				10YR8/1灰白	10YR8/3浅黄橙	1/8未 満		
154	6区	SX01		土師器	杯	口縁～体回転 ナリ底不明	回転ナリ				細・少			(7.6)	10YR8/3浅黄橙	10YR8/3浅黄橙	1/8		
155	6区	SX01		土師器	杯	回転ナリ	回転ナリ				細・少				7.5YR7/4に ぶい橙	7.5YR7/4に ぶい橙	1/8未 満		
156	6区	SX01		土師器	椀	不明(マヨ)	不明(マヨ)				細・少				7.5YR8/3浅黄橙	7.5YR8/4浅黄橙	1/8		
157	6区	SX01		土師器	鍋	ヨコナリ	マヨ				中・少				10YR7/2に ぶい黄橙	10YR8/4浅黄橙	1/8未 満		
158	6区	SX01		須恵器	椀	回転ナリ	ナリ				細・少			(6.7)	5Y8/2灰白	5Y8/2灰白	2/8		
159	6区	SX01		西村産 須恵器	椀	ナリ	ナリ				細・少				5Y8/1灰白	5Y7/1灰白	1/8未 満		
160	6区	SX01		西村産 須恵器	椀	回転ナリ	回転ナリ後ハタ ナリ				細・少				NS/灰白	NS/灰白	1/8未 満		
161	6区	SX01		西村産 須恵器	椀	口縁～体上半 回転ナリ体 下半ナリ	口縁回転ナリ				細・多				2.5Y7/1灰白	2.5Y7/1灰白	1/8未 満		
162	6区	SP20		土師器	皿	口縁回転ナリ 底不明(付 着物)	不明(付着物)				細・少				7.5YR8/4浅黄橙	7.5YR8/4浅黄橙	1/8		
163	6区	SP20		土師器	皿	口縁回転ナリ 底不明(付 着物)	不明(付着物)				細・少				7.5YR8/6浅黄橙	7.5YR8/6浅黄橙	1/8未 満		
164	6区	SP20		土師器	皿	口縁回転ナリ 底回転ナリ 未調整	不明(付着物)				細・少				2.5Y8/3淡黄	2.5Y8/3淡黄	3/8		
165	6区	SP20		土師器	皿	口縁回転ナリ 底回転ナリ 未調整	不明(付着物)				細・少				10YR8/3浅黄橙	10YR8/3浅黄橙	1/8		

第13表 東坂元秋常遺跡出土土器觀察表 (9)

報文番号	調査区	遺構名	層位	種類	器種	調整		胎土				法量				色調		残存率	備考	
						外面	内面	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他 (cm)	外部			内部
166	6区	SP20		土師器	杯	口縁~体回転 付、底不明 (付着物)	不明(付着物)					細・少	(9.9)	2.9	(6.2)		7.5YR8/4 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	3/8	
167	6区	SP20		土師器	杯	口縁~体回転 付、底回転 △7利	回転付					中・多	(11.0)		(8.0)		2.5Y8/3 淡黄	2.5Y8/3 淡黄	1/8未 満	
168	6区	SP20		黒色土器 A類	碗	ヨコ付	△7カキ					細・少	(14.8)				2.5Y8/2 灰白	N2/黒	1/8未 満	
169	6区	SP20		西村産 須恵器	碗	回転付	口縁回転付、 体付					中・少	(14.6)				2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/1 灰白	1/8未 満	
170	6区	SP20		須恵器	鉢	口縁ヨコ付、 体不明 (△77?)	不明 (△77?)					細・少					2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/1 灰白	1/8未 満	
171	6区	SP37	7セ	青磁	碗	施釉	施釉					無	(16.2)				5Y6/2 灰白-7*	2.5Y6/2 灰黄	1/8未 満	龍泉窯系1-5
172	6区	SP53		土師器	皿	口縁回転付、 底回転△7利 未調整	口縁回転付、 底回転△7利 未調整					細・少	(6.5)	1.0	(5.3)		10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	1/8	
173	7区	SP26		土師器	杯	回転付	回転付					中・少	(8.8)				10YR8/4 浅黄橙	5YR7/8 橙	1/8	
174	6区	SK01		土師器	皿	口縁回転付、 底回転△7利 未調整	口縁回転付、 底回転△7利 未調整					細・少	7.0	1.3	5.2		7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	8/8	
175	6区	SK01		土師器	皿	口縁回転付、 底回転△7利 未調整	口縁回転付、 底回転△7利 未調整					細・少	(7.0)	1.0	(5.7)		7.5YR8/6 浅黄橙	7.5YR8/6 浅黄橙	2/8	
176	6区	SK01		土師器	皿	口縁回転付、 底回転△7利 未調整	口縁回転付、 底回転△7利 未調整					細・少	(7.1)	1.1	(5.5)		7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙	3/8	
177	6区	SK01		土師器	皿	口縁回転付、 底回転△7利 付	付					細・少	(7.2)	1.2	(5.7)		7.5YR7/4 に △7利	7.5YR7/4 に △7利	2/8	
178	6区	SK01		土師器	皿	口縁回転付、 底回転△7利 後付	口縁回転付、 底回転△7利 後付					細・少	(7.2)	1.4	(5.7)		7.5YR7/4 に △7利	7.5YR8/3 浅黄橙	2/8	
179	6区	SK01		土師器	皿	口縁回転付、 底回転△7利 未調整	口縁回転付、 底回転△7利 未調整					細・少	7.2	1.2	5.6		7.5YR8/6 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	8/8	
180	6区	SK01		土師器	皿	口縁回転付、 底回転△7利	回転付					細・少	(7.2)	1.1	(4.9)		7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	2/8	
181	6区	SK01		土師器	皿	口縁回転付、 底回転△7利 未調整	口縁回転付、 底回転△7利 未調整					細・少	7.3	1.1	5.8		7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	7/8	

第14表 東坂元秋常遺跡出土土器觀察表(10)

報文 番号	調査区	遺構名	層位	種類	器種	調整			胎土				法量				色調		残存率	備考
						外面	内面	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他 (cm)	外部	内部		
182	6区	SK01		土師器	皿	口縁回転+ 底回転+ 未調整	口縁回転+ 底+					細・少	7.3	1.4	6.0		5YR8/4 淡橙	5YR8/4 淡橙	2/8	
183	6区	SK01		土師器	皿	口縁回転+ 底回転+ 後行	口縁回転+ 底+					細・少	7.4	1.7	5.8		7.5YR7/6 橙	10YR7/4 に ぶい黄橙	4/8	
184	6区	SK01	T/S取り上げ P1	土師器	皿	口縁回転+ 底回転+ 後行	口縁回転+ 底+				細・少	7.6	1.3	6.0		7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙	3/8		
185	6区	SK01		土師器	皿	口縁回転+ 底回転+ 未調整	口縁回転+ 底+				中・少	7.8	1.1	5.6		7.5YR6/2 灰褐	7.5YR5/2 灰褐	2/8		
186	6区	SK01		土師器	皿	口縁回転+ 底回転+ 未調整	口縁回転+ 底+				細・少	8.0	1.5	5.4		5YR8/4 淡橙	7.5YR8/4 浅黄橙	3/8		
187	6区	SK01		土師器	皿	口縁回転+ 底回転+ 未調整	口縁回転+ 底+				細・少	8.1	0.9	5.4		10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	2/8		
188	6区	SK01		土師器	皿	口縁不明(付 着物) 底回 転+ 未調整	口縁不明(付 着物) 底回 転不明(付着物)				細・少	8.6	1.3	7.0		10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙	2/8		
189	6区	SK01	アゼ	土師器	杯	口縁~体回転 + 未調整	口縁~体回転 + 底+				細・少	11.7	3.2	5.6		10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	8/8		
190	6区	SK01		土師器	杯	口縁~体回転 + 未調整	口縁~体回転 + 底+				細・少	11.4	3.0	6.9		7.5YR8/3 浅黄橙	7.5YR8/2 灰白	3/8		
191	6区	SK01		土師器	杯	口縁~体回転 + 未調整	口縁~体回転 + 底+				細・少	12.1		8.7		10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	1/8		
192	6区	SK01		土師器	杯	口縁~体回転 + 未調整	口縁~体回転 + 底+				細・少	13.4				10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	1/8		
193	6区	SK01		土師器	甕	口縁不明 未調整	口縁不明 未調整				中・少					7.5YR7/4 に ぶい橙	10YR8/1 灰白	1/8未 満		
194	6区	SK01	アゼ	須恵器	杯	口縁~体回転 + 未調整	口縁~体回転 + 底+				中・少	14.7	3.8	8.8		5Y8/1 灰白	5Y8/1 灰白	2/8	底すす付着	
195	6区	SK01		亀山焼	甕	口縁不明 未調整	口縁不明 未調整				細・少					N3/暗灰	N3/暗灰	1/8未 満		
196	6区	SK01		青磁	碗	口縁不明 未調整	口縁不明 未調整				無	15.8				2.5GY6/1+ 9-7 灰	2.5GY6/1+ 9-7 灰	1/8未 満	龍泉系1-5	

第15表 東坂元秋常遺跡出土土器観察表(11)

編文 番号	調査区	遺構名	部位	種類	器種	調整		胎土				法量				色調		残存率	備考
						外面	内面	石英・ 長石	赤色覚	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他 (cm)	外部		
197	6区	SK01		青磁	碗	施釉	施釉								5Y7/1明 ナリ灰	N8/灰白	1/8	龍泉窯系1-5	
198	6区	SK04		土師器	杯	口縁~体回転 ナリ底不明	回転ナリ								10YR7/4に ぶい黄橙	10YR6/4に ぶい黄橙	2/8		
199	7区	SK01		土師器	杯	体回転ナリ 底回転ナリ未 調整	体回転ナリ 底ナリ		~						5Y8/1灰白	5Y7/1灰白	4/8		
200	6区	SP87		土師器	杯	口縁~体回転 ナリ底回転 ナリ	不明(付着物)								10YR7/4に ぶい黄橙	10YR7/4に ぶい黄橙	3/8		
201	6区	SP87		土師器	杯	口縁~体不明 (付着物)底 回転ナリ未調 整	不明(付着物)								5YR7/6橙	5YR7/6橙	2/8		
202	6区	SP87		土師器	杯	口縁~体回転 ナリ底不明	口縁~体回転 ナリ底ナリ								10YR4/2灰黄褐	10YR4/2灰黄褐	4/8		
203	6区	SP87		土師器	杯	口縁~体回転 ナリ底回転 ナリ	不明(付着物)								5YR7/4に ぶい橙	7.5YR7/4に ぶい橙	2/8		
204	6区	SP87		土師器	杯	口縁~体回転 ナリ底回転 ナリ	回転ナリ								10YR8/3浅黄橙	2.5Y7/2灰黄	5/8		
205	6区	SP87		土師器	杯	口縁~体回転 ナリ底回転 ナリ	口縁~体回転 ナリ以下不明 (付着物)								5YR7/6橙	5YR7/6橙	2/8		
206	6区	SP87		土師器	杯	口縁~体回転 ナリ底回転 ナリ未調整	不明(付着物)								2.5Y7/2灰黄	10YR6/3に ぶい黄橙	3/8		
207	6区	SP87		土師器	杯	口縁~体不明 (付着物)底 回転ナリ	不明(付着物)								7.5YR8/4浅黄橙	7.5YR8/4浅黄橙	8/8		
208	6区	SP87		土師器	杯	口縁~体回転 ナリ底回転 ナリ	回転ナリ								5YR7/6橙	7.5YR7/6橙	7/8		
209	6区	SP87		土師器	杯	口縁~体回転 ナリ底不明	口縁~体回転 ナリ底ナリ								10YR7/3に ぶい黄橙	10YR7/3に ぶい黄橙	7/8		
210	6区	SP87		土師器	杯	口縁~体回転 ナリ底回転 ナリ	口縁~体回転 ナリ底回転 ナリ								5YR7/6橙	7.5YR6/3に ぶい橙	6/8		
211	7区	SP27		土師器	皿	口縁回転ナリ 底回転ナリ	口縁回転ナリ 底ナリ								10YR8/4浅黄橙	10YR8/3浅黄橙	8/8		

第 16 表 東坂元秋常遺跡出土土器観察表 (12)

報文 番号	調査区	遺構名	層位	種類	器種	調整		胎土				法量			色調		残存率	備考		
						外面	内面	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他 (cm)			外部	内部
212	7区	SP27	中央部	土師器	皿	口縁回転+子 底回転+7利 未調整	口縁回転+子 底子					細・少	6.6	1.1	5.4		7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/3 浅黄橙	5/8	
213	7区	SP27		土師器	皿	口縁回転+子 底回転+7利 未調整	口縁回転+子 底子					細・少	(6.6)	0.9	(5.1)		7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙	2/8	
214	7区	SP27		土師器	皿	口縁回転+子 底回転+7利 未調整	口縁回転+子 底子					細・少	6.8	1.1	4.8		7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	7/8	
215	7区	SP27		土師器	皿	口縁回転+子 底回転+7利 未調整	口縁回転+子 底子					細・少	(6.8)	1.4	(4.9)		7.5YR7/4 に ぶい橙	7.5YR7/4 に ぶい橙	7/8	
216	7区	SP27		土師器	皿	口縁回転+子 底回転+7利 未調整	口縁回転+子 底子					細・少	(7.0)	1.1	(5.3)		10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	2/8	
217	7区	SP27		土師器	杯	口縁～体回転+子 底回転+7利 未調整	口縁～体回転+子 底子					細・少	(10.4)	2.6	(6.5)		7.5YR8/3 浅黄橙	7.5YR8/3 浅黄橙	3/8	
218	7区	SP27		土師器	杯	口縁～体回転+子 底回転+7利 未調整	口縁～体回転+子 底子					細・少	(11.4)	2.7	(7.8)		10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	1/8	
219	6区	SP03	北部	土師器	皿	口縁～体回転+子 底回転+7利 未調整	口縁～体回転+子 底子					細・少	(6.6)	1.1	(4.9)		7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙	3/8	
220	6区	SP19		土師器	皿	口縁回転+子 底回転+7利 未調整	口縁回転+子 底子					細・少	(6.9)	1.1	(5.6)		2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	1/8 未 満	
221	6区	SP03		土師器	皿	不明(付着物) 不明(付着物)	不明(付着物) 不明(付着物)					細・少	(7.0)	1.2	(5.5)		10YR7/2 に ぶい黄橙	2.5Y7/2 灰黄	1/8	
222	6区	SP03	北部	土師器	皿	口縁回転+子 底回転+7利 未調整	口縁回転+子 底子					無	(7.0)	1.0	(5.5)		7.5YR8/6 浅黄橙	7.5YR8/6 浅黄橙	1/8 未 満	
223	6区	SP19		土師器	皿	不明(付着物) 不明(付着物)	不明(付着物) 不明(付着物)					細・少	(7.1)	1.0	(6.0)		7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙	1/8 未 満	
224	6区	SP05		土師器	皿	口縁回転+子 底不明(付着物) 不明(付着物)	口縁回転+子 底不明(付着物) 不明(付着物)					中・少	(7.2)	1.2	(5.6)		7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	1/8	
225	6区	SP48		土師器	皿	口縁回転+子 底回転+7利 未調整	口縁回転+子 底子					細・少	(7.5)	1.1	(6.0)		7.5YR8/6 浅黄橙	7.5YR8/6 浅黄橙	1/8 未 満	
226	V区	SP03埋土		土師器	皿	口縁回転+子 底回転+7利 未調整	口縁回転+子 底子					中・少	(7.6)	1.1	(5.0)		5YR7/6 橙	7.5YR8/6 浅黄橙	1/8	
227	V区	SP58埋土		土師器	皿	口縁～体回転+子 底不明(付着物) 不明(付着物)	口縁～体回転+子 底不明(付着物) 不明(付着物)					細・多	(7.8)	1.2	(6.0)		5YR7/6 橙	5YR7/6 橙	3/8	

第17表 東坂元秋常遺跡出土土器觀察表 (13)

報文 番号	調査区	遺構名	層位	種類	器種	調整		胎土				法量				色調		残存率	備考
						外面	内面	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他 (cm)	外部		
228	7区	SP63		土師器	皿	不明(マダ)	不明(マダ)									10YR7/2に ぶい黄橙	2.5YR8/3淡黄	1/8	
229	IV区	SP01埋土		土師器	皿	口縁回転+ 底回転△7初	回転+									7.5YR7/4に ぶい橙	7.5YR8/4浅黄褐	1/8	
230	7区	SP56		土師器	皿	口縁回転+ 底不明(付不着物)	不明(付不着物)									7.5YR8/6浅黄橙	7.5YR8/6浅黄橙	1/8	
231	IV区	SP01埋土		土師器	杯	回転+	回転+									7.5YR8/6浅黄橙	7.5YR8/6浅黄橙	1/8	
232	VI区	SP42埋土		土師器	杯	回転+	回転+									7.5YR8/4浅黄橙	10YR8/3浅黄橙	1/8未 満	
233	VI区	SP21埋土		土師器	杯	回転+	回転+									10YR4/2灰黄褐	10YR4/2灰黄褐	1/8未 満	
234	6区	SP03		土師器	杯	回転+	回転+									5YR7/6橙	7.5YR7/6橙	1/8	
235	6区	SP13		土師器	杯	回転+	回転+									7.5YR8/6浅黄橙	7.5YR8/6浅黄橙	1/8	
236	V区	SP15埋土		土師器	杯	回転+	回転+									5YR7/6橙	5YR7/6橙	1/8	
237	V区	SP15埋土		土師器	杯	口縁~体回転 + 底回転 △7初後+	回転+									7.5YR8/4浅黄橙	10YR8/3浅黄橙	2/8	
238	6区	SP16		土師器	杯	回転+	回転+									7.5YR8/4浅黄橙	7.5YR8/4浅黄橙	1/8	
239	6区	SP19		土師器	杯	回転+	+									10YR8/3浅黄橙	10YR8/3浅黄橙	1/8未 満	
240	V区	SP15埋土		土師器	杯	口縁~体回転 + 底回転 △7初後+	回転+									10YR8/4浅黄橙	10YR8/4浅黄橙	1/8	
241	V区	SP07埋土		土師器	杯	口縁~体回転 + 底回転 △7初後+	回転+									7.5YR6/4に ぶい橙	7.5YR5/2灰褐	3/8	
242	6区	SP08		土師器	杯	体回転+ 底行	体回転+ 底行									7.5YR7/6橙	10YR8/2灰白	2/8	
243	6区	SP97		土師器	杯	体回転+ 底回転△7初未 調整	体~底外回転 底内行									2.5YR8/2灰白	10YR7/6明黄褐	7/8	
244	VI区	SP63埋土		土師器	碗	+	+									10YR8/1灰白	10YR5/1褐灰	2/8	

第18表 東坂元秋常遺跡出土土器観察表(14)

報文 番号	調査区	遺構名	層位	種類	器種	調整		胎土				法量			色調		残存率	備考
						外面	内面	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他 (cm)		
245	7区	SP70		土師器	椀	体~高台回転 子底子	不明(マフ)						(5.8)		10YR8/2灰白	10YR8/2灰白	3/8	
246	6区	SP48		須恵器	杯	回転子	マ							(12.6)	5Y8/1灰白	5Y8/1灰白	1/8未 満	形状のお ろし目か
247	VI区	SP03埋土		西村産 須恵器	椀	子	子							(13.6)	7.5Y8/1灰白	7.5Y8/1灰白	1/8	口縁黒化
248	6区	SP46	アセ	西村産 須恵器	椀	回転子	子								2.5Y8/1灰白	2.5Y8/1灰白	1/8	
249	IV区	SP22埋土		瓦器	高杯	マ子	子								5Y8/1灰白	N5/灰	1/8未 満	
250	7区	SP70		瓦器	椀	口縁ヨコ子 体子	マ子							(14.0)	7.5Y7/1灰白	5Y7/1灰白	1/8未 満	
253	II区	SD12		須恵器	高杯	回転子	子								N8/灰白	N8/灰白	4/8	
254	II区	SD12 P1		須恵器	壺	回転子	回転子								5Y7/1灰白	5Y7/1灰白	6/8	
255	I区	SD02		青磁	椀	施釉	施釉							(13.7)	10Y6/2初-7/灰	10Y6/2初-7/灰	1/8未 満	
256	6区	SD03		土師器	皿	口縁回転子 底回転(マ)	回転子							1.3	7.5YR8/4浅黄橙	7.5YR8/4浅黄橙	1/8未 満	
257	6区	SD03		土師器	皿	口縁ヨコ子 底不明	口縁ヨコ子 底子							1.1	7.5YR7/6橙	7.5YR7/6橙	2/8	
258	6区	SD03		瓦器	皿	不明(付着物)	不明(付着物)								2.5Y7/2灰黄	2.5Y7/2灰黄	1/8	
259	6区	SD03		土師器	杯	口縁~体不明 (マ)底不明 転(マ)	不明(マフ)							3.1	10YR8/4浅黄橙	10YR8/4浅黄橙	2/8	
260	6区	SD03		土師器	杯	口縁回転子 底不明	回転子								7.5YR8/4浅黄橙	7.5YR8/4浅黄橙	1/8	
261	6区	SD03		土師器	杯	口縁~体回転 子底不明 (マ)	不明							2.7	10YR7/4に ぶい黄橙	10YR8/4浅黄橙	2/8	
262	6区	SD03		土師器	足釜	ヨ子	子								7.5YR7/4に ぶい橙	7.5YR7/4に ぶい橙	1/8未 満	
263	6区	SD03		土師器	不明	子	子								10YR7/4に ぶい黄橙	10YR7/4に ぶい黄橙	8/8	
264	7区	SD01		瓦器	椀	不明(マフ)	マ子							(4.6)	10YR7/2に ぶい黄橙	5Y4/1灰	2/8	

第 19 表 東坂元秋常遺跡出土土器観察表 (15)

観文 番号	調査区	遺構名	層位	種類	器種	調整		胎土				法量				色調		残存率	備考
						外面	内面	石英・ 長石	赤色粒 角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他 (cm)	外部	内部		
265	7区	SD01		青磁	碗	施軸	施軸									7.5Y5/2 灰白-ブ	7.5Y7/1 灰白	1/8 未 満	龍泉窯系 I - 2
266	6区	SD05		土師器	碗	不明(マタ)	不明(マタ)					(5.9)				10YR8/4 浅黄橙	2.5Y8/2 灰白	2/8	
267	6区	SD05		須恵器	碗	不明(マタ)	不明(マタ)									2.5Y5/1 黄灰	2.5Y8/1 灰白	1/8	
268	6区	SD05		須恵器	羹	回転付*	回転付*									2.5Y6/1 黄灰	5Y7/1 灰白	1/8	
270	7区	SD02	中央遺構検出	土師器	皿	不明(マタ)	不明(マタ)					1.6	(5.3)			7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	2/8	
271	7区	SD02		西村産 須恵器	碗	回転付*	口縁回転付* 底不明									N5/ 灰	10Y8/1 灰白	1/8	
272	7区	SD02		白磁	碗	底無軸	施軸									5Y8/1 灰白	2.5Y7/1 灰白	1/8 未 満	
273	7区	SD03		土師器	皿	口縁回転付* 底不明	口縁回転付* 底不明							(6.1)		7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙	1/8	
274	7区	SD03		土師器	皿	不明(マタ)	不明(マタ)					1.3	(7.2)			10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	1/8	
275	7区	SD03		土師器	杯	不明(マタ)	回転付*									2.5YR4/1 赤灰	2.5YR4/1 赤灰	1/8 未 満	
276	7区	SD03		土師器	碗	回転付*	不明(マタ)							(6.6)		2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	1/8 未 満	
277	7区	SD03		西村産 須恵器	皿	口縁回転付* 底不明	口縁回転付* 底不明									7.5Y7/1 灰白	7.5Y7/1 灰白	1/8 未 満	
278	7区	SD03		西村産 須恵器	碗	体付* 回転付*	高台* 回転付*							(5.4)		2.5Y7/1 灰白	2.5Y8/1 灰白	2/8	
279	7区	SD03		白磁	皿	施軸	施軸									10Y8/1 灰白	2.5Y8/2 灰白	1/8 未 満	
280	7区	SD03		青磁	碗	施軸	施軸									2.5GY7/1 明 利-ブ 灰	2.5GY7/1 明 利-ブ 灰	1/8 未 満	龍泉窯系 I - 5
282	Ⅲ区	SK01 埋土	上 (1、2層)	染付	碗	施軸	施軸									5GY8/1 灰白	5GY8/1 灰白	7/8	
282	Ⅲ区	SK01 埋土		染付	碗	施軸	施軸									5GY8/1 灰白	5GY8/1 灰白	7/8	
283	Ⅲ区	SK01 埋土		染付	碗	置付無軸	施軸						4.2			N8/ 灰白	N8/ 灰白	3/8	

第20表 東坂元秋常遺跡出土土器観察表(16)

観文 番号	調査区	遺構名	層位	種類	器種	調整		胎土				法量				色調		残存率	備考
						外面	内面	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他 (cm)	外部		
284	III区	SK01埋土		染付	碗	置付無軸	施軸									5GY8/1灰白	5GY8/1灰白	2/8	
285	II区	SX01		染付	碗	置付無軸	施軸									10Y8/1灰白	N8/灰白	5/8	
286	II区	SX01 石内部		陶胎染付	碗	置付無軸	施軸					(10.8)	6.8	(5.0)		7.5GY7/1明緑灰N6/灰		4/8	
287	III区	SX01 (北東)		陶器	皿	口縁施軸 回転ハラスリ	底施軸					(11.2)				7.5Y7/2灰白	10YR8/2灰白	2/8	
288	III区	SX01 (南西)		染付	碗	置付無軸	施軸							(3.8)		10Y8/1灰白	N8/灰白	4/8	
289	III区	SX01 ア七落上七		陶胎染付	碗	置付無軸	施軸							5.6		7.5Y8/1灰白	7.5Y8/1灰白	5/8	
290	III区	SP20埋土		陶器	碗	施軸	施軸									7.5Y8/1灰白	7.5Y8/1灰白	1/8未 溝	291と同一個体 溝か、貫入あり
291	III区	SP30埋土		陶器	碗	施軸	施軸									2.5GY7/1明 利-7灰	5Y8/1灰白	1/8未 溝	290と同一個体か
292	III区	SP30埋土		陶器	碗	底無軸	施軸							(3.3)		2.5Y8/3淡黄	10Y8/1灰白	3/8	
293	III区	SD04 石除去中 (SD01埋 土を含む)		須恵器	杯	体回転ナリ 底不明(マメ)	回転ナリ					(13.8)	3.2	(8.2)		5Y8/1灰白	2.5Y4/2暗灰黄	7/8	
294	II区	SD01 視乱16 下部	下層	須恵器	杯	体回転ナリ 底回転ナリ 調整	体～底外回転 底内ナリ							(8.8)		N8/灰白	N8/灰白	3/8	
295	II区	SD01		須恵器	壺	口縁回転ナリ 体ナリ後回転ナリ	回転ナリ					(21.0)				7.5Y5/1灰	7.5Y5/1灰	2/8	
296	III区	SD01		須恵器	壺	回転ナリ	回転ナリ									5Y7/1灰白	5Y8/1灰白	1/8	
297	III区	SD01		緑釉陶器	皿	施軸	施軸							(6.0)		2.5Y7/3浅黄	2.5Y8/3浅黄	1/8	
298	II区	SD01 視乱16 下部	下層	土師器	皿	体回転ナリ 底ハラスリ	回転ナリ					(7.0)	1.5	(5.0)		7.5YR8/4浅黄粉	7.5YR8/4浅黄粉	3/8	
299	II区	SD01 東端トレ ノ子部分	下層	土師器	碗	不明(付着物)	不明(マメ)							(6.1)		10YR8/2灰白	10YR8/3浅黄粉	2/8	
300	II区	SD01 (西端付近)		黑色土器 A類	碗	回転ナリ 後ハラスリ	回転ナリ							(5.4)		2.5Y7/2灰黄	2.5Y3/1黒褐	5/8	外面すす付着

第21表 東坂元秋常遺跡出土土器観察表 (17)

報文番号	調査区	遺構名	層位	種類	器種	調整			胎土				法量			色調		残存率	備考
						外面	内面	石英・長石	赤色粘角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他 (cm)	外部	内部		
301	II区	SD01		東播系須恵器	鉢	回転付*	回転付*								7.5Y7/1 灰白	7.5Y8/1 灰白	1/8 未満		
302	II区	SD01 トレンチより東(椀乱層)	上層	青磁	椀	施軸	施軸					(15.0)			7.5Y5/3 灰中-7*	7.5Y6/2 灰中-7*	1/8 未満	龍泉窯系青磁 1-5類	
303	II区	SD01 (椀乱21のアセの東) 椀乱を一部含む	上層	土師質土器	指鉢	口縁付* 指付E	体付*					(29.0)			5YR7/6 橙	7.5YR8/6 浅黄橙	1/8		
304	II区	SD01 P1		土師質土器	指鉢	口縁付* 体指付E	口縁付* 体板付*					(37.2)			7.5YR6/4 に ふい橙	5YR7/6 橙	2/8		
305	II区	SD01 ア ゼより東 土器集中 部2付瓦		土師質土器	焙烙	口縁付* 後付*	口縁付* 体付*					(51.6)			N2/ 黒	10YR6/6 明黄褐	4/8	外面すす付着	
306	II区	SD01 B -C間		瓦質土器	鍋	口縁付* 指付E	体					(14.4)			2.5Y4/1 黄灰	5YR6/6 橙	2/8		
307	II区	SD01 (椀乱21のアセの東) 椀乱を一部含む	上層	陶器	皿	上半施軸	蛇/目軸付*					4.4			7.5Y7/1 灰白	5YR6/4 に ふい橙	6/8	灰軸 袋付	
308	II区	SD01 (椀乱21のアセの東) 椀乱を一部含む	上層	陶器	皿	上半施軸	体施軸					(4.7)			7.5Y6/2 灰中-7*	7.5YR6/4 に ふい橙	6/8	灰軸	
309	II区	SD01 東 端トレンチより東	上部	陶器	椀	施軸	施軸					4.7			5YR4/2 灰褐	5YR4/2 灰褐	7/8	灰軸 葛粉掛け分け	
310	II区	SD01 ア ゼより東 土器集中部 2 (SD01の東端付近)		備前焼	指鉢	回転付*	回転付*								10YR4/3 に ふい黄褐	5YR4/3 に ふい赤褐	1/8		
311	II区	SD01		白磁	皿	体施軸	蛇/目軸付*					(4.6)			10GY8/1 明緑灰N8/ 灰白		5/8		
312	II区	SD01 アセ落とし		白磁	瓶	壺付無軸	無軸					(7.4)			10Y8/1 灰白	7.5Y8/1 灰白	1/8		
313	II区	SD01		袋付	椀	施軸	施軸					(11.2)			7.5Y8/1 灰白	7.5Y8/1 灰白	3/8		

第22表 東坂元秋常遺跡出土土器観察表(18)

編文 番号	調査区	遺構名	層位	種類	器種	調整		胎土				法量				色調		残存率	備考
						外面	内面	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他 (cm)	外部		
314	Ⅱ区	SD01 (龍乱21 のアゼの 東) 椀を 一部含む	上層	染付	皿	器付無軸	施軸					無	(13.4)	3.4	(5.0)	5GY8/灰白	7.5Y8/1灰白	4/8	
315	Ⅱ区	SD01 アゼ落とし		染付	瓶	施軸	無軸				無					10Y8/1灰白	2.5Y8/1灰白	4/8	
316	Ⅲ区	SD04 ②		青磁	底部	器付-底無軸	施軸				無				(6.2)	5G6/1緑灰	5G7/1明緑灰	5/8	
317	Ⅲ区	SD04	下層	陶器	皿	口縁回転子 底回転子					細・少	(10.0)	1.9			5YR6.6橙	2.5YR5.6明赤褐	2/8	口縁すずり着
318	Ⅲ区	SD04 P5		陶器	皿	下半無軸	施軸				中・少			4.2		5Y6/3初-7黄	5Y6/3初-7黄	6/8	砂目積
319	Ⅲ区	SD04	上層	陶器	椀	底無軸	施軸				無	(9.2)				5Y7/3浅黄	5Y7/3浅黄	1/8未 満	貫入あり
320	Ⅲ区	SD04 (東西部分)	下層	陶器染付	皿	底無軸	施軸				中・少			(12.4)		7.5Y8/1灰白	5Y8/2灰白	2/8	
320	Ⅲ区	椀品 南北落ち 込み断面	4層	陶器染付	皿	底無軸	施軸				中・少			(12.4)		7.5Y8/1灰白	5Y8/2灰白	2/8	
321	Ⅲ区	SD04 P4		染付	皿	器付無軸	施軸				無	(13.3)	4.2	(7.5)		10Y8/1灰白	7.5Y8/1灰白	3/8	
322	Ⅲ区	SD04 ②		染付	蓋	施軸	施軸				無	9.7				5GY8/1灰白	N8/灰白	7/8	
323	Ⅲ区	SD04	上層	染付	椀	施軸	施軸				無	(10.0)				7.5Y8/1灰白	7.5Y8/1灰白	1/8	
323	Ⅲ区	SD04	下層	染付	椀	施軸	施軸				無	(10.0)				7.5Y8/1灰白	7.5Y8/1灰白	1/8	
324	Ⅲ区	SD04 P2		染付	椀	器付無軸	施軸				無			(4.2)		2.5GY8/1灰白	2.5GY8/1灰白	4/8	
325	Ⅲ区	SD04	上層	染付	椀	器付無軸	施軸				無	(10.2)	5.2	(4.2)		2.5GY8/1灰白	N8/灰白	3/8	
326	Ⅲ区	SD04 (南北部分)	下層	染付	椀	器付無軸	施軸				無	(11.0)	5.7	(5.4)		2.5GY8/1灰白	2.5GY8/1灰白	2/8	
327	Ⅲ区	SD04 P1		染付	椀	器付無軸	施軸				無			(6.0)		5GY8/1灰白	N8/灰白	4/8	

第23表 東坂元秋常遺跡出土土器観察表 (19)

報告 番号	調査区	遺構名	層位	種類	器種	調整		胎土				法量			色調		残存率	備考
						外面	内面	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他 (cm)		
328	Ⅲ区	SD04と 椀底切り 合いトレン チ部分		柴付	瓶	施釉	無軸								10Y8/1 灰白	7.5Y8/1 灰白	3/8	
329	Ⅲ区	SD04 屈曲部	上層	土師質 土器	甗	口縁ヨコナテ・ 体指ナシ後ナテ	口縁ヨコナテ・ 体指ナシ後ナテ				中・多	(12.5)			10YR8/3 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙	3/8	
330	Ⅲ区	SD04	上層	瓦質土器	壺	口縁～体上端 ヨコナテ	口縁ヨコナテ				細・少	(12.0)			N6/ 灰	N5/ 灰	2/8	
331	Ⅲ区	SD04	下層	瓦質土器	釜	ナテ	指ナシ後ナテ				細・多	(26.1)			N4/ 灰	N4/ 灰	1/8	外面下半すす付着
332	Ⅲ区	SD04 (東西部分)	下層	不明	ナテ	ナテ	-			中・多	長さ 19.3	幅7.1	厚さ 4.5	7.5YR5/1 褐灰色	-	8/8		
333	Ⅲ区	SD04 (東西部分)	下層	不明	ナテ	ナテ	-			中・多	長さ 20.0	幅7.0	厚さ 4.3	7.5YR6/1 褐灰色	-	8/8		
334	Ⅲ区	SD08 (ベースブ ロック)		柴付	椀	施付無軸	蛇目軸ナシ				無		(4.5)	N8/ 灰白	N8/ 灰白	4/8		
335	V区	SD01 P1	上層	土師器	杯	体不明(マナ) 底部止糸利	不明(マナ)			細・少			7.0	10YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/6 浅黄橙	6/8		
336	V区	SD01 (試 掘トレン チより南)	中層	土師質 土器	摺鉢	口縁不明(マナ) 体指ナシ	不明(マナ)			中・多	(17.8)			10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	1/8		
337	V区	SD01 (試 掘トレン チより北)	上層	土師質 土器	壺	口縁ヨコナテ・ 体指ナシ後ナテ	口縁ヨコナテ・ 体指ナシ後ナテ			細・多	(14.3)			2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	2/8		
337	V区	SD01 P2	上層	土師質 土器	壺	口縁ヨコナテ・ 体指ナシ後ナテ	口縁ヨコナテ・ 体指ナシ後ナテ			細・多	(14.3)			2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	2/8		
338	V区	SD01 (試 掘トレン チより北)分 岐部分付近	中層	土師質 土器	土釜	口縁ヨコナテ・ 体指ナシ	ヨコナテ			中・多	(25.7)			10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	1/8		
339	V区	SD01 分岐付近	上層と中層と の境付近	土師質 土器	甗	不明(マナ)	不明(マナ)			中・多				10YR8/2 灰白	7.5YR8/4 浅黄橙	8/8		
340	V区	SD01 (試 掘トレン チより北)	上層と中層(灰色 粘土)との境付近	白磁	皿	施釉	施釉			無	(10.4)			5Y7/1 灰白	2.5Y8/2 灰白	1/8未 満		
341	V区	SD01 (試 掘トレン チより南)	上層	陶器	天目碗	口縁～体施釉	施釉			無	(13.0)			7.5YR4/3 褐	7.5Y7/1 灰白	1/8		
342	V区	SD01 アゼ落とし	中層	縄文土器	深鉢	不明(マナ)	不明(マナ)	中・多	細・少					10YR6/2 灰黄褐	10YR2/1 黒	1/8未 満		

第24表 東坂元秋常遺跡出土土器観察表 (20)

報文 番号	調査区	遺構名	層位	種類	器種	調整		胎土				法量			色調		残存率	備考
						外面	内面	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他 (cm)		
343	7区			弥生土器	壺	ナメ	不明(マメ)	中・並							10YR6/2 灰黄褐	10YR7/2 に ぶい黄橙	8/8	11 条線描文
344	7区		試掘より西 黄灰色シルト	須恵器	杯	口縁～体回転 ナメ底回転 ナメ未調整	口縁～体回転 ナメ底ナメ		細・少	(10.3)	3.7	(7.0)			10YR7/2 に ぶい黄橙	2.5Y7/1 灰白	3/8	
345	1区		黒色包含層 (0～10cm)	黒色土器 A類	椀	回転ナメ	ナメガキ		細・多		(6.1)				10YR8/2 灰白	N5/ 灰	2/8	
346	2区			黒色土器 B類	椀	ナメガキ	ナメガキ		細・少						N2/ 黒	N2/ 黒	1/8未 満	
347	7区		黄灰色シルト	西村産 須恵器	椀	口縁回転ナメ 底ナメ 回転ナメ			細・少	(13.2)	4.5	5.2			5Y8/1 灰白	5Y8/1 灰白	5/8	
348	7区			西村産 須恵器	椀	回転ナメ	ナメ		細・少		(5.8)				2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	1/8	
349	7区			西村産 須恵器	椀	回転ナメ	ナメ		細・少	(14.2)	4.9	(5.7)			N7/ 灰白	7.5Y7/1 灰白	2/8	
349	7区			西村産 須恵器	椀	回転ナメ	ナメ		細・少	(14.2)	4.9	(5.7)			N7/ 灰白	7.5Y7/1 灰白	2/8	
350	7区		壁切り 表土掘削	西村産 須恵器	鉢	口縁回転ナメ 底不明(マメ) ナメ未調整	不明(マメ)		中・多	(27.2)					5Y6/1 灰	5Y8/1 灰白	1/8	
351	7区		黄灰色シルト	西村産 須恵器	鉢	回転ナメ	回転ナメ		細・多	(32.8)					5Y8/1 灰白	N4/ 灰	1/8未 満	
352	7区		黄灰色シルト	土師器	皿	口縁回転ナメ 底回転ナメ ナメ未調整	回転ナメ		細・少	(6.4)	1.3	(4.6)			7.5YR7/4 に ぶい黄橙	10YR7/2 に ぶい黄橙	3/8	
353	7区		黄灰色シルト 包含層 SD02・03の間	土師器	皿	口縁不明(マメ) 底不明(マメ) ナメ未調整	不明(マメ)		細・多	(6.6)	0.7	(5.5)			7.5YR8/6 浅黄橙	7.5YR8/6 浅黄橙	2/8	
354	6区			土師器	皿	口縁回転ナメ 底回転ナメ ナメ未調整	不明(付着物)		細・少	6.8	1.1	4.5			2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	8/8	
355	7区			土師器	皿	口縁回転ナメ 底回転ナメ ナメ未調整	回転ナメ		細・少	7.3	1.3	5.7			7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙	3/8	
356	7区		遺構検出	土師器	皿	口縁回転ナメ 底回転ナメ ナメ未調整	口縁回転ナメ 底ナメ		細・少	(7.5)	1.4	(5.2)			7.5YR8/4 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	3/8	
357	7区		黄灰色シルト	土師器	皿	口縁回転ナメ 底回転ナメ ナメ未調整	口縁回転ナメ 底ナメ		細・少	(8.0)	1.2	(5.9)			7.5YR8/6 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	4/8	

第25表 東坂元秋常遺跡出土土器観察表 (21)

観文 番号	調査区	遺構名	層位	種類	器種	調整		胎土					法量				色調		残存率	備考		
						外面	内面	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他 (cm)	外部	内部				
358	7区		黄灰色シルト	土師器	皿	口縁回転 ⁺ 底不明(7.4)	口縁回転 ⁺ 底不明(7.4)										7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙	3/8			
359	7区		黄灰色シルト	土師器	皿	口縁回転 ⁺ 底不明(7.4)	口縁回転 ⁺ 底不明(7.4)											10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	6/8		
360	7区		黄灰色シルト	土師器	杯	口縁～体回転 ⁺ 底不明(7.4)	不明(付着物)											7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/3 浅黄橙	2/8		
361	7区		黄灰色シルト	土師器	杯	口縁～体回転 ⁺ 底不明(7.4)	不明(付着物)												10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙	2/8	
362	7区		黄灰色シルト	土師器	杯	口縁～体回転 ⁺ 底不明(7.4)	不明(付着物)												10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	6/8	
363	7区		黄灰色シルト	土師器	杯	口縁～体回転 ⁺ 底不明(7.4)	不明(付着物)												2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	6/8	
364	7区		黄灰色シルト	土師器	杯	口縁～体回転 ⁺ 底不明(7.4)	不明(付着物)												10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	5/8	
365	7区		黄灰色シルト	土師器	杯	口縁～体回転 ⁺ 底不明(7.4)	不明(付着物)												10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙	6/8	
366	7区		黄灰色シルト	土師器	杯	口縁～体回転 ⁺ 底不明(7.4)	不明(付着物)												10YR8/3 浅黄橙	10YR8/2 灰白	2/8	
367	7区		黄灰色シルト	土師器	杯	口縁～体回転 ⁺ 底不明(7.4)	不明(付着物)												10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	3/8	
368	7区		黄灰色シルト	土師器	杯	口縁～体回転 ⁺ 底不明(7.4)	不明(付着物)												10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	4/8	
369	7区		包含層(試掘 より西)黄 灰色シルト	土師器	杯	口縁～体回転 ⁺ 底不明(7.4)	不明(付着物)												10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	7/8	
370	7区		黄灰色シルト	土師器	杯	口縁～体回転 ⁺ 底不明(7.4)	不明(付着物)												7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙	2/8	
371	7区		黄灰色シルト	土師器	杯	口縁～体回転 ⁺ 底不明(7.4)	不明(付着物)												2.5Y7/3 浅黄	10YR8/3 浅黄橙	2/8	

第26表 東坂元秋常遺跡出土土器観察表 (22)

報文番号	調査区	遺構名	層位	種類	器種	調整		胎土				法量				色調		残存率	備考	
						外面	内面	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他 (cm)	外部			内部
372	7区			土師器	杯	口径~体回転 子・底回転 子(残)	口径~体回転 子・底不明						14.2	3.9	8.5		2.5Y6/2 灰黄	2.5Y5/2 暗灰黄	6/8	
373	7区		黄灰色シルト	土師質土器	鍋	口径~体不明 以下不明 (残)	口径 体不明						(33.6)				2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	1/8 未 満	
374	7区			土師質土器	足釜	口径~体 子	口径~体 子						(22.4)				2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/2 灰黄	1/8	外面すず附着
375	7区		黄灰色シルト	白磁	椀	施軸	施軸					(15.8)				5Y8/2 灰白	5Y8/2 灰白	1/8 未 満	II-1	
376	7区			青磁	椀	施軸	施軸					(14.6)				7.5GY7/1 明緑灰	7.5GY7/1 明緑灰	1/8 未 満	龍泉窯系 I-5	
377	II区	擾乱32		青磁	椀	施軸	施軸									10Y6/2 中-7 灰	10Y6/2 中-7 灰	2/8	龍泉窯系青磁 I-5 類	
378	7区		黄灰色シルト	青磁	椀	施軸	施軸					(13.5)				7.5GY7/1 明緑灰	2.5Y8/2 灰白	1/8 未 満	龍泉窯系 III-2	
379	I区		黒色包含層 (0~10cm)	青磁	椀	施軸	施軸									2.5Y6/2 灰黄	2.5Y7/1 灰白	8/8	同安窯系	
380	III区	擾乱 黄色 シルト 層(下部)	9層	楽付	皿	施軸	施軸									N8/ 灰白	N8/ 灰白	1/8 未 満		

第27表 東坂元秋常遺跡出土金属器観察表

報文番号	調査区	遺構名	層位	器種	法量			材質	備考
					長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)		
142	6区	SD06		銅滓	2.7	2.2	1.3	5.63	
143	6区	SX01		銅滓	6.6	4.8	2.2	66.19	
144	6区	SD03		銅滓	3.0	2.4	1.6	7.37	
252	6区	SP16	ピット出土	銅銭	径 2.2	-	0.2	1.92	祥符元寶
269	6区	SD05	遺構検出 (西から5 本目の溝)	不明	径 (2.0)	高 (1.6)	-	3.45	銅地金 貼付

第28表 東坂元秋常遺跡出土石器観察表(1)

報文番号	調査区	遺構名	層位	器種	法量				石材	備考
					長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
22	2区	SK01		石鏃	1.9	1.2	0.3	0.69	#3011	
23	2区		黒色包含層(0~10cm)	石鏃	1.2	1.2	0.2	0.35	#3011	
24	2区		包含層上面 清掃	石鏃	2.2	1.3	0.3	0.81	#3011	
25	2区		黒色包含層(10~20cm)	石鏃	2.4	1.4	0.3	0.91	#3011	
26	2区		黒色包含層(10~20cm)	石鏃	2.4	1.7	0.3	1.05	#3011	
27	2区		黒色包含層(0~10cm)	石鏃	3.5	1.2	0.4	1.95	#3011	
28	4区		黒色包含層(20~30cm)	石鏃	1.6	1.4	0.4	0.75	#3011	
29	2区		黒色包含層(0~10cm)	石鏃	2.5	0.9	0.3	0.77	#3011	
30	4区		黒色包含層(0~10cm)	石鏃	1.8	1.0	0.4	0.84	#3011	
31	2区		黒色包含層(10~20cm)	打製石苞丁	5.5	5.0	1.1	35.18	#3011	
32	2区		集石(S44) 測量子-夕有	石核	5.8	3.3	0.6	15.95	#3011	
33	2区		黒色粘土層(10~20cm)	石核	4.8	6.5	1.0	31.76	#3011	
34	2区		上面精査	二次加工 ある剥片	3.8	5.0	1.7	23.09	#3011	
35	2区		黒色包含層(10~20cm)	縦長剥片	4.3	2.1	2.5	16.82	#3011	
36	2区		上面精査	縦長剥片	4.1	2.4	0.7	11.41	#3011	
37	2区		黒色包含層(0~10cm)	板状剥片 分割片	5.5	3.4	1.1	23.59	#3011	
38	2区		黒色包含層(0~10cm) 集石付近	石核	3.8	3.5	1.0	18.90	#3011	
39	2区		黒色包含層(10~20cm)	石核	5.7	3.3	1.1	20.82	#3011	
40	2区		黒色包含層(集石付近)(10~20cm)	石核	6.0	3.9	1.0	19.48	#3011	
41	2区		黒色包含層(10~20cm)	石核	6.0	3.9	2.1	53.21	#3011	
42	2区		黒色包含層(0~10cm)	石核	7.8	7.1	2.2	125.19	#3011	
43	2区		黒色粘土層(10~20cm)	楔状石核	4.3	2.5	0.8	15.61	#3011	
44	2区		黒色包含層(10~20cm)	楔状石核	4.3	3.9	1.1	25.10	#3011	

第29表 東坂元秋常遺跡出土石器観察表(2)

標文番号	調査区	遺構名	層位	器種	法量				石材	備考
					長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
45	2区		黒色包含層(10~20cm)	楔状石核	4.5	4.6	0.8	18.80	#2741	
46	2区		黒色包含層(0~10cm) 集石付近	楔状石核	4.2	6.3	0.9	30.47	#2741	
47	2区		黒色包含層(0~10cm)	楔状石核	4.0	7.6	1.4	41.53	#2741	
48	2区		機械掘削	楔状石核	4.6	5.1	1.3	46.51	#2741	
49	2区		黒色粘土層(10~20cm)	楔状石核	5.9	5.1	1.1	33.12	#2741	
50	2区		黒色粘土層 集石付近	楔状石核	4.3	8.0	2.3	77.74	#2741	
51	2区		黒色粘土層 集石部分	楔状石核	8.8	3.8	0.8	27.14	#2741	
52	2区		壁切り 遺構検出	楔状石核	5.0	7.8	2.5	117.72	#2741	
53	2区		黒色粘土層(10~20cm)	楔状石核	8.5	7.7	2.1	126.21	#2741	
54	2区		黒色粘土層(10~20cm)	楔状石核	6.2	9.7	1.7	121.91	#2741	
141	6区	SD06		砥石	4.7	2.8	1.2	16.86	凝灰岩?	
251	V区	SP50埋土		砥石	18.5	6.7	6.6	1090.04	凝灰岩?	
281	7区	SD03		砥石	8.5	7.1	4.2	294.99	砂岩	
381	7区		西部 黄褐色粘質シルト層	石鏃	2.0	1.5	0.3	0.57	黒曜石	
382	7区		試掘より西 黄灰色シルト	石鏃	1.9	1.6	0.3	0.99	#2741	
383	7区		試掘より西 黄灰色シルト	石鏃	2.0	0.9	0.3	0.67	#2741	
384	7区		試掘トレンチ	石鏃	2.3	2.0	0.4	1.58	#2741	
385	II区	SD01 S1		石鏃	2.5	1.6	0.4	1.37	#2741	
386	7区		ハイド中	石鏃	2.9	1.3	0.4	1.29	#2741	
387	6区		黒色包含層	石鏃	3.4	1.1	0.4	1.42	#2741	
388	6区	SD03		石鏃	1.5	1.7	0.3	0.75	#2741	
389	II区	SD12に切られる包含層		石鏃	1.5	1.8	0.3	0.76	#2741	
390	VI区	上面土掘削(Mn沈着土)		石鏃	1.6	1.4	0.3	0.51	#2741	

第30表 東坂元秋常遺跡出土石器観察表(3)

報文番号	調査区	遺構名	層位	器種	法量				石材	備考
					長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
391	6区	SD08		石錘	1.8	1.5	0.3	0.77	#効件	
392	7区	SD03		石錘	2.1	1.4	0.4	0.81	#効件	
393	VI区	上面土掘削 (Mn沈着土)		石錘	2.3	2.2	0.3	0.79	#効件	
394	7区		試掘より西 黄灰色シルト	石錘	2.4	1.7	0.3	0.92	#効件	
395	6区		東部 黑色粘質土	石錘	2.8	1.8	0.4	1.54	#効件	
396	II区	SD01		石錘	3.8	1.2	0.5	1.83	#効件	
397	6区		黒色包含層	石錘	3.0	1.3	0.5	1.83	#効件	
398	6区		精査中	石錘	3.7	1.4	0.4	1.86	#効件	
399	II区	攪乱32		石錘	2.8	2.1	0.5	2.76	#効件	
400	6区	SK01		石錘	2.8	1.3	0.2	1.07	#効件	
401	7区		試掘トレンチ	石錘	1.8	1.1	0.4	0.93	#効件	
402	7区		表土掘削	石錘	3.3	2.7	0.6	5.96	#効件	
403	III区	SP20埋土 (深い部分)		打製石苞丁	4.4	3.3	1.0	13.91	#効件	
404	II区	攪乱17		スレコ -	4.4	5.4	1.1	26.78	#効件	
405	6区		黒色包含層	スレコ -	7.8	3.9	1.2	36.61	#効件	
406	I区	SD10		楔状石核	4.3	3.8	0.8	18.48	#効件	
407	6区		遺構検出	楔状石核	4.0	6.5	0.8	24.41	#効件	
408	7区	SD01		楔状石核	5.0	6.1	1.5	49.36	#効件	
409	III区	SD04		下層 楔状石核	8.3	3.8	1.3	57.73	#効件	
410	6区	SK01	TS取り上/ S1	石核	14.3	10.0	3.3	616.63	#効件	